

1

Atermのバージョンアップと 設定内容の記録

IWX70とRS7に内蔵されている不揮発性メモリに記憶されているファームウェアをバージョンアップしたり、設定内容をハードディスクなどに保存しておいて、あとで復元することができます。

Atermをバージョンアップする

Atermの設定内容を記録する

Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

1-1 . Aterm をバージョンアップする

バージョンアップとは

Atermを動作させるためのプログラムは「ファームウェア」といい、IWX70とRS7に内蔵されている不揮発性メモリ(フラッシュメモリ)に記憶されています。このファームウェアをバージョンアップして、IWX70やRS7に新しい機能を追加することができます。ファームウェアをバージョンアップするには、Atermのホームページ『AtermStation』にアクセスしながらバージョンアップする「オンラインバージョンアップ」(Windowsのみ)と、添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』に収録されている『らくらくバージョンアップ』を使用する方法があります。



バージョンアップを実行するには、バージョンアップするIWX70またはRS7のシリアルポートまたはUSBポートに、パソコンを接続しておく必要があります。『らくらくバージョンアップ』は『らくらくアシスタント』をインストールすると一緒にインストールされます。らくらくアシスタントをインストールしていない場合は、取扱説明書の「3-2.らくらくアシスタントをインストールする」(Windows)または「4-2.ユーティリティをインストールする」(Macintosh)を参照してインストールしてください。『らくらくバージョンアップ』では、ブラウザソフトを使用します。バージョンアップを実行するには、Internet Explorer 3.0以上が必要です。

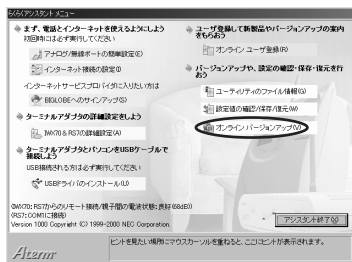


バージョンアップ中はIWX70またはRS7の電源を切ったり、ケーブルを抜かないでください。バージョンアップの途中でエラーが発生した場合は処理を中断し、『らくらくバージョンアップ』を再起動してはじめてやり直してください。バージョンアップが失敗すると、電話がかけられなくなるなど、ターミナルアダプタとしての機能がまったく使えなくなることがあります。その場合は、強制ダウンロードモードを実行し、バージョンアップをやり直してください。(取扱説明書「8-4. AtermIWX70&RS7ワイヤレスセット製品仕様」)IWX70またはRS7のそれぞれに対応したファームウェアを使用してください。IWX70用、RS7用以外のファームウェアでバージョンアップを実行すると、正しく動作しなくなることがあります。ファームウェアのバージョンによっては、『らくらくアシスタント』のバージョンアップが必要な場合があります。その場合はAtermStationに記載されている内容を確認の上、『らくらくアシスタント』もダウンロードしてください。『らくらくバージョンアップ』はNECが独自に提供するサービスであり、すべての機能をバージョンアップで対応することを保証するものではありません。ファームウェアをダウンロードする際の通信費用はお客様の負担になります。あらかじめご了承ください。

オンラインバージョンアップを使用したバージョンアップ

Atermのホームページ『AtermStation』に接続し、IWX70またはRS7のバージョンアップをおこないます。『らくらくアシスタント』で操作します。Windowsのみ利用できます。

- 1 バージョンアップするIWX70またはRS7にパソコンを接続しておきます。
- 2 [らくらくアシスタント]を起動します。
- 3 [らくらくアシスタントメニュー]で[オンラインバージョンアップ]をクリックします。



- 4 画面に表示される内容を確認し、**はい** ボタンをクリックします。
オンラインバージョンアッププログラムが起動します。
- 5 画面に表示される内容にしたがって、バージョンアップを実行します。
自動的に AtermStation にアクセスし、バージョンアップが実行されます。

お知らせ

IWX70の不揮発性メモリに記憶されているファームウェアのバージョンは、IWX70前面のファンクションボタンで確認できます。(取扱説明書「6-1. ファンクションボタンで操作する」)

『らくらくバージョンアップ』を使用したバージョンアップ (Windows)

Windowsを搭載したパソコンで、『らくらくバージョンアップ』を使ってバージョンアップを実行します。

ここではWindows98搭載のパソコンにIWX70を接続した場合を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。

- 1 ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 『らくらくバージョンアップ』を起動します。

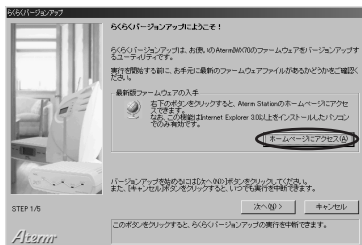
IWX70をバージョンアップするとき **はい** [スタート] [プログラム] [Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ] [IWX70らくらくバージョンアップ]を選択します。

RS7をバージョンアップするとき **はい** [スタート] [プログラム] [Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ] [RS7らくらくバージョンアップ]を選択します。

[らくらくバージョンアップ]画面が表示されます。

AtermStationから最新のファームウェアをダウンロードする場合は ③ に進みます。CD-ROMに収録されているファームウェアを使用するなど、すでにファームウェアがある場合は ⑩ に進みます。

3 ホームページにアクセス ボタンをクリックします。



プロバイダに接続してブラウザソフトが起動し、自動的にAtermStationにアクセスします。

4 AtermStationのバージョンアップメニューで「機種」をIWX70、またはRS7にし、「OS」で「Windows95/98/NT4.0/2000/Me」を選択します。

バージョンアップ内容や注意などが表示されます。

5 表示された内容をよく読み、その内容にしたがってファイルをダウンロードします。

6 ダウンロードするファイルの保存場所を指定します。



ファイルがダウンロードされ、パソコンに保存されます。

ファイルを保存する場所は、メモするなどして記録しておいてください。

7 閉じる ボタンをクリックします。

8 [ファイル] [閉じる]を選択し、ブラウザソフトを終了します。

9 タスクトレイの[ダイヤルアップネットワークモニター]アイコンをダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックして回線の接続を切断します。

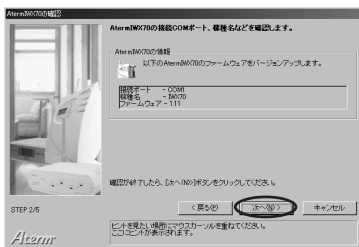
[らくらくバージョンアップ]画面にもどります。

10 次へ ボタンをクリックします。



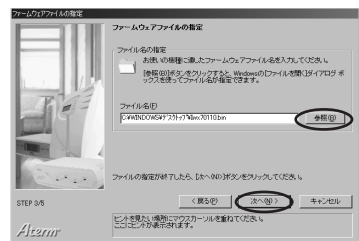
IWX70またはRS7の不揮発性メモリに記憶されている現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

11 次へ ボタンをクリックします。



[ファームウェアファイルの指定]画面が表示されます。

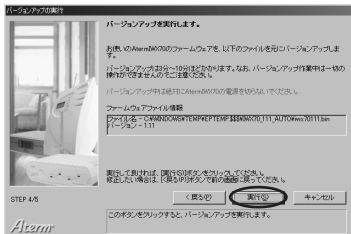
12 参照 ボタンをクリックし、ダウンロードしたファイルを指定して次へボタンをクリックします。



[バージョンアップの実行]画面が表示されます。

13

実行 ボタンをクリックします。



バージョンアップが開始します。
 IWX70の場合は、前面のPOWERランプとPHSランプが赤色に点灯し、液晶ディスプレイには「AtermIWX70 タウンロード チュウ」と表示されます。
 RS7の場合は、前面のPOWERランプとPHSランプが赤色に点灯します。
 [バージョンアップ終了]画面が表示されます。

14

終了 ボタンをクリックします。



バージョンアップが終了します。

お知らせ

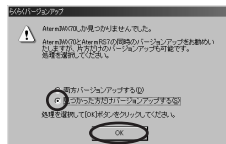
『らくらくバージョンアップ』を使わないで、直接 Aterm Station にアクセス (<http://aterm.cplaza.ne.jp/>) して、ファイルをダウンロードすることもできます。その場合は、『らくらくバージョンアップ』を起動したあと、10 から始めてください。

オートバージョンアップ

ダウンロードしたファイルがオートバージョンアップ型の場合は、次の手順で実行します。

1 ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
 バージョンアッププログラムが起動します。

2 **次へ** ボタンをクリックします。
 [らくらくバージョンアップ]が起動します。
 次の画面が表示されたときは内容を確認し、「見つかった方だけバージョンアップする」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



3 画面に表示される内容にしたがってバージョンアップをおこないます。

お知らせ

IWX70 または RS7 に、すでに記憶されているファームウェアのバージョンより古いバージョンのファームウェアをインストールしようとすると、警告が表示されます。

『らくらくバージョンアップ』を使用したバージョンアップ (Macintosh)

Macintoshでは『らくらくバージョンアップ』を使って、バージョンアップを実行します。

1 ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 [IWX70ユーティリティ]フォルダをダブルクリックし、[IWX70らくらくバージョンアップ]アイコンをダブルクリックします。

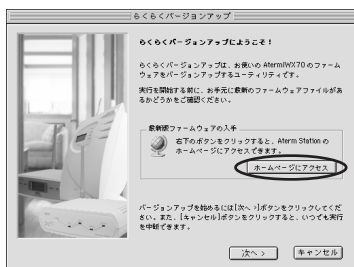


IWX70らくらくバージョンアップ

[らくらくバージョンアップ]画面が表示されます。

AtermStationから最新のファームウェアをダウンロードする場合は ③ に進みます。CD-ROMに収録されているファームウェアを使用するなど、すでにファームウェアがある場合は ⑦ に進みます。

3 [ホームページ]にアクセス ボタンをクリックします。



プロバイダに接続してブラウザソフトが起動し、自動的にAtermStationにアクセスします。

4 AtermStationのバージョンアップメニューで「機種」をIWX70、またはRS7にし、「OS」で「Macintosh」を選択します。

バージョンアップ内容や注意などが表示されます。

5 表示された内容をよく読み、その内容にしたがってファイルをダウンロードします。

ファイルがダウンロードされ、パソコンに保存されます。

6 [ファイル] [終了]を選択し、ブラウザソフトを終了します。

7 [リモートアクセス](または[PPP])画面の [接続を切る] ボタンをクリックしてからクローズボックスをクリックし、回線の接続を切断します。

[らくらくバージョンアップ]画面にもどります。

8 [キャンセル] ボタンをクリックします。

9 ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。

ダウンロードしたファイルは自動解凍形式で圧縮されています。ダブルクリックすると解凍されます。

解凍後のファイル名と保存場所をメモするなどして記録しておいてください。

10 [IWX70ユーティリティ]フォルダをダブルクリックし、[IWX70らくらくバージョンアップ]アイコンをダブルクリックします。

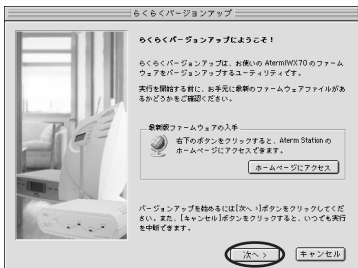


IWX70らくらくバージョンアップ

[らくらくバージョンアップ]画面が表示されます。

11

次へ ボタンをクリックします。



IWX70の揮発性メモリに記憶されている現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

12

次へ ボタンをクリックします。



13

参照 ボタンをクリックし、ダウンロードして解凍したファイルを指定します。



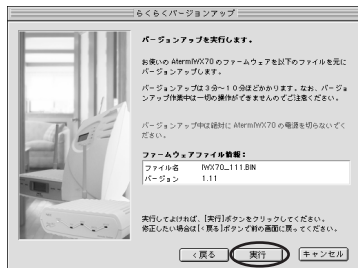
14

次へ ボタンをクリックします。

バージョンアップするファームウェアの情報が表示されます。

15

実行 ボタンをクリックします。



バージョンアップが開始して IWX70 前面の POWER ランプと PHS ランプが赤色に点灯し、液晶ディスプレイには「AtermIWX70 タ」ウンロード」チュウ」と表示されます。

[バージョンアップ終了]画面が表示されます。

16

終了 ボタンをクリックします。



バージョンアップが終了します。

お知らせ

『らくらくバージョンアップ』を使わずに、直接 Aterm Station にアクセス (<http://aterm.cplaza.ne.jp/>) して、ファイルをダウンロードすることもできます。その場合は、『らくらくバージョンアップ』を起動したあと、11 から始めてください。

バージョンアップの実行 (RS7)

ダウンロードしたファイルをRS7の
不揮発性メモリに書き込み、ファーム
ウェアを書き換えます。

- 1 [RS7ユーティリティ]フォルダをダブル
クリックし、[AtermRS7Version
Up]アイコンをダブルクリックします。



AtermRS7 VersionUp

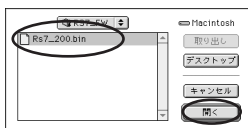
[らくらくバージョンアップ]画面が表示
されます。

- 2 **ファイル** ボタンをクリックします。



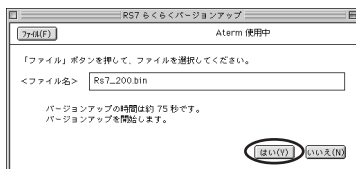
ファイルを指定する画面が表示されます。

- 3 ダウンロードしたファイルを指定し、
開く ボタンをクリックします。



指定したファイルのファイル名が表示
されます。

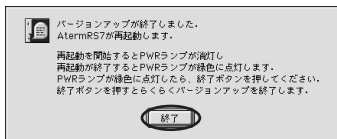
- 4 **はい** ボタンをクリックします。



バージョンアップが開始し、RS7 前面の
POWER ランプと PHS ランプが赤色に
点灯します。

バージョンアップが終了すると、確認画
面が表示されます。

- 5 **終了** ボタンをクリックします。



バージョンアップが終了します。



IWX70 または RS7 にすでに
記憶されているファームウェ
アのバージョンより古いパー
ジョンのファームウェアをイ
ンストールしようとするど、
警告が表示されます。

1-2 . Aterm の設定内容を記録する

『らくらくアシスタント』や『らくらくテレホン設定』で設定した内容は、IWX70 と RS7 に内蔵されている不揮発性メモリ (フラッシュメモリ) に記憶されています。この設定内容を一覧表示したり、パソコンのハードディスクなどに保存したりすることができます。保存した設定情報は復元できるので、設定を変更して IWX70 や RS7 が正しく動作しなくなった場合や、接続するパソコンを変えたり OS を再インストールした場合などに、保存しておいた設定にもどすことができます。IWX70 と RS7 の設定が完了したら、設定値を保存するようにしてください。

Windows で記録する

設定内容を記録するには『らくらくバックアップ』を使用します。『らくらくバックアップ』は、『らくらくアシスタント』をインストールすると一緒にインストールされます。らくらくアシスタントをインストールしていない場合は、取扱説明書の「3-2. らくらくアシスタントをインストールする」を参照してインストールしてください。

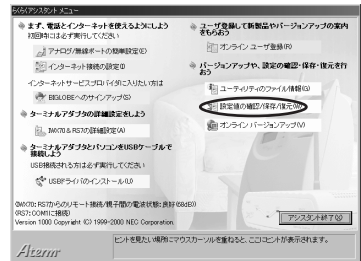
ここでは Windows 98 搭載のパソコンに IWX70 を接続した場合を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。RS7 を接続した場合の手順も同様です。

設定の保存

- 1** **【スタート】** **【プログラム】** **【Aterm IWX70 & RS7 ユーティリティ】** **【IWX70 & RS7 らくらくアシスタント】** を選択します。

『らくらくアシスタントメニュー』が表示されます。

- 2** **【設定値の確認 / 保存 / 復元】** をクリックします。



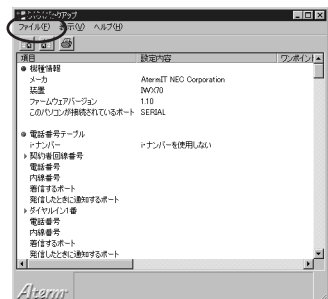
『対象機種選択』画面が表示されます。

- 3** 設定値を保存する Aterm を選択し、**【OK】** ボタンをクリックします。



『らくらくバックアップ』画面が表示されます。

- 4** **【ファイル】** **【保存】** を選択します。



『名前を付けて保存』画面が表示されます。

- 5 ファイル名と保存先を指定します。
表示されているファイル名、保存先で
よければそのままにします。



以前に保存したファイル名と同じ名前にすると、ファイルは上書きされます。新規に保存する場合は、ファイル名を変更してください。

- 6 **保存** ボタンをクリックします。
設定情報が、指定した場所に保存されます。
- 7 [ファイル] [終了] を選択します。
[らくらくアシスタントメニュー]にもどります。

設定の復元

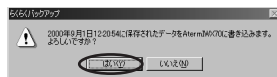
保存した設定情報呼び出して、IWX70
またはRS7 に設定されている内容を
書き換えます。

- 1 「設定の保存」の 4 (P.9)の画面で
[ファイル] [復元] を選択します。
[開く] 画面が表示されます。
- 2 設定を保存したファイルを指定し、
開く ボタンをクリックします。



保存の確認の画面が表示されます。

- 3 **はい** ボタンをクリックします。



IWX70またはRS7に記憶されていた設定が、保存しておいた設定に書き換わります。

- 4 [ファイル] [終了] を選択します。
[らくらくアシスタントメニュー]にもどります。



異なる機種の設定情報を指定して、設定を書き換えることはできません。

設定内容の印刷

- 1 「設定の保存」の 4 (P.9)の画面で
[ファイル] [印刷] を選択します。
[印刷] 画面が表示されます。
- 2 **OK** ボタンをクリックします。



設定内容の一覧が印刷されます。

- 3 [ファイル] [終了] を選択します。
[らくらくアシスタントメニュー]にもどります。

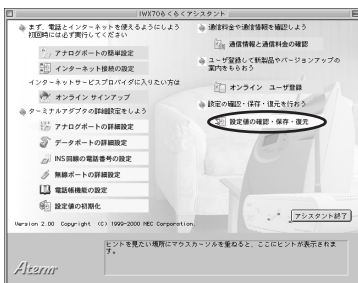
『らくらくバックアップ』を使って IWX70 に設定された内容を記録することができます。『らくらくバックアップ』は、『らくらくアシスタント』をインストールすると一緒にインストールされます。らくらくアシスタントをインストールしていない場合は、取扱説明書の「4-2.ユーティリティをインストールする」を参照してインストールしてください。

設定の保存

1 [IWX70らくらくアシスタント] を起動します。

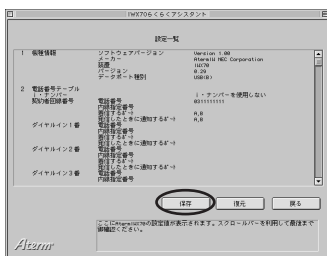
[IWX70らくらくアシスタント] 画面が表示されます。

2 [設定値の確認・保存・復元] をクリックします。



IWX70 の設定一覧が表示されます。

3 **保存** ボタンをクリックします。



[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

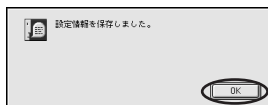
4 ファイル名と保存先を指定します。表示されているファイル名、保存先でよければそのままにします。



以前に保存したファイル名と同じ名前にすると、ファイルは上書きされます。新規に保存する場合は、ファイル名を変更してください。

5 **保存** ボタンをクリックします。設定情報が、指定した場所に保存されます。

6 **OK** ボタンをクリックします。



7 **戻る** ボタンをクリックします。

[IWX70らくらくアシスタント] 画面にもどります。

設定の復元

保存した設定情報を呼び出して、IWX70 に設定されている内容を書き換えます。

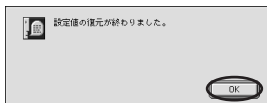
- 1 「設定の保存」の 3 (P.11) の画面で、**復元** ボタンをクリックします。
ファイルを指定する画面が表示されます。

- 2 設定を保存したファイルを指定し、**開く** ボタンをクリックします。



IWX70 に記憶されていた設定が、保存しておいた設定に書き換わります。

- 3 **OK** ボタンをクリックします。



- 4 **戻る** ボタンをクリックします。
[IWX70 らくらくアシスタント] 画面にもどります。



お知らせ

異なる機種の設定情報を指定して、設定を書き換えることはできません。

2

手動セットアップ

らくらくアシスタントでの設定がうまくできないときは、手動でUSBドライバのインストールやインターネットに接続するための各設定をおこないます。

USBドライバの手動インストール

インターネット接続の手動設定

Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

2-1 . USB ドライバの手動インストール (Windows Me)

IWX70またはRS7のUSBポートにパソコンを接続する場合は、パソコンにIWX70 / RS7用のUSBドライバをインストールする必要があります。USBドライバは『らくらくアシスタント』で自動的にインストールできます。(取扱説明書「3-3 . らくらくアシスタントで簡単に設定する」)

ここでは、USBドライバがうまくインストールできなかった場合に、手動でインストールする手順を説明します。

USBケーブルはドライバのインストールの途中で接続するので、まだパソコンと接続しないでください。

IWX70とRS7用のUSBドライバは同じものです。

USB ドライバのインストール

WindowsのユニバーサルシリアルバスコントローラにIWX70 / RS7用のUSBドライバを組み込みます。

IWX70またはRS7は電源を切った状態にしておいてください。

ここではWindows® Me搭載のパソコンにIWX70を接続した場合を例に説明します。RS7を接続した場合の手順も同様です。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

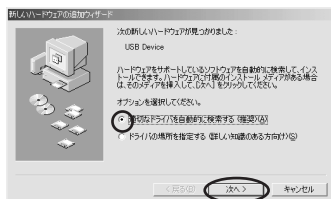
CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 USBケーブルでパソコンとIWX70またはRS7を接続します。
(取扱説明書「3-3 . らくらくアシスタントで簡単に設定する」)

5 IWX70の電源を入れます。
RS7の場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。

[新しいハードウェアの追加ウィザード]が起動します。

6 「適切なドライバを自動的に検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



7 **完了** ボタンをクリックします。



USBドライバが組み込まれました。

8 CD-ROMドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROMを取り出します。

続けてCOMポートへの組み込みをおこないます。次の手順に進みます。

9 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは 図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

10 [コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

11 [ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックします。



ハードウェアの
追加

[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されます。

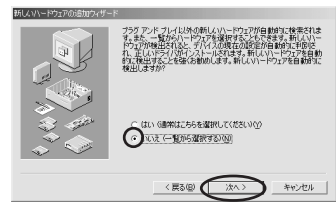
12 次へ ボタンをクリックします。



13 次へ ボタンをクリックします。



14 「いいえ (一覧から選択する)」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



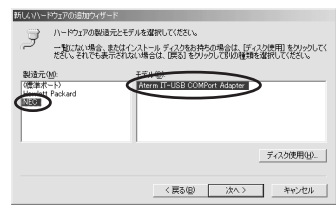
「ハードウェアの種類」が表示されます。

15 「ハードウェアの種類」の中から「ポート (COMとLPT)」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



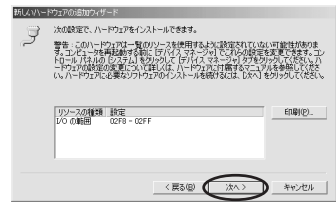
ハードウェアの「製造元」と「モデル」の画面が表示されます。

16 「製造元」の中から「NEC」を選択し、「モデル」の中から「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



17 次へ ボタンをクリックします。

18 リソースの割り当てを確認し、次へ ボタンをクリックします。



19

「新しいハードウェアに必要なソフトウェアのインストールが完了しました」と表示されていることを確認し、**完了** ボタンをクリックします。



[システム設定の変更]画面が表示されます。

20

はい ボタンをクリックします。



Windowsが終了し、パソコンの電源が切れます。

21

パソコンの電源を ON にします。

インストールの確認

USBドライバがCOMポートに組み込まれたか確認します。

1

デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

2

[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

3

[システム]アイコンをダブルクリックします。



システム

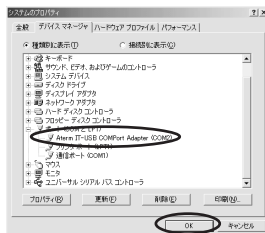
[システムのプロパティ]画面が表示されます。

4

[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

5

一覧の中の「ポート (COM と LPT)」の + をクリックし、インストールした「Aterm IT-USB COMPort Adapter」が表示されていることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



この画面は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」が「COM2」ポートに組み込まれた場合の例です。お使いのパソコンによってはCOM1やCOM3などに組み込まれることがあります。

「Aterm IT-USB COMPort Adapter」の前に①が表示されているときは、インストールが失敗した可能性があります。USBドライバをいったんアンインストールし、再度インストールを実行してください。

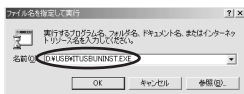
USBドライバのアンインストール

USBドライバを削除します。添付CD-ROM『AtermIW70&RS7ユーティリティ集』に収録されているアンインストールを使用します。

- ① 起動中のアプリケーションソフトを終了します。
- ② 添付CD-ROM『AtermIW70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。
- ③ [CD-ROMの終了]をクリックします。
- ④ **スタート** [ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ⑤ 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q: ¥USB¥ITUSBUNINST.EXE

(QはCD-ROMドライブ名)



- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。

- ⑦ **OK** ボタンをクリックします。



USBドライバが削除されます。

- ⑧ **OK** ボタンをクリックします。



パソコンが再起動されます。

- ⑨ CD-ROMドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROMを取り出します。

2-2 . USB ドライバの手動インストール (Windows98/Windows95)

IWX70またはRS7のUSBポートにパソコンを接続する場合は、パソコンにIWX70 / RS7用のUSBドライバをインストールする必要があります。USBドライバは『らくらくアシスタント』で自動的にインストールできます。(取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは、USBドライバがうまくインストールできなかった場合に、手でインストールする手順を説明します。

USBケーブルはドライバのインストールの途中で接続するので、まだパソコンと接続しないでください。

IWX70とRS7用のUSBドライバは同じものです。

USBポートを使用するときの注意 (Windows95)

Windows® 95でUSBポートを使用するときは、接続する前に以下の点を確認してください。

Windows 95のバージョンが「OEM Service Release 2.1 (OSR2.1)」以降の場合のみ使用できます。

次の方法でバージョンを確認してください。

- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- ② [システム] アイコンをダブルクリックします。
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブ内に「Microsoft Windows 95 4.00.950B」と表示されていることを確認します。
- ④ **OK** ボタンをクリックします。
[システムのプロパティ] が終了し、[コントロールパネル]ウィンドウにもどります。

OHCIコントローラ採用のパソコンでは、USBポートにUSBケーブルを差した状態ではWindows95が終了できないことがあります。

パソコンが起動している状態でUSBケーブルを抜き差しすると、機能が停止してパソコンが動作しなくなる場合があります。



RS7はWindows95に対応していません。

USB ソフトウェアの確認 (Windows 95)

Windows95 で USB を使用する場合に必要な「USBソフトウェア」がパソコンにインストールされているか確認し、IWX70 で使用できるバージョンかどうかを確認します。

Windows® 98 の場合はこの操作は不要です。「USBドライバのインストール」へ進みます。

1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

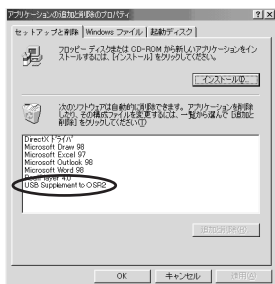
2 [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。



アプリケーションの追加と削除

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

3 「USB Supplement to OSR2」があるか確認します。



「USB Supplement to OSR2」がない場合は、USBソフトウェアがインストールされていません。お使いのパソコンの製造メーカーにお問い合わせください。

見つかった場合は「USB Supplement to OSR2」のバージョンを確認します。次の手順に進みます。

4 **スタート** [検索] [ファイルやフォルダ] を選択します。

[検索:条件=すべてのファイル]画面が表示されます。

5 「名前」に「USBD.SYS」と入力します。

6 「探す場所」で Windows95 がインストールされているハードディスクを選択し、「サブフォルダも探す」を にします。



7 **検索開始** ボタンをクリックします。

検索結果が表示されます。

8 見つかった「USBD.SYS」ファイルの上で右クリックし、[プロパティ]を選択します。

[Usbd.sysのプロパティ]画面が表示されます。

9 [バージョン情報] タブをクリックし、「ファイルバージョン」が「4.03.1213」以降かを確認します。



「ファイルバージョン」が「4.03.1212」の場合、IWX70 では使用できません。

10 **キャンセル** ボタンをクリックします。

11 [検索]画面を閉じます。



お知らせ

NEC製PC98-NXシリーズの場合、③ (P.19)の画面で「USB Supplement to OSR2」が表示されませんが、USB ソフトウェアはインストールされています。



お願い

「USB Supplement to OSR2」がインストールされていても、パソコンのBIOS設定を変更しないとUSBポートが使用できない場合があります。BIOS設定の方法はパソコンによって異なりますので、パソコンの取扱説明書などを参照してください。

③ (P.19)の画面で「USB Supplement to OSR2」をダブルクリックすると、USB ソフトウェアが削除されるので注意してください。

ホームページ『AtermStation』で紹介している動作確認済みパソコンリストの、USB ソフトウェアのバージョンを参考にしてください。

WindowsのユニバーサルシリアルバスコントローラにIWX70 / RS7 用のUSB ドライバを組み込みます。IWX70またはRS7 は電源を切った状態にしておいてください。

ここではWindows98 搭載のパソコンにIWX70を接続した場合を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS7 を接続した場合の手順も同様です。

①

パソコンを起動します。

ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

②

添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7 ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

③

[CD-ROMの終了]をクリックします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

④

USBケーブルでパソコンとIWX70またはRS7 を接続します。

(取扱説明書「3-3 . らくらくアシスタントで簡単に設定する」)

⑤

IWX70 の電源を入れます。

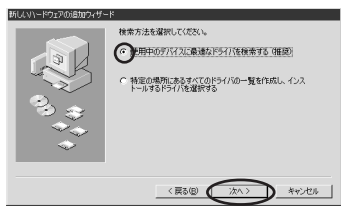
RS7の場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。

[新しいハードウェアの追加ウィザード]が起動します。

6 次へ ボタンをクリックします。



7 「使用中のデバイスに最適な…」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



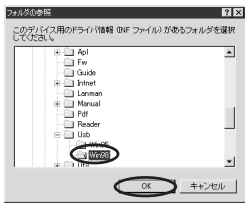
8 「検索場所の指定」を [] にし、「参照」ボタンをクリックします。



[フォルダの参照] 画面が表示されます。

9 CD-ROM のアイコンをダブルクリックし、「Usb」フォルダをダブルクリックします。

10 「Win 98」フォルダをクリックして [OK] ボタンをクリックします。
Windows 95 の場合は「Win 95」フォルダを指定します。



[新しいハードウェアの追加ウィザード] の「検索場所の指定」画面にもどります。

11 次へ ボタンをクリックします。



「Aterm IT-USB USBPort Adapter が CD-ROM から検索されます。

12 次へ ボタンをクリックします。



ファイルがコピーされます。

13 完了 ボタンをクリックします。



USB ドライバが組み込まれました。

14 CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROM を取り出します。

続けて COM ポートへの組み込みをおこないます。次の手順に進みます。

15 [スタート] [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

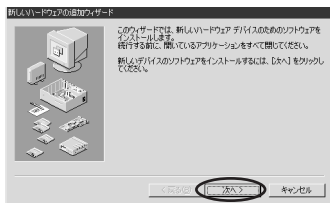
- 16 [ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックします。



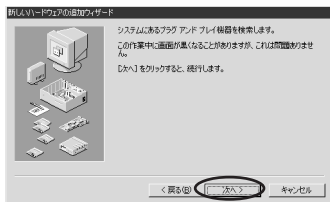
ハードウェアの追加

[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されます。

- 17 次へ ボタンをクリックします。



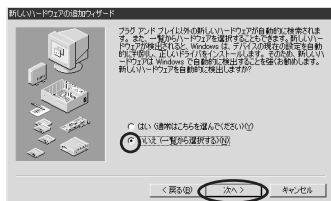
- 18 次へ ボタンをクリックします。



- 19 「デバイスは一覧にない」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



- 20 「いいえ (一覧から選択する)」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



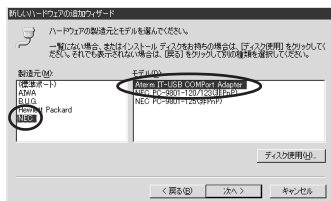
「ハードウェアの種類」が表示されます。

- 21 「ハードウェアの種類」の中から「ポート (COM/LPT)」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



ハードウェアの「製造元」と「モデル」の画面が表示されます。

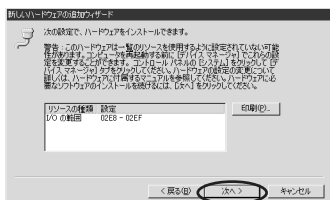
- 22 「製造元」の中から「NEC」を選択し、「モデル」の中から「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



- 23 次へ ボタンをクリックします。

24

リソースの割り当てを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



Windows98 の場合は 24 に進みます。

Windows95 の場合に次の画面が表示されたときは、「A term IT-USB COMPort Adapter」がWindows95の「serialui.dll」を使用するためです。以下の操作をしてください。

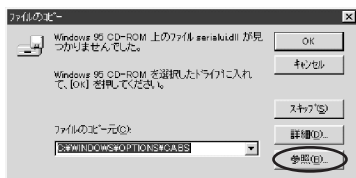


1 **OK** ボタンをクリックします。

Windows95のCD-ROMからコピーする場合は、CD-ROMをセットしてから **OK** ボタンをクリックします。

[ファイルのコピー]画面が表示されます。

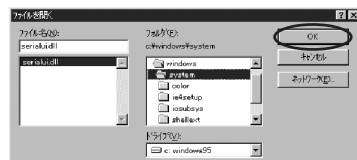
2 **参照** ボタンをクリックします。



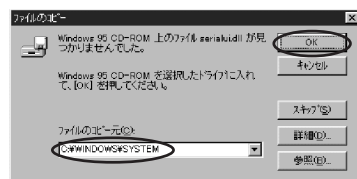
3 Windows95がインストールされているフォルダ内の「system」フォルダをダブルクリックします。

Windows95のCD-ROMを指定する場合は、「Win95」フォルダをダブルクリックします。

4 **OK** ボタンをクリックします。



5 「ファイルのコピー元」に 3 で選択したフォルダが表示されていることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面にもどります。

25

「新しいハードウェアに必要なソフトウェアのインストールが完了しました」と表示されていることを確認し、**完了** ボタンをクリックします。



[システム設定の変更]画面が表示されます。

26

はい ボタンをクリックします。



Windowsが終了し、パソコンの電源が切れます。

27

パソコンの電源をONにします。

インストールの確認

USBドライバがCOMポートに組み込まれたか確認します。

- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- ② [システム]アイコンをダブルクリックします。

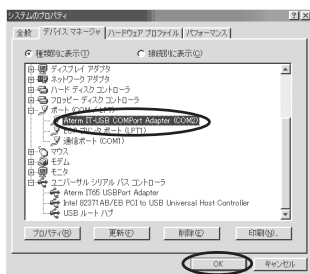


システム

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

- ③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。

- ④ 一覧の中の「ポート (COM/LPT)」の + をクリックし、インストールした「Aterm IT-USB COMPort Adapter」が表示されていることを確認して **OK** ボタンをクリックします。



この画面は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」が「COM2」ポートに組み込まれた場合の例です。お使いのパソコンによってはCOM1やCOM3などに組み込まれることがあります。

「Aterm IT-USB COMPort Adapter」の前に **!** が表示されているときは、インストールが失敗した可能性があります。USBドライバをいったんアンインストールし、再度インストールを実行してください。

USBドライバのアンインストール

USBドライバを削除します。添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』に収録されているアンインストーラを使用します。

- ① 起動中のアプリケーションソフトを終了します。

- ② 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

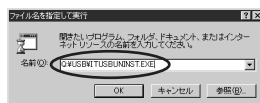
- ③ [CD-ROMの終了]をクリックします。

- ④ **スタート** [ファイル名を指定して実行]を選択します。

- ⑤ 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q:¥USB¥ITUSBUNINST.EXE

(QはCD-ROMドライブ名)



- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。

- ⑦ **OK** ボタンをクリックします。



USBドライバが削除されます。

- ⑧ **OK** ボタンをクリックします。



パソコンが再起動されます。

- ⑨ CD-ROMドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROMを取り出します。

2-3 . USB ドライバの手動インストール (Windows2000)

IWX70 または RS7 の USB ポートにパソコンを接続する場合は、パソコンに IWX70 / RS7 用の USB ドライバをインストールする必要があります。USB ドライバは『らくらくアシスタント』で自動的にインストールできます。(取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは、USB ドライバがうまくインストールできなかった場合に、手動でインストールする手順を説明します。

USB ケーブルはドライバのインストールの途中で接続するので、まだパソコンと接続しないでください。

USB ドライバのインストールをするには、Administrator の権限が必要です。[コントロールパネル]の[ユーザーとパスワード]の設定を変更している場合は、取扱説明書「7-1.困ったときのQ&A」を参照してください。

IWX70 と RS7 用の USB ドライバは同じものです。

USB ドライバのインストール

Windows のユニバーサルシリアルバスコントローラに、IWX70 / RS7 用の USB ドライバを組み込みます。IWX70 または RS7 は電源を切った状態にしておいてください。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付 CD-ROM『Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

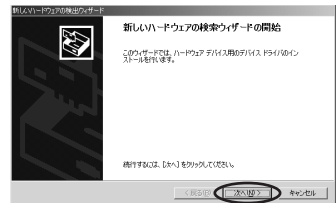
CD-ROM をセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 USB ケーブルでパソコンと IWX70 または RS7 を接続します。
(取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」)

5 IWX70 の電源を入れます。
RS7 の場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。

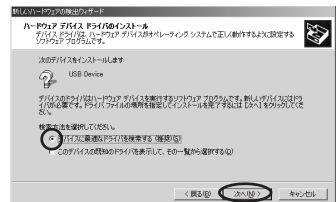
[新しいハードウェアの検出ウィザード]が起動します。

次へ ボタンをクリックします。



検索方法を選択する画面が表示されます。

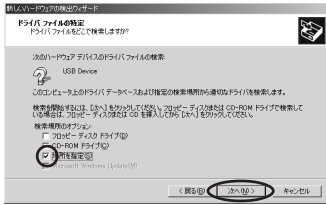
7 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



検索場所を指定する画面が表示されます。

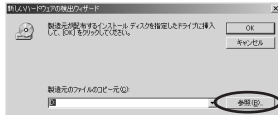
8

「検索場所のオプション」で「場所を指定」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。



9

参照 ボタンをクリックします。



[ファイルの場所] 画面が表示されます。

10

[マイコンピュータ] アイコンをクリックし、CD-ROMのアイコンをダブルクリックします。



11

「Usb」フォルダをダブルクリックし、「Win2000」フォルダをダブルクリックして「開く」ボタンをクリックします。

製造元のファイルのコピー元を指定する画面にもどります。

12

OK ボタンをクリックします。



「Aterm IT 128K Support Series for USB」が CD-ROM から検索されます。

13

次へ ボタンをクリックします。



ファイルがコピーされます。

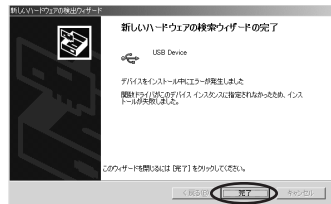
14

次の画面が表示されたときは、はい ボタンをクリックします。



15

完了 ボタンをクリックします。



USB ドライバが組み込まれました。

16

CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROM を取り出します。

インストールの確認

USBドライバがCOMポートに組み込まれたか確認します。

- 1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- 2 [システム]アイコンをダブルクリックします。

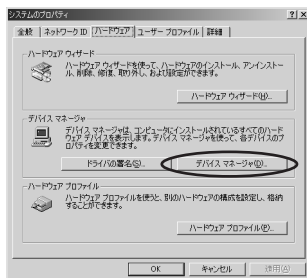


システム

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

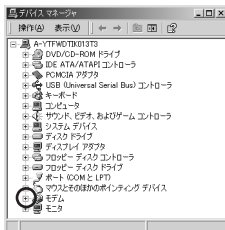
- 3 [ハードウェア]タブをクリックします。

- 4 **デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。

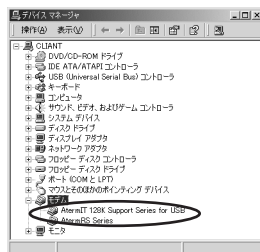


[デバイスマネージャ]ウィンドウが表示されます。

- 5 [モデム]アイコンの前の[+]をクリックします。



- 6 「AtermIT 128K Support Series for USB」と表示されることを確認します。



- 7 [デバイスマネージャ]ウィンドウを閉じます。


[システムのプロパティ]画面にもどります。

- 8 **OK** ボタンをクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウにもどります。

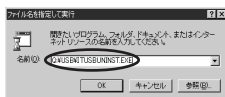
USB ドライバのアンインストール



USB ドライバを削除します。添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』に収録されているアンインストーラを使用します。

- ① 起動中のアプリケーションソフトを終了します。
- ② 添付 CD-ROM 『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。
- ③ [CD-ROM の終了] をクリックします。
- ④  [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- ⑤ 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q: ¥USB¥ITUSBUNINST.EXE

(Q は CD-ROM ドライブ名)



- ⑥  ボタンをクリックします。
- ⑦  ボタンをクリックします。



USB ドライブが削除されます。

- ⑧  ボタンをクリックします。



パソコンが再起動されます。

- ⑨ CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROM を取り出します。

2-4 . USB ドライバの手動インストール (Macintosh)

IWX70 または RS7 の USB ポートに Macintosh を接続する場合は、Macintosh に IWX70 / RS7 用の USB ドライバをインストールする必要があります。USB ドライバは『Installer for USB』で自動的にインストールできます。(取扱説明書「4-2 . ユーティリティをインストールする」)


ここでは USB ドライバがうまくインストールできなかった場合に、手でインストールする手順を説明します。

USB ケーブルはドライバのインストール後に接続するので、まだ Macintosh と接続しないでください。

IWX70 と RS7 用の USB ドライバは同じものです。

Macintosh のバージョンを確認する

IWX70 と RS7 の USB ポートは、iMac および Power Macintosh G3 以降のマシンの次の OS で使用できます。

 (アップルメニュー) [このコンピュータについて] で OS のバージョンを確認します。

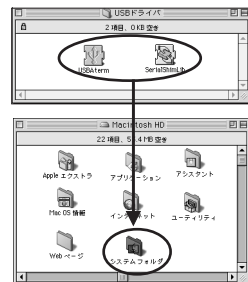
Mac OS 8.6 Mac OS ROM J1.2.1

Mac OS 9

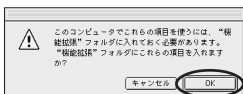
USB ドライバのインストール

IWX70 / RS7 用の USB ドライバを手動でインストールします。

- 1 Macintosh を起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付 CD-ROM『AtermIWX70&RS7 ユーティリティ集』を CD-ROM ドライブにセットします。
CD-ROM のウィンドウが表示されます。
- 3 [USB ドライバ] フォルダをダブルクリックします。
- 4 [USB ドライバ] フォルダ内の 2 つのファイルを、ハードディスクの [システムフォルダ] 内の [機能拡張] フォルダにドラッグ&ドロップしてコピーします。



5 OK ボタンをクリックします。



6 CD-ROM を取り出します。

7 機能拡張を有効にするため、Macintosh を再起動します。

8 USBケーブルでMacintoshとIWX70 またはRS7 を接続します
(取扱説明書「4-2 . コーティリティをインストールする」)



Mac OS 8.6がプリインストールされているMacintoshでは、「SerialShimLib」をコピーしようとする、「これは使用中です・・・」と表示され、コピーできないことがあります。その場合は「SerialShimLib」のコピーは不要です。



「USBAterm」のアイコンが文書(白いアイコン)になっているときは、USBポートが使用できません。Mac OS のバージョンを8.6以上にバージョンアップしてください。他のAterm用のUSBドライバと一緒に使用することはできません。[機能拡張]フォルダに「USBAterm」以外に同じ名前のファイルがある場合は、削除してください。

USB ドライバのアンインストール

USB ドライバを削除します。

1 ハードディスクの中の [システムフォルダ] をダブルクリックし、[機能拡張] フォルダをダブルクリックします。

[機能拡張] フォルダが開きます。

2 「USBAterm」と「SerialShimLib」ファイルを削除します。

USB ドライバがアンインストールされます。

2-5 . インターネット接続の手動設定 (Windows Me)

インターネットに接続するための設定は、『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]を使って設定できます。(取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合などに、手動で設定する手順を説明します。

以降の手順は、Windows Me 搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70またはRS7を、インターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

- 1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。


- 3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

- 4 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンはと異なることがあります。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

- 5 [コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

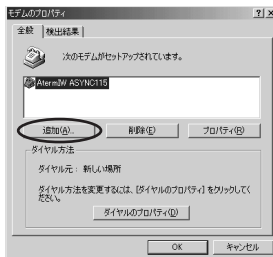
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- 6 [モデム]アイコンをダブルクリックします。



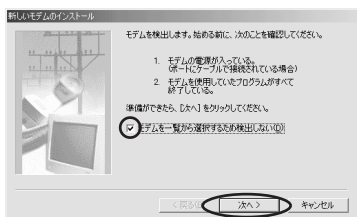
モデム

他にモデム情報がインストールされている場合は、次の画面が表示されます。**追加** ボタンをクリックし、7に進みます。

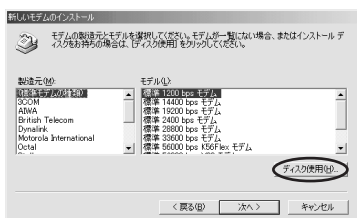


[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

7 「モデムを一覧から選択するため検出しない」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。

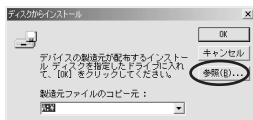



8 「ディスク使用」ボタンをクリックします。

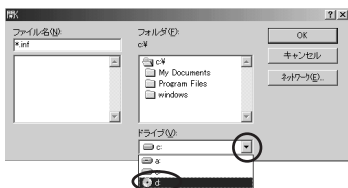


[ディスクからインストール]画面が表示されます。

9 「参照」ボタンをクリックします。



10 「ドライブ」の をクリックしてCD-ROMドライブ()を選択し、「フォルダ」の「intnet」をダブルクリックします。



11 「win95」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnr.inf」をクリックして ボタンをクリックします。

[ディスクからインストール]画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。

12 ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

13 使用するモデムを選択します。



IWX70とRS7ではモデムの種類が異なります。

パソコンをIWX70またはRS7のどちらに接続しているかによって、次のいずれかの表を参照してください。

IWX70

接続するアクセスポイントが対応する接続条件によって、次のように選択します。

通常は、「AtermIW SYNC115」(ISDN回線64kbps)を選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermIW PIAFS32 (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS64K	AtermIW PIAFS64

アクセスポイントが対応している接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

RS7

IWX70(親機)との無線区間の通信方式によって、次のように選択します。ワイヤレスセットで特に変更がない場合や、IWX70のモデムの種類をISDN用にした場合は、「AtermRS Air64K(DualLink)」「デュアルリンクワイヤレス通信」を選択します。

無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
デュアルリンクワイヤレス通信 (64kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

「デュアルリンクワイヤレス通信」はNEC独自の通信方式で、無線2チャンネルを使って64kbpsの速度で親機と通信し、同期/非同期アクセスポイントに接続できます。

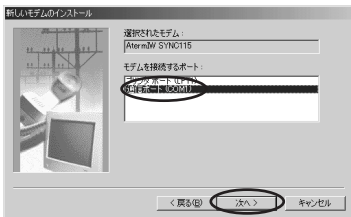
14

次へ ボタンをクリックします。

15

IWX70またはRS7が接続されているポートを選択し、次へ ボタンをクリックします。

USBポートに接続している場合は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



16

完了 ボタンをクリックします。

モデムのインストールが終了し、[所在地情報]画面が表示されます。

所在地情報がすでに設定されている場合は、17に進みます。

17

所在地情報を設定します。



国名: 「日本」を選択します。
市外局番: 先頭の「0」を除いて入力します。

外線発信番号: 外線発信番号(0発信など)がない場合は空欄のままにします。

ダイヤル方法: 「トーン」を選択します。

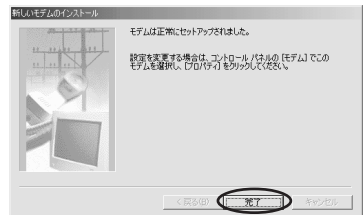
18

次へ ボタンをクリックします。

[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

19

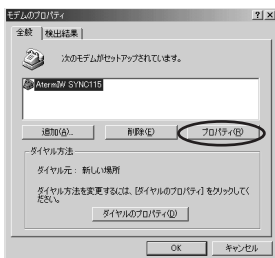
完了 ボタンをクリックします。



[モデムのプロパティ]画面が表示されます。

20

⑬ (P.32)で選択したモデムが反転表示されていることを確認し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



すでに設定してあるモデムと同じものを再度設定すると、[情報] タブ内に「 # 2 」が付いたモデム情報が表示されます。

モデム情報を削除するときは、不要なモデム名をクリックしてから **削除** ボタンをクリックします。

21

「最高速度」の ▾ をクリックし、最高速度を選択します。



最高速度とはパソコンとIWX70またはRS7間の通信速度をさします。インターネットに接続するときの通信速度のことではありません。⑬ (P.32)で選択したモデムの種類によって最高速度を次のように選択します。

IWX70

モデム情報	最高速度
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW MP128	115200 230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600 115200
AtermIW PIAFS32 (Compress)	115200
AtermIW PIAFS64	115200

モデム情報を「AtermIW MP128」(ISDN 回線 128kbps)に選択している場合は、高速シリアルボードなどを増設し、最高速度を「230400」に設定することをおすすめします。高速シリアルボードを増設していない場合、最高速度は「115200」となります。

RS7

モデムの種類	最高速度
AtermRS Air32K (Direct)	57600 115200
AtermRS Air32K (Compress)	115200
AtermRS Air64K (DualLink)	115200

22

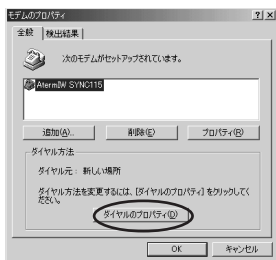
OK ボタンをクリックします。

[モデムのプロパティ]画面にもどります。

複数のモデム情報をインストールする場合は、⑬の画面で **追加** ボタンをクリックし、⑭ (P.32) ~ ⑳ をくり返します。

23

ダイヤルのプロパティ ボタンをクリックします。



24

所在地情報を設定します。



登録名： 入力する必要はありません。

国名/地域： 「日本」を選択します。

市外局番： 先頭の「0」を除いて入力します。

所在地との通話： 変更しません。

25

OK ボタンをクリックします。

[モデムのプロパティ]画面にもどります。

26

閉じる ボタンをクリックします。

[モデムのプロパティ]が終了し、モデム情報のインストールが完了します。

[コントロールパネル]画面にもどります。

27

CD-ROM ドライブのアクセラランプが消えていることを確認し、CD-ROMを取り出します。

ダイヤルアップの設定

インターネットにダイヤルアップ接続をするための設定をします。
設定の前に、ダイヤルアップネットワークが組み込まれているか確認します。

1

デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは 図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

2

[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

3

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがあるか確認してください。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがすでにある場合は、「プロバイダの設定」(P.37)に進みます。

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがない場合は、以下の手順で組み込みます。

ダイヤルアップネットワークの組み込み

ダイヤルアップネットワークをパソコンに組み込みます。

- ① WindowsMeのCD-ROMをパソコンにセットします。

WindowsMeがブリンストールされているパソコンの多くは、ハードディスクにCD-ROMの内容がコピーされています。この場合は、CD-ROMは必要ありません。

- ② [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

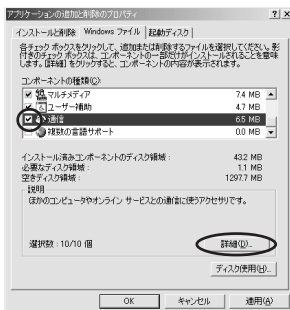


アプリケーションの追加と削除

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

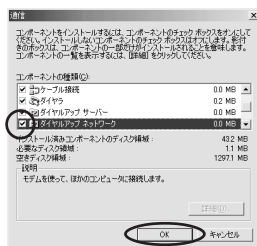
- ③ [Windows ファイル] タブをクリックします。

- ④ 「コンポーネントの種類」の「通信」をにし、**詳細** ボタンをクリックします。



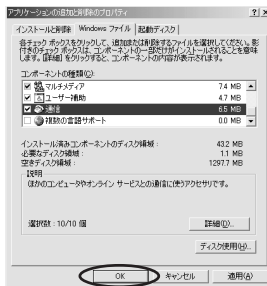
[通信]画面が表示されます。

- ⑤ 「ダイヤルアップネットワーク」をにし、**OK** ボタンをクリックします。



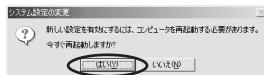
インストールが始まり、[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面にもどります。

- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。



「ダイヤルアップネットワーク」のインストールが完了し、[システム設定の変更]画面が表示されます。

- ⑦ **はい** ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

再起動後、[コントロールパネル]ウィンドウ内に[ダイヤルアップネットワーク]アイコンが追加されていることを確認してください。



ダイヤルアップネットワーク


プロバイダの設定

インターネットの接続に使用するプロバイダの設定をします。

- ① [デスクトップ]の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンはと異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- ② [コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

- ③ [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

ダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときは、[ダイヤルアップネットワーク]による画面が表示されます。この場合は、**次へ** ボタンをクリックします。次回以降の起動時には表示されません。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

- ④ [新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続

[新しい接続]画面が表示されます。


- ⑤ 「接続名」に、接続するプロバイダの名前などを任意に入力します。

名前は英数、カナ、漢字、半角などが入力できます。ここで入力した名前で作成用アイコンが作成されます。



ここでは例として「BIGLOBE 64」と入力します。

- ⑥ 「モデムの選択」に、インストールしたモデム情報が表示されていることを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。

モデム名が表示されていないときは  をクリックし、その中から選択します。

- ⑦ 「電話番号」に、接続するアクセスポイントの電話番号を入力します。

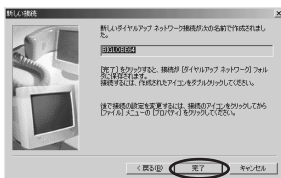
「市外局番」は空欄にし、「電話番号」に市外局番の先頭の「0」を除いて入力します。



- ⑧ 「国/地域番号」の中から「日本(81)」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

9

完了 ボタンをクリックします。



次の画面が表示された場合は
 ボタンをクリックします。
 「ダイアルアップアダプタ」が自
 動的にインストールされます。



[ダイアルアップネットワーク]画面にも
 どり、⑨ (P.37)で指定した「接続名」
 の付いた接続アイコンが追加されます。

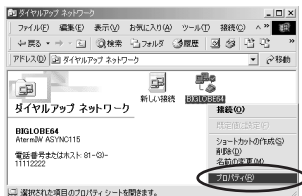
10

[ダイアルアップネットワーク]画面で
 接続用アイコン(例:BIGLOBE64)に
 マウスポインタを合わせ、右クリック
 します。

ショートカットメニューが表示されます。

11

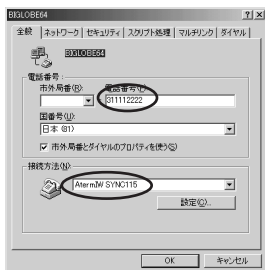
[プロパティ]を選択します。



接続先の情報画面が表示されます。

12

電話番号と接続方法を確認します。



接続するアクセスポイントや通信方式
 によって、「電話番号」の末尾に次の文
 字を入力します。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続
 するとき
 電話番号の末尾に「PF」と入力
 (IXW70)

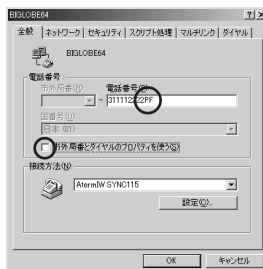
PIAFS64Kアクセスポイントに接続
 するとき
 電話番号の末尾に「PD」と入力
 (IXW70)

ITMUX機能を使用して同期64Kア
 クセスポイントに接続するとき
 電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbps
 マルチリンクPPPアクセスポイント
 に接続するとき

電話番号の末尾に「PB」と入力
 デュアルリンクワイヤレス通信で
 RS7 から発信するとき
 電話番号の末尾に「DL」と入力

この指定をした場合は「市外局番とダ
 イヤルのプロパティを使う」をクリッ
 クして にします。

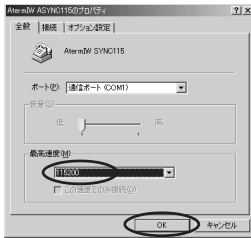


13

ボタンをクリックします。

14

「最高速度」が、アクセスポイントの条件に応じた通信速度であることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



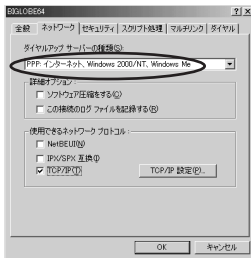
最高速度については「モデム情報のインストール」の ⑦ (P.34) を参照してください。

15

[ネットワーク] タブをクリックします。

16

サーバーの種類を下図のように設定します。



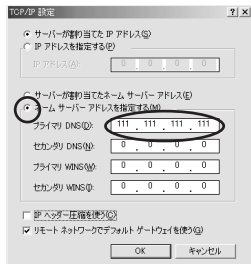
17

TCP/IP設定 ボタンをクリックします。

[TCP/IP 設定] 画面が表示されます。

18

「ネームサーバーアドレスを指定する」を選択し、プロバイダから指定されたネームサーバーのIPアドレスを半角で入力します。



設定内容はプロバイダによって異なります。プロバイダのユーザ情報資料などにしたがって指定してください。

「セカンダリ DNS」はプロバイダから指示がなければ、入力しなくても問題ありません。

19

「IP ヘッダー圧縮を使う」をクリックして にします。

20

OK ボタンをクリックします。

21

OK ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウにもどります。



接続アイコンは複数登録することができます。PIAFS アクセスポイント用とITMUX用など、通信方式ごとに接続アイコンを作って、接続方法を使い分けることもできます。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

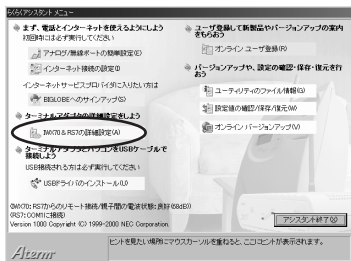
IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。

RS7からインターネットに接続するときは、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているので、初期値のままでも発信できます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

1 **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS7ユーティリティ] [IWX70&RS7らくらくアシスタント] を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

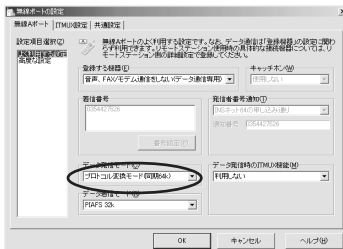
2 [IWX70&RS7の詳細設定]をクリックします。



[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

3 無線 A ポートを選択します。
[無線ポートの設定]画面が表示されます。

4 「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

RS7のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード（非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8K/38.4K/57.6K）

RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード（同期64K）
RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。[初期値]

5 **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」を使用して、発信モードを選択することもできます。(「3-1. データ通信の機能」)

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

- 1 RS7から接続する場合は、前面のPHSランプが緑色に点灯していることを確認します。

- 2 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは
図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示
されます。

- 3 [コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

- 4 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンド
ウが表示されます。

- 5 接続アイコン(例: BIGLOBE64)をダブルクリックします。



BIGLOBE64

「プロバイダの設定」の ⑤ (P.37)で指定した「接続名」の付いた接続アイコンが表示されます。

[接続]画面が表示されます。

- 6 「ユーザー名」(ユーザID)がプロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料と合っていることを確認し、パスワードを入力します。



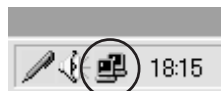
「パスワードの保存」をクリックして にすると、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

- 7 [接続] ボタンをクリックします。

IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなぐと、ユーザー名(ユーザID)とパスワードの認証がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。タスクトレイのインジケータに[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンが表示されます。



INS ネット 64 に接続されます。

IWX70の液晶ディスプレイに、データ通信中を表す または が表示されます。RS7から接続したときは、PHSランプが緑色または赤色に点滅します。

IWX70 液晶ディスプレイ

➡	Bチャンネル1つで64kbps通信中
⇄	Bチャンネル2つで128kbps通信中
B1	B1チャンネル使用中
B2	B2チャンネル使用中

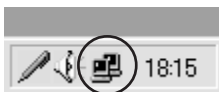
RS7 などの子機から PIAFS スルーモードでインターネットに接続した場合は ➡ / ⇄ は表示されません。

RS7 PHS ランプ

緑色点滅	無線チャンネル1つで32kbps通信中
赤色点滅	無線チャンネル2つで64kbps通信中

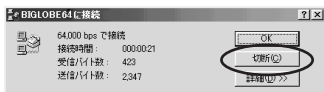
8

タスクトレイのインジケータの [ダイヤルアップネットワークモニター] アイコンをダブルクリックします。



9

切断 ボタンをクリックします。



INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70 の液晶ディスプレイに「データセッタン」と約 20 秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしても、IWX70 の液晶ディスプレイに ➡ / ⇄ が表示されるときや、RS7 の PHS ランプが緑色 / 赤色で点滅しているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときは IWX70 に接続されている INS 回線ケーブルを抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS 回線ケーブルを抜くことすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してから、INS 回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合に IWX70 が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて 3 分間で 2 回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間を置いてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに、認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかります。

2-6 . インターネット接続の手動設定 (Windows98/Windows95)

インターネットに接続するための設定は、『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]を使って設定できます。(取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。

以降の手順は、Windows98搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。なおRS7は、Windows95に対応していません。

モデム情報のインストール

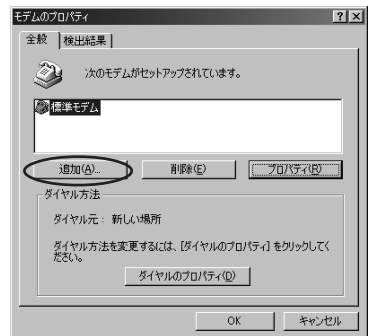
IWX70またはRS7を、インターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

- 1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。
- 3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。
CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。
- 4 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 5 [モデム]アイコンをダブルクリックします。



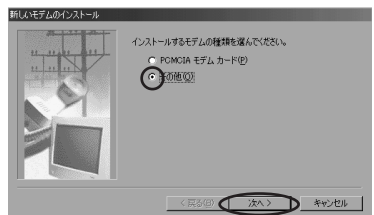
モデム

他にもモデム情報がインストールされている場合は、次の画面が表示されます。**追加** ボタンをクリックし、**6**に進みます。

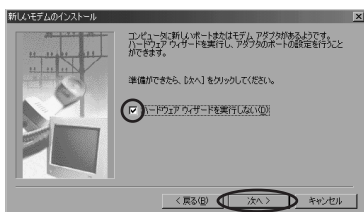


[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

- 6 次の画面が表示されたときは「その他」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

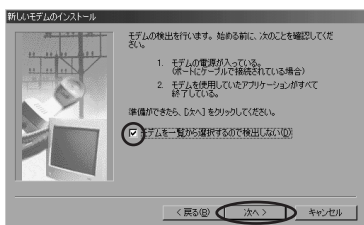


- 7 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。



この画面が表示されない場合は、**8**に進みます。

- 8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。

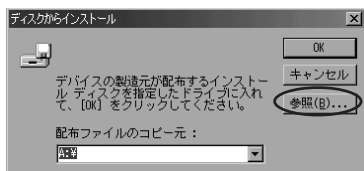


- 9 「ディスク使用」ボタンをクリックします。

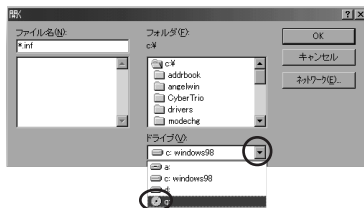


[ディスクからインストール]画面が表示されます。

- 10 「参照」ボタンをクリックします。



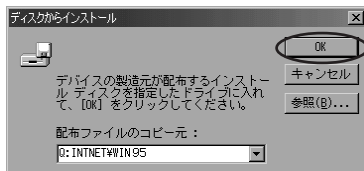
- 11 「ドライブ」の をクリックして CD-ROM ドライブ () を選択し、「フォルダ」の「intnet」をダブルクリックします。



- 12 「win95」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnet.inf」をクリックして **OK** ボタンをクリックします。

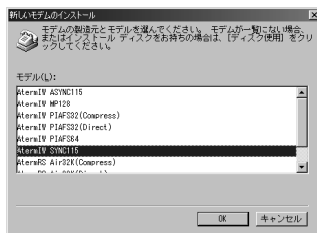
[ディスクからインストール]画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。

- 13 **OK** ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

- 14 使用するモデムを選択します。



IWX70とRS7ではモデムの種類が異なります。パソコンをIWX70またはRS7のどちらに接続しているかによって、次のいずれかの表を参照してください。

IWX70

接続するアクセスポイントが対応する接続条件によって、次のように選択します。

通常は、「AtermIW SYNC115」(ISDN回線64kbps)を選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermIW PIAFS32 (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS64K	AtermIW PIAFS64

アクセスポイントが対応している接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

RS7

IWX70(親機)との無線区間の通信方式によって、次のように選択します。ワイヤレスセットで特に変更がない場合や、IWX70のモデムの種類をISDN用にした場合は、「AtermRS Air64K (DualLink)」(デュアルリンクワイヤレス通信)を選択します。

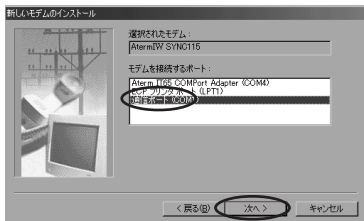
無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
デュアルリンクワイヤレス通信 (64kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

「デュアルリンクワイヤレス通信」はNEC独自の通信方式で、無線2チャネルを使って64kbpsの速度で親機と通信し、同期/非同期アクセスポイントに接続できます。

15 OK ボタンをクリックします。

16 IWX70またはRS7が接続されているポートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

USBポートに接続している場合は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



17 完了 ボタンをクリックします。

モデムのインストールが終了し、[モデムのプロパティ]画面にもどります。

18 14で選択したモデムが反転表示されていることを確認し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



すでに設定してあるモデムと同じものを再度設定すると、[情報]タブ内に「#2」が付いたモデム情報が表示されます。モデム情報を削除するときは、不要なモデム名をクリックしてから「削除」ボタンをクリックします。

19

「最高速度」の▼をクリックし、最高速度を選択します。



最高速度とはパソコンとIWX70またはRS7間の通信速度をさします。インターネットに接続するときの通信速度のことではありません。**17** (P.45) で選択したモデムの種類によって最高速度を次のように選択します。

IWX70

モデム情報	最高速度
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW MP128	115200 230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600 115200
AtermIW PIAFS32 (Compress)	115200
AtermIW PIAFS64	115200

モデム情報を「AtermIW MP128」(ISDN回線128kbps)に選択している場合は、高速シリアルボードなどを増設し、最高速度を「230400」に設定することをおすすめします。高速シリアルボードを増設していない場合、最高速度は「115200」となります。

RS7

モデムの種類	最高速度
AtermRS Air32K (Direct)	57600
AtermRS Air32K (Compress)	115200
AtermRS Air64K (DualLink)	115200

20

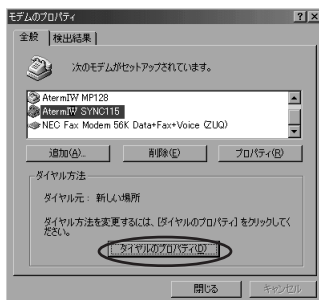
OK ボタンをクリックします。

[モデムのプロパティ] 画面にもどります。

複数のモデム情報をインストールする場合は、**21** の画面で **追加** ボタンをクリックし、**5** (P.43) ~ **20** をくり返します。

21

ダイヤルのプロパティ ボタンをクリックします。



22

所在地情報を設定します。

登録名： 入力の必要はありません。

国名/地域： 「日本」を選択します。

市外局番： 先頭の「0」を除いて入力します。

所在地との通話： 変更しません。

23

OK ボタンをクリックします。
[モデムのプロパティ]画面にもどります。

24

閉じる ボタンをクリックします。
[モデムのプロパティ]が終了し、モデム情報のインストールが完了します。

25

CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROMを取り出します。

ダイヤルアップの設定

インターネットにダイヤルアップ接続をするための設定をします。
設定の前に、ダイヤルアップネットワークが組み込まれているか確認します。

1

デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なる場合があります。
[マイコンピュータ]画面が表示されます。

2

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがあるか確認してください。

ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがすでにある場合は、「ネットワークプロトコルの設定」(P.49)に進みます。

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがない場合は、以下の手順で組み込みます。

ダイヤルアップネットワークの組み込み

ダイヤルアップネットワークをパソコンに組み込みます。

1 Windows98のCD-ROMをパソコンにセットします。

Windows98がブリインストールされているパソコンの多くは、ハードディスクにCD-ROMの内容がコピーされています。この場合は、CD-ROMは必要ありません。

- ② [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

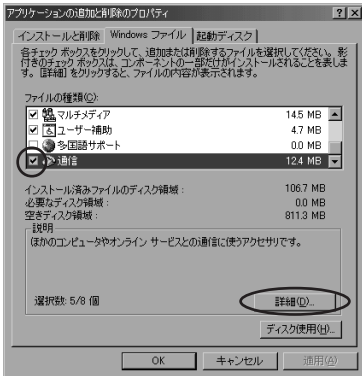


アプリケーションの追加と削除

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

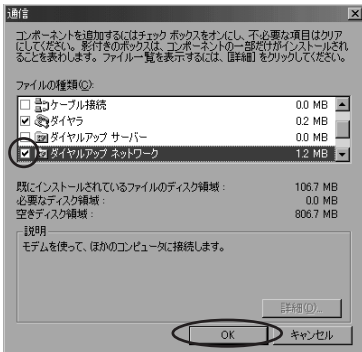
- ③ [Windows ファイル] タブをクリックします。

- ④ 「ファイルの種類」の「通信」を☑にし、「詳細」ボタンをクリックします。



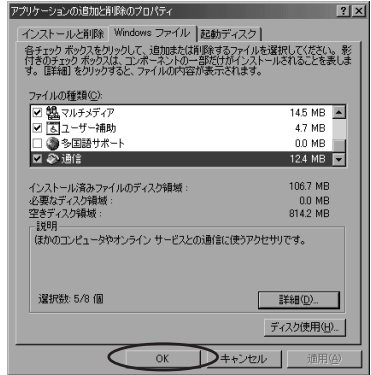
[通信]画面が表示されます。

- ⑤ 「ダイヤルアップネットワーク」を☑にし、「OK」ボタンをクリックします。



インストールが始まり、[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面にもどります。

- ⑥ OK ボタンをクリックします。



「ダイヤルアップネットワーク」のインストールが完了します。

- ⑦ **スタート** [Windowsの終了]を選択して[コンピュータを再起動する]を選択し、「はい」をクリックします。

パソコンが再起動します。

再起動後、[マイコンピュータ]ウィンドウ内に[ダイヤルアップネットワーク]アイコンが追加されていることを確認してください。



ダイヤルアップネットワーク

ネットワークプロトコルの設定

インターネットに接続するときの通信規約である「ネットワークプロトコル」を選択します。

① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

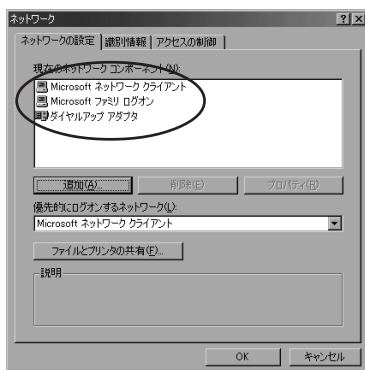


ネットワーク

[ネットワーク] 画面が表示されます。

③ 「現在のネットワークコンポーネント」に、プロバイダへの接続に必要な次の3つのコンポーネントがあるか確認します。

Microsoft ネットワーククライアント
ダイヤルアップアダプタ
TCP/IP



これ以外のものは不要なので、選択し **削除** ボタンをクリックして削除します。

不足しているものがあるときは **追加** ボタンをクリックし、④ に進みます。

[ネットワーク構成ファイル追加] 画面が表示されます。

④ 不足しているものによってそれぞれ次の設定をします。

クライアント

Microsoft ネットワーククライアントを追加する場合

アダプタ

ダイヤルアップアダプタを追加する場合

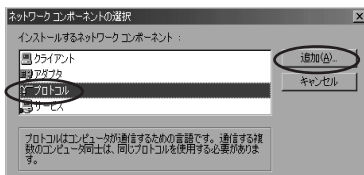
プロトコル

TCP/IP を追加する場合

以降は TCP/IP を例に説明します。

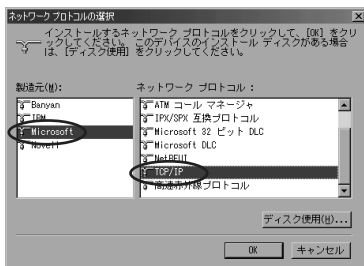
⑤ [ネットワークの設定] タブをクリックします。

⑥ 「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

⑦ 「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」で「TCP/IP」を選択します。



⑧ **OK** ボタンをクリックします。

③ の [ネットワークの設定] 画面にもどります。

9 「TCP/IP」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

[TCP/IP のプロパティ] 画面が表示されます。

10 [詳細設定] タブをクリックします。

11 「既定のプロトコルとして設定する」がグレー表示になっているか、またははっきりと表示されているときは になっていることを確認します。



12 **OK** ボタンをクリックします。

[ネットワークの設定] 画面にもどります。

13 **OK** ボタンをクリックします。

「再起動しますか」と表示されます。

14 **はい** ボタンをクリックします。

パソコンが再起動し、設定したTCP/IPが有効になります。

プロバイダの設定

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。

1 デスクトップの[マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ] アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ] ウィンドウが表示されます。

2 [ダイヤルアップネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップネットワーク

ダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときは、[ダイヤルアップネットワークによる] 画面が表示されます。この場合は、**次へ** ボタンをクリックします。次回以降の起動時には表示されません。

[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウが表示されます。

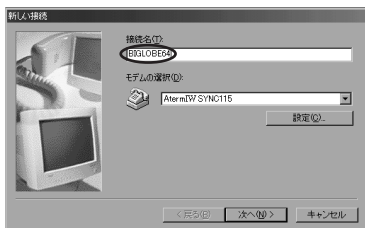
3 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



新しい接続の作成

[新しい接続] 画面が表示されます。

- ④ 「接続名」に、接続するプロバイダの名前などを任意に入力します。
 名前は英数、カナ、漢字、半角などが入力できます。ここで入力した名前で作成された接続用アイコンが表示されます。



ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。

- ⑤ 「モデムの選択」に、インストールしたモデム情報が表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。
 モデム名が表示されていないときは▼をクリックし、その中から選択します。

- ⑥ 「電話番号」に、接続するアクセスポイントの電話番号を入力します。
 「市外局番」は空欄にし、「電話番号」に市外局番の先頭の「0」を除いて入力します。



- ⑦ 「国/地域番号」の中から「日本(81)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

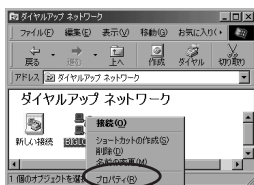
- ⑧ [完了] ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどり、④で指定した「接続名」の付いた接続アイコンが追加されます。

- ⑨ [ダイヤルアップネットワーク]画面で接続用アイコン(例:BIGLOBE64)にマウスポインタを合わせ、右クリックします。

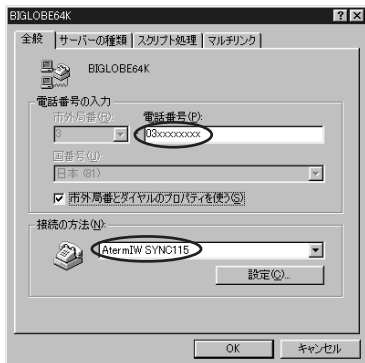
ショートカットメニューが表示されます。

- ⑩ [プロパティ]を選択します。



接続先の情報画面が表示されます。

- ⑪ 電話番号と接続の方法を確認します。



接続するアクセスポイントや通信方式によって、「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき
 電話番号の末尾に「PF」と入力 (IWX70)

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき
 電話番号の末尾に「PD」と入力 (IWX70)

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき
 電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX 機能を使用して 128 kbps マルチリンク PPP アクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PB」と入力
デュアルリンクワイヤレス通信で RS7 から発信するとき
電話番号の末尾に「DL」と入力

この指定をした場合は「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」をクリックして にします。



12 設定 ボタンをクリックします。

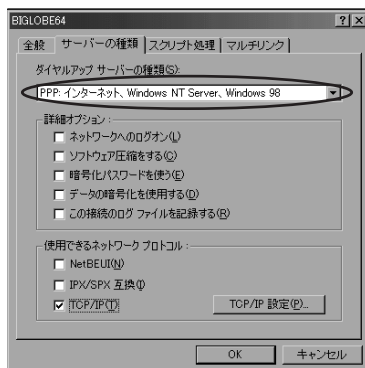
13 「最高速度」が、アクセスポイントの条件に応じた通信速度であることを確認し、OK ボタンをクリックします。



最高速度については「モデム情報のインストール」の 17 (P.46) を参照してください。

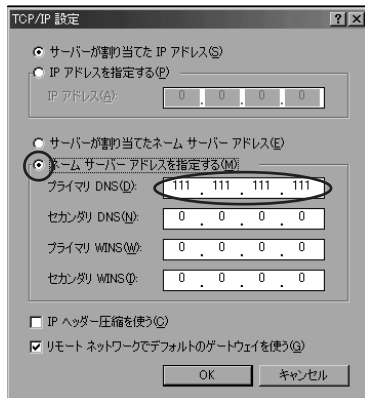
14 [サーバーの種類] タブをクリックします。

15 サーバーの種類を下図のように設定します。



16 TCP/IP設定 ボタンをクリックします。
[TCP/IP 設定] 画面が表示されます。

17 「名前サーバーアドレスを指定する」を選択し、プロバイダから指定された名前サーバーのIPアドレスを半角で入力します。



設定内容はプロバイダによって異なります。プロバイダのユーザ情報資料などにしたがって指定してください。

「セカンダリ DNS」はプロバイダから指示がなければ、入力しなくても問題ありません。

18

「IPヘッダー圧縮を使う」をクリックして にします。

19

OK ボタンをクリックします。

20

OK ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどります。



接続アイコンは複数登録することができます。PIAFSアクセスポイント用とITMUX用など、通信方式ごとに接続アイコンを作って、接続方法を使い分けることもできます。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。

RS7からインターネットに接続するときは、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているので、初期値のままでも発信できます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

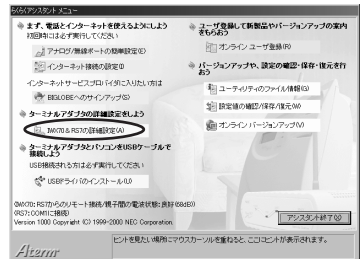
1

スタート [プログラム] [Aterm IWX70&RS7ユーティリティ] [IWX70&RS7らくらくアシスタント] を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

2

[IWX70&RS7の詳細設定]をクリックします。



[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

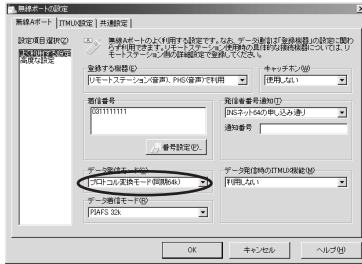
3

無線 A ポートを選択します。

[無線ポートの設定]画面が表示されます。

4

「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

RS7のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード（非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8K/38.4K/57.6K）

RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード（同期 64K）

RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。[初期値]

5

OK ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」を使用して、発信モードを選択することもできます。（「3-1. データ通信の機能」）

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

1

RS7から接続する場合は、前面のPHSランプが緑色に点灯していることを確認します。

2

デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

3

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

4

接続アイコン（例：BIGLOBE64）をダブルクリックします。



BIGLOBE64

「プロバイダの設定」の④（P.51）で「接続名」に指定した名前の接続アイコンが表示されます。

[接続]画面が表示されます。

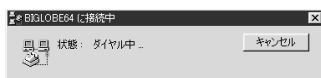
- 5 「ユーザー名」(ユーザID)がプロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料と合っていることを確認し、パスワードを入力します。



「パスワードの保存」をクリックして にすると、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

- 6 **接続** ボタンをクリックします。

IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなぐと、ユーザー名(ユーザID)とパスワードの認証がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。

タスクトレイのインジケータに [ダイヤルアップネットワークモニタ] アイコンが表示されます。



INS ネット 64 に接続されます。

IWX70の液晶ディスプレイに、データ通信中を表す \rightarrow または \Rightarrow が表示されます。RS7から接続したときは、PHSランプが緑色または赤色に点滅します。

IWX70 液晶ディスプレイ

\rightarrow	Bチャンネル1つで64kbps通信中
\Rightarrow	Bチャンネル2つで128kbps通信中
B1	B1チャンネル使用中
B2	B2チャンネル使用中

RS7 などの子機から PIAFS スループモードでインターネットに接続した場合は \rightarrow / \Rightarrow は表示されません。

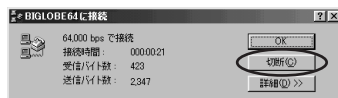
RS7 PHS ランプ

緑色点滅	無線チャンネル1つで32kbps通信中
赤色点滅	無線チャンネル2つで64kbps通信中

- 7 タスクトレイのインジケータの [ダイヤルアップネットワークモニタ] アイコンをダブルクリックします。





- 8 **切断** ボタンをクリックします。



INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70の液晶ディスプレイに「データセットアップ」と約 20 秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしても、IWX70の液晶ディスプレイに  /  が表示されているときや、RS7のPHSランプが緑色 / 赤色で点滅しているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときはIWX70に接続されているINS回線ケーブルを抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してからINS回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合にIWX70が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間を置いてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに、認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

2-7 . インターネット接続の手動設定 (Windows 2000)

インターネットに接続するための設定は、『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]を使って設定できます。(取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。

以降の手順は、Windows 2000搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70またはRS7を、インターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

5 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



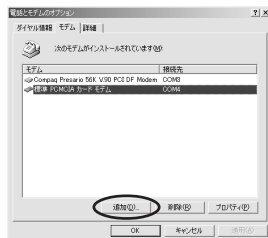
電話とモデムの
オプション

[電話とモデムのオプション]画面が表示されます。

6 [モデム]タブをクリックします。

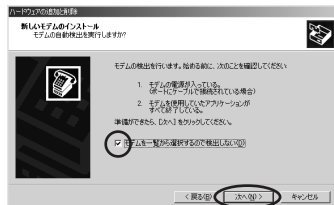


7 **追加** ボタンをクリックします。



[ハードウェアの追加と削除]画面が表示されます。

8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をにして **次へ** ボタンをクリックします。



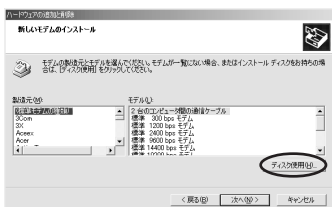
9

次へ ボタンをクリックします。



10

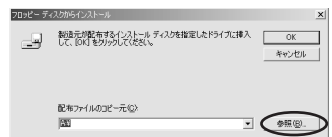
ディスク使用 ボタンをクリックします。



[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示されます。

11

参照 ボタンをクリックします。



[ファイルの場所] 画面が表示されます。

12

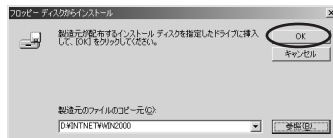
CD-ROMドライブを選択し、「INTNET」フォルダをダブルクリックします。「WIN2000」フォルダをクリックして「開く」ボタンをクリックします。



[フロッピーディスクからインストール] 画面にもどります。

13

OK ボタンをクリックします。



14

「モデム」の中から使用するモデムを選択します。



IWX70とRS7ではモデムの種類が異なります。

IWX70

「AtermIW 128K Support Series」を選択します。

RS7

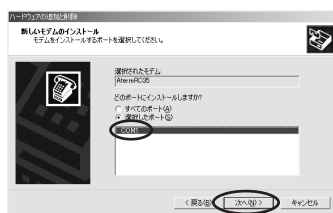
「AtermRS Series」を選択します。

15

次へ ボタンをクリックします。

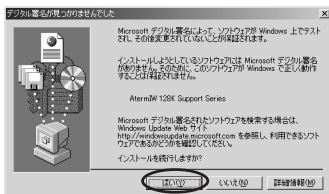
16

Atermを接続しているポートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



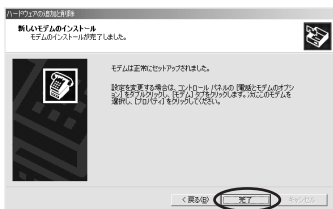
[デジタル署名が見つかりませんでした] 画面が表示されます。

17 次の画面が表示されたときは、**はい** ボタンをクリックします。



モデム情報がインストールされます。

18 **完了** ボタンをクリックします。

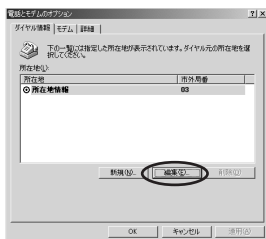


[電話とモデムのオプション]画面にもどります。

19 14 で選択したモデムが追加されていることを確認し、[ダイヤル情報]タブをクリックします。

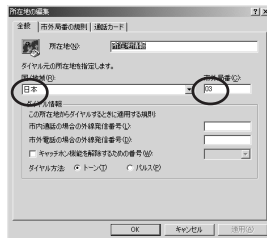


20 **編集** ボタンをクリックします。



[所在地の編集]画面が表示されます。

21 「国/地域」を「日本」とし、「市外局番」を入力します。
市外局番は先頭の「0」を除いて入力します。



22 「ダイヤル方法」で「トーン」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。

[電話とモデムのオプション]画面にもどります。

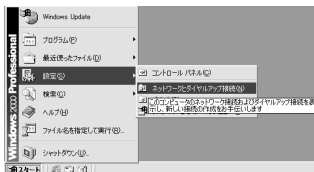
23 **OK** ボタンをクリックします。

[電話とモデムのオプション]の設定が終了します。

24 CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、CD-ROM を取り出します。

ネットワークとダイヤルアップ接続の設定

- 1 **スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。



[スタート]メニューは図と異なることがあります。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

- 2 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



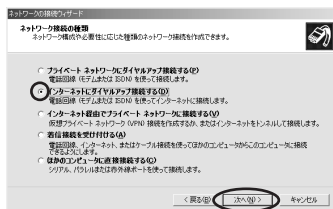
[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。

- 3 **次へ** ボタンをクリックします。



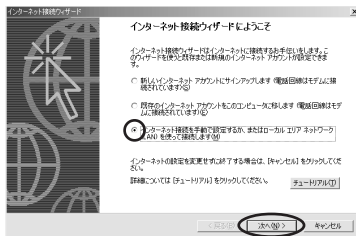
ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

- 4 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[インターネット接続ウィザード] 画面が表示されます。

- 5 「インターネット接続を手動で設定する…」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



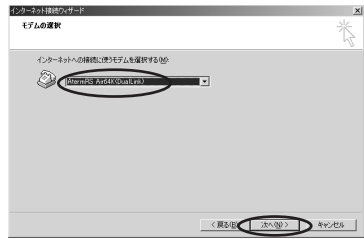
インターネット接続の設定をする画面が表示されます。

- 6 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



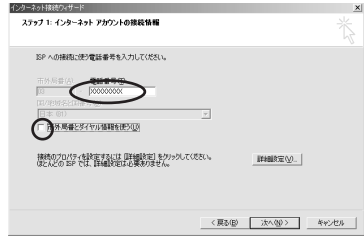
[モデムの選択] 画面が表示されます。

7 IWX70 または RS7 用のモデム情報を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



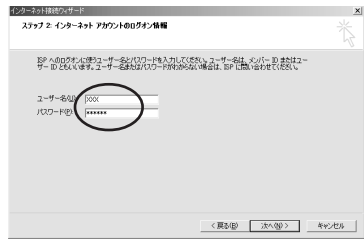
モデム情報が1つしかインストールされていないときは、この画面は表示されません。
インターネットアカウントの接続情報を設定する画面が表示されます。

8 「電話番号」に、接続するアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力し、「市外局番とダイヤル情報を使う」をクリックして にします。



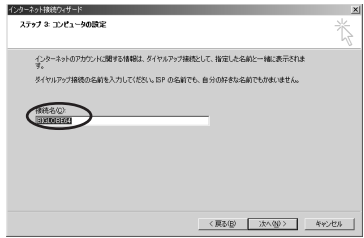
9 **次へ** ボタンをクリックします。
インターネットアカウントのログオン情報の画面が表示されます。

10 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「ユーザー名」(ユーザID)と「パスワード」を入力します。



11 **次へ** ボタンをクリックします。
コンピュータの設定の画面が表示されます。

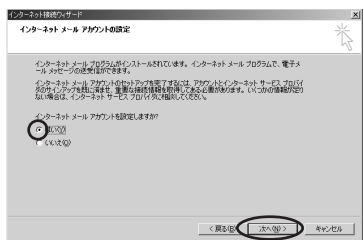
12 「接続名」に、プロバイダの名前などを任意に入力します。
名前は英数、カナ、漢字、半角などが入力できます。ここで入力した名前で作成された接続用アイコンが表示されます。



ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。

13 **次へ** ボタンをクリックします。
インターネットのメールアカウントを設定する画面が表示されます。

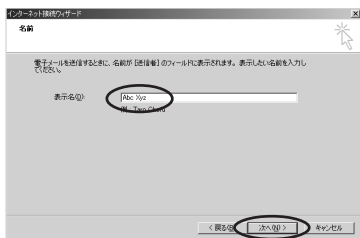
14 「はい」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。
インターネットメールアカウントを設定しない場合は「いいえ」を選択し、22 (P.62) に進みます。



名前を設定する画面が表示されます。

15

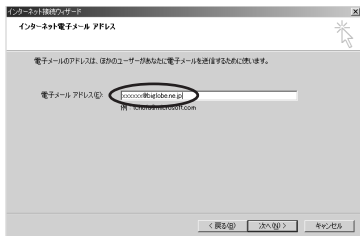
電子メールを送信するときに表示する名前を任意に入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



インターネット電子メールアドレスを設定する画面が表示されます。

16

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「電子メールアドレス」を入力します。



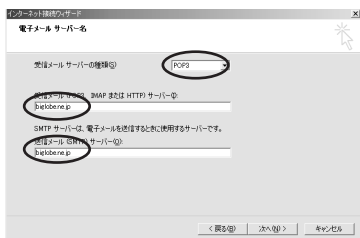
17

次へ ボタンをクリックします。

[電子メールサーバー名]画面が表示されます。

18

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、メールサーバーの種類と名前を入力します。



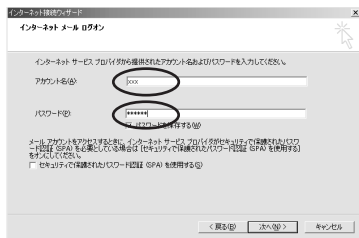
19

次へ ボタンをクリックします。

インターネットメールログオンを設定する画面が表示されます。

20

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「アカウント名」と「パスワード」を入力します。



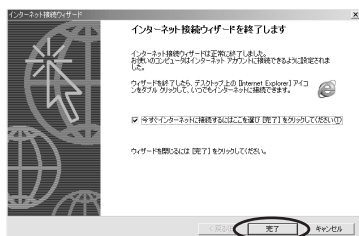
「パスワードを保存する」をクリックして にしておくと、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

21

次へ ボタンをクリックします。

22

完了 ボタンをクリックします。



「今すぐインターネットに接続・・・」が になっていると、ブラウザが起動し、インターネットに接続できます。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウにもどり、**12** (P.61)で指定した「接続名」の付いた接続アイコンが追加されます。



モデムのプロパティの設定

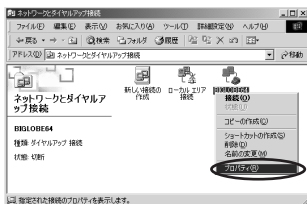
- 「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」の② (P.61) で入力した名前の接続アイコン (例 : BIGLOBE64) にマウスポインタを合わせ、右クリックします。



BIGLOBE64

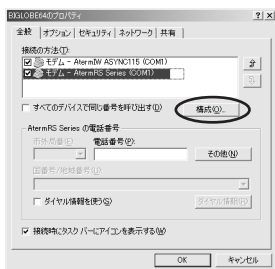
ショートカットメニューが表示されます。

- [プロパティ] を選択します。



[プロパティ] 画面が表示されます。

- 構成 ボタンをクリックします。



[モデムの構成] 画面が表示されます。

- 「モデムプロトコル」を設定します。



次の表を参照し、接続するアクセスポイントや通信方式によってモデムプロトコルを選択します。通常は「PPP (64K)」を選択します。

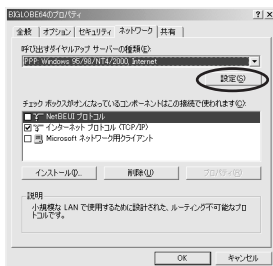
アクセスポイント または接続方法	モデムプロトコル
同期64K接続	PPP (64K)
同期128K接続	PPP (128K)
非同期57.6K接続	V.110 (57.6K)
PIAFS通信	PIAFS - 発信
着信接続 (ダイヤルアップサーバ)	AUTO (1ch)

- 「モデムによるエラー制御を行う」「モデムによるデータ圧縮を行う」が になっているときは、クリックして にします。

- OK ボタンをクリックします。
[プロパティ] 画面にもどります。

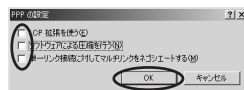
- [ネットワーク] タブをクリックします。

- 設定 ボタンをクリックします。



[PPP の設定] 画面が表示されます。

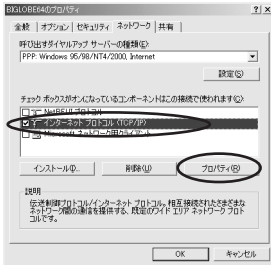
- 表示された3つの項目の をすべてにし、OK ボタンをクリックします。



[プロパティ] 画面にもどります。

10

「チェックボックスがオンになっているコンポーネント・・・」の「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。



[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面が表示されます。

11

IPアドレスとDNSサーバーのアドレスがプロバイダから自動的に取得できる場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」,「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択します。

これらを手で設定する必要がある場合は「次のIPアドレスを使う」,「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」,「優先DNSサーバー」(プライマリDNS),「代替DNSサーバー」(セカンダリDNS)を入力します。



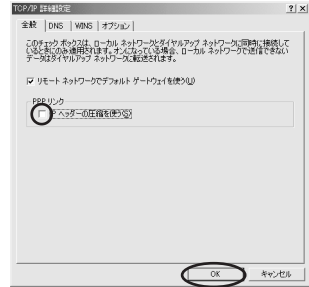
12

「詳細設定」ボタンをクリックします。

[TCP/IP詳細設定]画面が表示されます。

13

「PPPリンク」の「IPヘッダーの圧縮を使う」の をクリックして ボタンをクリックします。



[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面にもどります。

14

ボタンをクリックします。

[プロパティ]画面にもどります。

15

ボタンをクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]画面にもどります。

PIAFS やITMUX を設定する

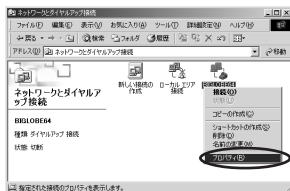
PIAFS32K / PIAFS64K やITMUX 通信をおこなう場合は、以下の設定をおこないます。

- 1 「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」の ② (P.61) で入力した名前の接続アイコン (例 : BIGLOBE64) にマウスポインタを合わせ、右クリックします。



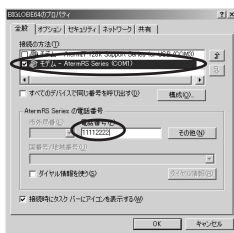
ショートカットメニューが表示されます。

- 2 [プロパティ] を選択します。



[プロパティ] 画面が表示されます。

- 3 接続の方法と電話番号を確認します。



接続するアクセスポイントや通信方式によって、「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PF」と入力 (IWX70)

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PD」と入力 (IWX70)

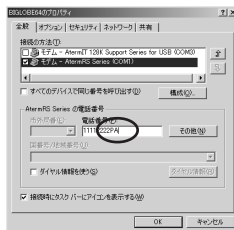
ITMUX 機能を使用して同期 64K アクセスポイントに接続するとき
電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX 機能を使用して 128kbps マルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PB」と入力

デュアルリンクワイヤレス通信で RS7 から発信するとき

電話番号の末尾に「DL」と入力



- 4 OK ボタンをクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどります。



この操作で設定した内容は接続アイコンのプロパティとして保存されるので、インターネットに接続するときには、設定した通信方式で接続されます。接続アイコンは複数登録することができます。PIAFS アクセスポイント用とITMUX用など、通信方式ごとに接続アイコンを作って、接続方法を使い分けることもできます。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

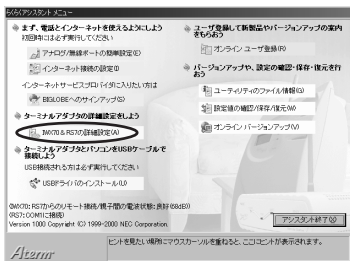
IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。

RS7からインターネットに接続するときは、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているので、初期値のままでも発信できます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

1 **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ] [IWX70&RS7らくらくアシスタント] を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

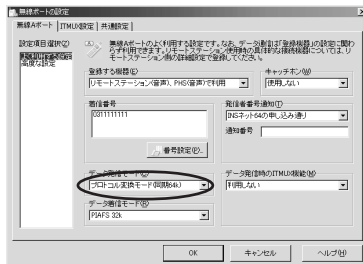
2 [IWX70&RS7の詳細設定]をクリックします。



[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

3 無線 A ポートを選択します。
[無線ポートの設定]画面が表示されます。

4 「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

RS7のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード（非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8K/38.4K/57.6K）

RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード（同期64K）
RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。[初期値]

5 **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」を使用して、発信モードを選択することもできます。（「3-1. データ通信の機能」）

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

- RS7から接続する場合は、前面のPHSランプが緑色に点灯していることを確認します。

- スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。
[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

- 接続アイコン(例: BIGLOBE64)をダブルクリックします。



BIGLOBE64

「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」の②(P.61)で「接続名」に入力した名前の接続アイコンが表示されます。

[接続]画面が表示されます。

- 「ユーザー名」(ユーザID)がプロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料と合っていることを確認し、パスワードを入力します。



「パスワードの保存」をクリックして にすると、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

- ダイヤル** ボタンをクリックします。

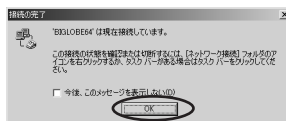
IWX70がINS ネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなぐと、ユーザー名(ユーザID)とパスワードの認証がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。
[接続完了]画面とタスクトレイのインジケータに[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンが表示されます。



- OK** ボタンをクリックします。



INS ネット64に接続されます。

IWX70の液晶ディスプレイに、データ通信中を表す \rightarrow または \Rightarrow が表示されます。RS7から接続したときは、PHSランプが緑色または赤色に点滅します。

IWX70 液晶ディスプレイ

\rightarrow	Bチャンネル1つで64kbps通信中
\Rightarrow	Bチャンネル2つで128kbps通信中
B1	B1チャンネル使用中
B2	B2チャンネル使用中

RS7 などの子機から PIAFS スルーモードでインターネットに接続した場合は \rightarrow / \Rightarrow は表示されません。

RS7 PHS ランプ

緑色点滅	無線チャンネル1つで 32kbps通信中
赤色点滅	無線チャンネル2つで 64kbps通信中

- 7 タスクトレイのインジケータの [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをクリックします。



[状態] 画面が表示されます。

- 8 切断 ボタンをクリックします。



INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70の液晶ディスプレイに「データセツタン」と約 20 秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしても、IWX70の液晶ディスプレイに ← / → が表示されるときや、RS7のPHSランプが緑色 / 赤色で点滅しているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときはIWX70に接続されているINS回線ケーブルを抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してから、INS回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合にIWX70が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間をおいてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに、認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

2-8 . インターネット接続の手動設定 (Macintosh)


インターネットに接続するための設定は、『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]を使って設定できます。(取扱説明書「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」)ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。


以降の手順は、MacintoshにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。


設定の前に


インターネットの接続に必要な、TCP/IP、モデム、リモートアクセス(PPP)の設定をします。ここではMac OS 7.6以上に添付されている「Open Transport PPP」を使って設定する方法を説明します。

設定をおこなう前に、以下の内容を確認してください。

Mac OS 7.6以上をお使いの場合TCP/IPソフトウェアが添付されています。 (アップルメニュー) [コントロールパネル]に「TCP/IP」が入っていることを確認してください。入っていない場合は、Macintoshに添付されているCD-ROMから、カスタムインストーラでTCP/IPをインストールしてください。


Open Transport PPPが標準で添付されています。 (アップルメニュー) [コントロールパネル]に「PPP」が入っていないときは、Macintoshに添付されているCD-ROMからインストールしてください。

Performaシリーズをお使いの場合  (アップルメニュー) [コントロールパネル] [機能拡張マネージャ]で「A/ROSE」のをクリックして にしないと、ソフトウェアが動作しない場合があります。機能拡張マネージャについては、Macintoshの取扱説明書を参照してください。

モデム内蔵の機種をお使いの場合 は、 (アップルメニュー) [コントロールパネル] [機能拡張マネージャ]で内蔵モデムに関するチェックを外さないと、モデムポートが機能しないことがあります。うまく動作しない場合は、モデムポートの代わりにプリンタポートにIWX70またはRS7を接続してください。詳細は、アップルコンピュータにお問い合わせください。

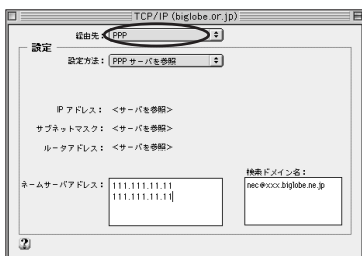
TCP/IP の設定

プロバイダに接続するときの条件を設定します。

- 1 マニューバーの  (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [TCP/IP] を選択します。

[TCP/IP] 画面が表示されます。

- 2 「経路先」のプルダウンメニューから「PPP」を選択します。



- 3 「設定方法」のプルダウンメニューから「PPP サーバを参照」を選択します。

- 4 契約しているプロバイダのユーザ設定情報などの資料にしたがって、「ネームサーバアドレス」にDNSのIPアドレスを入力します。

1 行目にプライマリを入力して改行し、2 行目にセカンダリを入力します。セカンダリはプロバイダから指示がなければ入力しなくても問題ありません。

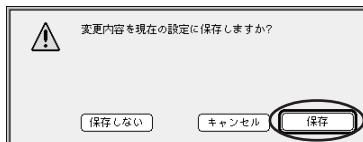
文字は半角の英数字で入力します。大文字、小文字の区別もプロバイダの指示にしたがってください。

- 5 「検索ドメイン名」にドメイン名(プロバイダのサーバ名)を入力します。

- 6 クローズボックスをクリックします。

7

保存 ボタンをクリックします。



TCP/IP の設定が終了します。

続けてモデムの設定をします。

CCL ファイルのインストール

IWX70とRS7用のモデム情報ファイル (CCL ファイル) を Macintosh にインストールします。

- 1 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をCD-ROMドライブにセットします。

CD-ROM ウィンドウが表示されます。

- 2 [CCL ファイル] フォルダをダブルクリックします。

Aterm用のモデム情報ファイルの一覧が表示されます。


- 3 これらのファイルをハードディスクの [システムフォルダ] [機能拡張] フォルダ [Modem Script] フォルダにコピーします。

同じ名前のファイルがある場合は上書きします。

IWX70とRS7用のモデム情報ファイルがインストールされます。

- 4 CD-ROM を取り出します。

モデムの設定

- 1 メニューバーの  (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [モデム] を選択します。

[モデム] 画面が表示されます。

- 2 「経由先」でIWX70またはRS7を接続したポートを選択します。USBポートに接続している場合は「経由先」で「Aterm」を選択します。

- 3 「モデム」でモデム情報ファイルを選択します。



パソコンをIWX70またはRS7のどちらかに接続しているかによって次のいずれかの表を参照してください。

IWX70

接続するアクセスポイントが対応する接続条件によって、次のようにモデムの種類を選択します。

通常は、「NEC AtermIW 64kPPP」(ISDN回線64kbps)を選択します。

アクセスポイント	モデム情報 (CCLファイル)
非同期57.6K	NEC AtermIW 57.6k
同期64K	NEC AtermIW 64kPPP
同期128K	NEC AtermIW MP
PIAFS32K	NEC AtermIW 32kPIAFS
PIAFS64K	NEC AtermIW 64kPIAFS

USBポートに接続している場合は、モデム情報のうしろに「(USB)」とついたモデムを選択します。

アクセスポイントが対応している接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

RS7

IWX70（親機）との無線区間の通信方式によって、次のようにモデムを選択します。ワイヤレスセットで特に変更がない場合や、IWX70のモデムの種類をISDN用にした場合は、「NEC AtermRS DualLinks」（デュアルリンクワイヤレス通信）を選択します。

無線区間の通信方式	モデム情報 (CCLファイル)
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	NEC AtermRS Direct
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	NEC AtermRS Compress
デュアルリンクワイヤレス通信(64kbps)	NEC AtermRS DualLinks

USBポートに接続している場合は、モデム情報のうしろに「(USB)」とついたモデムを選択します。

「デュアルリンクワイヤレス通信」はNEC独自の通信方式で、無線2チャンネルを使って64kbpsの速度で親機と通信し、同期/非同期アクセスポイントに接続できます。

4 クローズボックスをクリックします。

5 **保存** ボタンをクリックします。

モデムの設定が終了します。続けてリモートアクセス(またはPPP)の設定をします。



デュアルリンクワイヤレス通信で接続する場合は『Free PPP』などの通信ソフトを使用し、ATコマンドで「デュアルリンクワイヤレス通信モード」に設定してください。(「5.ATコマンド」)

リモートアクセス(またはPPP)の設定

ここではリモートアクセス(Mac OS 8.5)を例に説明します。Mac OS 8.0をお使いの場合は「リモートアクセス」を「PPP」に置き換えてお読みください。

1 メニューバーの (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [リモートアクセス] (または [PPP]) を選択します。

[リモートアクセス] (または [PPP]) 画面が表示されます。

2 「登録利用者」が になっていることを確認します。

3 「名前」(ユーザID)、「パスワード」を入力します。

「ユーザID」(ユーザ名)「パスワード」は、プロバイダのユーザ設定情報などの資料にしたがって入力します。

文字は半角の英数字で入力します。大文字、小文字の区別もプロバイダの指示にしたがってください。

「パスワードを保存」を にすると入力したパスワードが保存され、次回から入力する必要がなくなります。

4 「電話番号」に、プロバイダの最寄りのアクセスポイントの電話番号を、半角で入力します。

ハイフンや()は入力する必要はありません。

5 **オプション** ボタンをクリックします。
[オプション] 画面が表示されます。

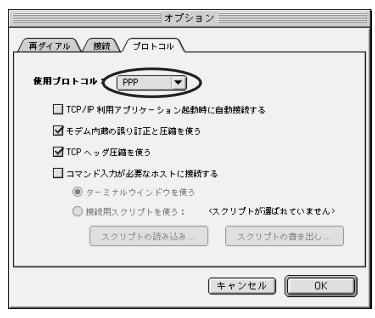
6 [接続] タブをクリックします。

7 「操作しないまま10分間が過ぎたら接続を切る」を にしておきます。



8 [プロトコル] タブをクリックします。

9 「使用プロトコル」を「PPP」にします。

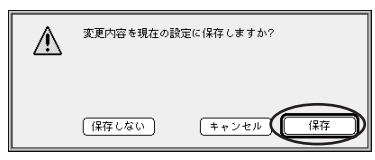


10 「モデム内蔵の誤り訂正と圧縮を使う」、「TCP ヘッダ圧縮を使う」をそれぞれ にします。

11 **OK** ボタンをクリックします。
[リモートアクセス] (または [PPP]) 画面にもどります。

12 [リモートアクセス] (または [PPP]) 画面のクローズボックスをクリックします。

13 **保存** ボタンをクリックします。




リモートアクセス (または PPP) の設定が終了します。

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

① RS7から接続する場合は、前面のPHSランプが緑色に点灯していることを確認します。

② メニューバーの  (アップルメニュー)から[コントロールパネル][リモートアクセス](または[PPP])を選択します。

[リモートアクセス](または[PPP])画面が表示されます。

③ **接続** ボタンをクリックします。



このとき、接続するアクセスポイントや通信方式によって、「電話番号」の末尾に次の文字を入力すると、通信モードを指定して発信できます。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PF」と入力 (IWX70)

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PD」と入力 (IWX70)

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbpsマルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PB」と入力



デュアルリンクワイヤレス通信でRS7から発信するとき

電話番号の末尾に「DL」と入力



IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなげると、名前(ユーザID)とパスワードの認証がこなわれます。そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続され次の画面が表示されます。



IWX70の液晶ディスプレイに、データ通信中を表す  または  が表示されます。RS7から接続したときは、PHSランプが緑色または赤色に点滅します。

IWX70液晶ディスプレイ

	Bチャンネル1つで64kbps通信中
	Bチャンネル2つで128kbps通信中
B1	B1チャンネル使用中
B2	B2チャンネル使用中

RS7などの子機からPIAFSスルーモードでインターネットに接続した場合は  /  は表示されません。

RS7 PHSランプ

緑色点滅	無線チャネル1つで 32kbps通信中
赤色点滅	無線チャネル2つで 64kbps通信中

4

[リモートアクセス](または[PPP])画面の **接続を切る** ボタンをクリックしてから、クローズボックスをクリックします。

ブラウザソフトを終了しても電話はつながったままになっています。インターネットの接続を終了するとき、必ずこの画面の **接続を切る** ボタンをクリックしてください。

INSネット64との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70の液晶ディスプレイに「データセッタン」と約20秒間表示されます。



インターネットの接続を終了するときには、ブラウザソフトを終了させただけでは回線は切断されません。必ず切断操作をしてください。

接続を切る ボタンをクリックしてもIWX70の液晶ディスプレイに \rightarrow / \leftarrow が表示されているときや、RS7のPHSランプが緑色/赤色で点滅しているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときはIWX70に接続されているINS回線ケーブルを抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してから、INS回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合にIWX70が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間をおいてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに、認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

2-9 . インターネット接続の手動設定 (WindowsNT4.0)

WindowsNT4.0の場合、『らくらくアシスタント』でインターネットに接続するための設定をすることはできません。以下の手順にそって、手動でインターネット接続の設定をしてください。

以降の手順は、WindowsNT4.0搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS7を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70またはRS7を、インターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をパソコンにセットします。

[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。

3 [CD-ROMの終了]をクリックします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

5 [モデム]アイコンをダブルクリックします。



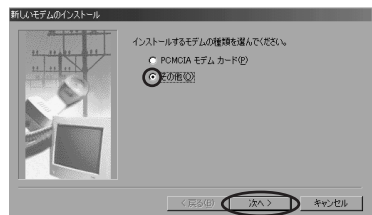
モデム

他にモデム情報がインストールされている場合は次の画面が表示されます。[追加] ボタンをクリックし、**6**に進みます。

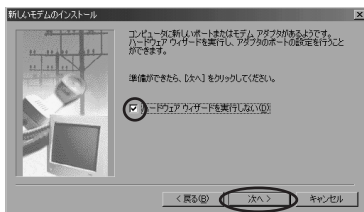


[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

6 「その他」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

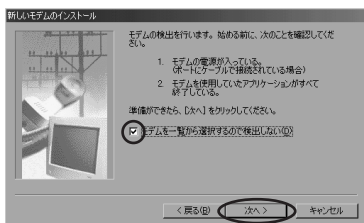


- 7 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にし、**次へ** ボタンをクリックします。



この画面が表示されない場合は、**5**に進みます。

- 8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にし、**次へ** ボタンをクリックします。

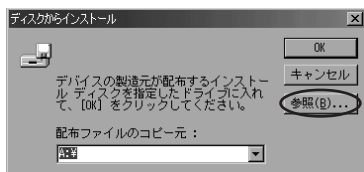


- 9 **ディスク使用** ボタンをクリックします。



[ディスクからインストール]画面が表示されます。

- 10 **参照** ボタンをクリックします。



- 11 「ドライブ」の をクリックしてCD-ROMドライブ()を選択し、「フォルダ」欄の「inetnet」をダブルクリックします。

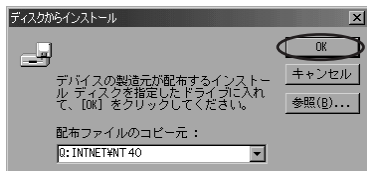


- 12 「nt40」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnet.inf」をクリックして**OK** ボタンをクリックします。



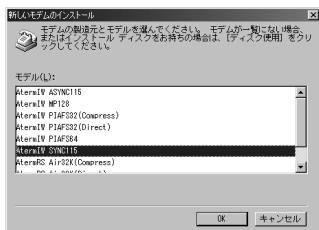
[ディスクからインストール]画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。

- 13 **OK** ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

使用するモデムを選択します。



IWX70とRS7ではモデムの種類が異なります。

パソコンをIWX70またはRS7のどちらに接続しているかによって、次のいずれかの表を参照してください。

IWX70

接続するアクセスポイントが対応する接続条件によって、次のように選択します。

通常は、「AtermIW SYNC115」(ISDN 回線同期 64kbps) を選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN 回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN 回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN 回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermIW PIAFS32 (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS64K	AtermIW PIAFS64

アクセスポイントが対応している接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

RS7

IWX70(親機)との無線区間の通信方式によって、次のように選択します。ワイヤレスセットで特に変更がない場合や、IWX70のモデムの種類をISDN用にした場合は、「AtermRS Air64K (DualLink)」(デュアルリンクワイヤレス通信)を選択します。

無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
デュアルリンクワイヤレス通信 (64kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

「デュアルリンクワイヤレス通信」はNEC独自の通信方式で、無線2チャネルを使って64kbpsの速度で親機と通信し、同期/非同期アクセスポイントに接続できます。

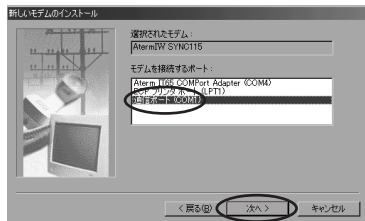
15

OK ボタンをクリックします。

16

IWX70 または RS7 を接続しているポートを選択し、次へ ボタンをクリックします。

USB ポートに接続している場合は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



17

完了 ボタンをクリックします。

モデム情報がインストールされます。

18

CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたことを確認し、CD-ROMを取り出します。

リモートアクセスサービスの設定

① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

[ネットワーク] 画面が表示されます。

③ [サービス] タブをクリックします。

④ 「リモートアクセスサービス」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



「リモートアクセスサービス」が組み込まれていない場合は、**追加** ボタンをクリックして組み込んでください。

[リモートアクセスセットアップ] 画面が表示されます。

⑤ **追加** ボタンをクリックします。



[RAS デバイスの追加] 画面が表示されます。

⑥ 「RAS対応デバイス」から、アクセスポイントに対応したモデムを次のように選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 64 kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線 128 kbps (同期)	AtermIW MP128

⑦ **OK** ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

⑧ **構成** ボタンをクリックします。



[ポート使用の構成] 画面が表示されます。

⑨ 「ポートの使い方」の「ダイヤルアウトのみ」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

「ダイヤルアウトのみ」を選択すると発信専用になります。着信も受ける場合は「ダイヤルアウトと着信」を選択します。ただし「ダイヤルアウトと着信」を選択するとRAS着信待ちとなってCOMポートを占有するため、『らくらくアシスタント』が起動できなくなります。『らくらくアシスタント』を使用するときには、いったん「ダイヤルアウトのみ」に切り替え、設定終了後「ダイヤルアウトと着信」にもどしてください。

10

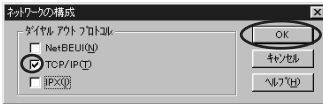
ネットワーク ボタンをクリックします。



[ネットワークの構成] 画面が表示されます。

11

「ダイヤルアウトプロトコル」の「TCP/IP」を にし、「OK」ボタンをクリックします。



[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

12

実行 ボタンをクリックします。



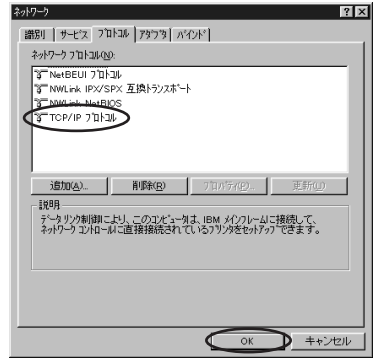
[ネットワーク] 画面にもどります。

13

[プロトコル] タブをクリックします。

14

「ネットワークプロトコル」に「TCP/IPプロトコル」が追加されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



[ネットワーク設定の変更] 画面が表示されます。

15

はい ボタンをクリックします。

WindowsNT 4.0 が再起動します。

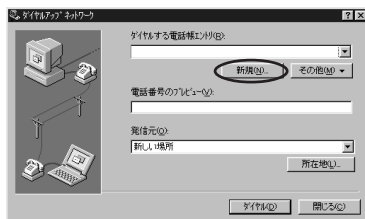
プロバイダの設定

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。

- ① **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ダイヤルアップネットワーク] を選択します。

[ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。

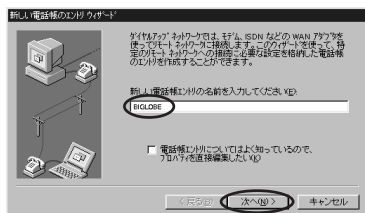
- ② **新規** ボタンをクリックします。



[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されます。

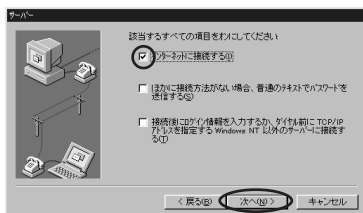
[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されないときは、⑦以降の操作を実行してください。

- ③ プロバイダの名前などを任意に入力し、**次へ** ボタンをクリックします。
名前は英数、カナ、漢字、半角などが入力できます。ここで入力した名前が接続用アイコンが作成されます。



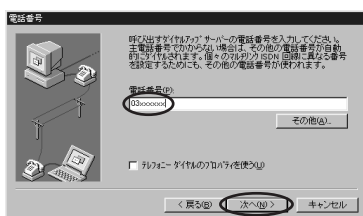
ここでは例として「BIGLOBE」と入力します。

- ④ 「インターネットに接続する」を にし、**次へ** ボタンをクリックします。



[電話番号]画面が表示されます。

- ⑤ 接続するプロバイダのアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



このとき接続するアクセスポイントや通信方式によって、「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PF」と入力 (IWX70)

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PD」と入力 (IWX70)

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbpsマルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき

電話番号の末尾に「PB」と入力

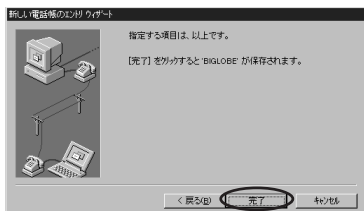
デュアルリンクワイヤレス通信でRS7から発信するとき

電話番号の末尾に「DL」と入力

この指定をした場合は「テレフォニーダイヤルのプロパティを使う」の をクリックして にします。

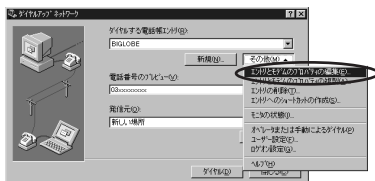
[新しい電話帳のエントリウィザード]画面にもどります。

6 **完了** ボタンをクリックします。



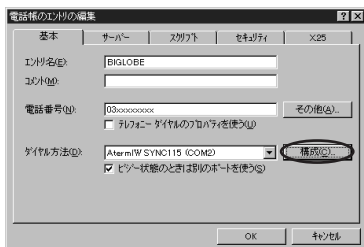
[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどります。

7 **その他** ボタンをクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]を選択します。



[電話帳のエントリの編集]画面が表示されます。

8 設定内容を確認して **構成** ボタンをクリックします。



[モデムの構成]画面が表示されます。

9 「初期速度」を「115200」に設定します。

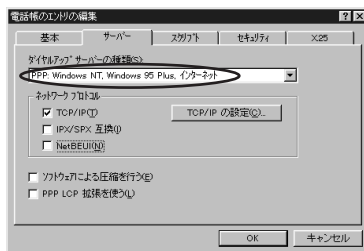


10 「ハードウェアの機能」の「ハードウェアフロー制御を行う」を にします。

11 他は にし、**OK** ボタンをクリックします。

[電話帳のエントリの編集]画面にもどります。

12 [サーバー] タブをクリックし、「ダイヤルアップサーバーの種類」を「PPP: Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」にします。



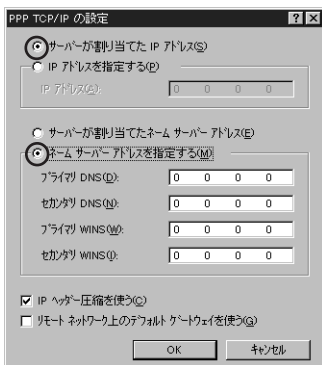
13 「ネットワークプロトコル」の「TCP/IP」を にします。

他は にし、**TCP/IPの設定** ボタンをクリックします。

[PPP TCP/IPの設定]画面が表示されます。

14

「サーバーが割り当てた IP アドレス」、
「ネームサーバーアドレスを指定する」
を選択します。



15

「プライマリ DNS」と「セカンダリ DNS」に、プロバイダから指定された IP アドレスを半角で入力します。

設定内容はプロバイダによって異なります。プロバイダのユーザ情報資料などにしたがって入力してください。

「セカンダリ DNS」はプロバイダから指示がなければ入力しなくても問題ありません。

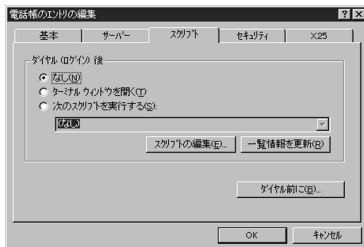
16

「IP ヘッダー圧縮を行う」を にし、
OK ボタンをクリックします。

[電話帳のエントリの編集] 画面にもどります。

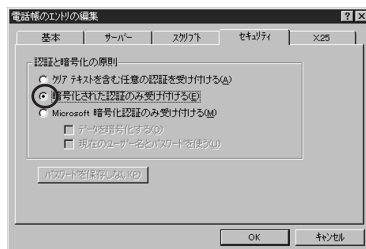
17

[スクリプト] タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認します。



18

[セキュリティ] タブをクリックし、「認証と暗号化の原則」の「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」または「暗号化された認証のみを受け付ける」を選択します。



19

[X25] タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認して
OK ボタンをクリックします。



[ダイアルアップネットワーク] 画面にもどります。

20

閉じる ボタンをクリックします。
プロバイダの設定が完了します。



接続アイコンは複数登録することができます。PIAFS アクセスポイント用とITMUX用など、通信方式ごとに接続アイコンを作って、接続方法を使い分けることもできます。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

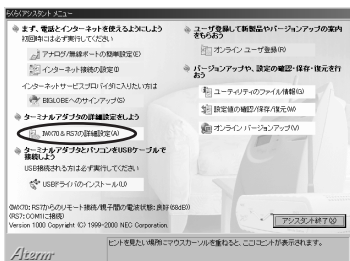
IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。

RS7からインターネットに接続するときは、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているため、初期値のままでも発信できます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

- 1 **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ] [IWX70&RS7らくらくアシスタント] を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

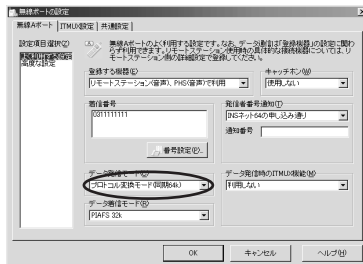
- 2 [IWX70&RS7の詳細設定]をクリックします。



[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

- 3 無線 A ポートを選択します。
[無線ポートの設定]画面が表示されます。

- 4 「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

RS7のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード（非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8K/38.4K/57.6K）

RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード（同期64K）
RS7の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。[初期値]

- 5 **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」を使用して、発信モードを選択することもできます。（「3-1. データ通信の機能」）

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

- RS7から接続する場合は、前面のPHSランプが緑色に点灯していることを確認します。

- スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ダイヤルアップネットワーク] を選択します。

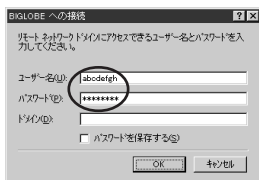
[ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。

- ダイヤル** ボタンをクリックします。



電話帳に登録したプロバイダ名の接続画面が表示されます。

- 「ユーザー名(ユーザID)」と「パスワード」を入力します。



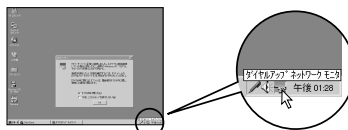
「パスワードを保存する」をクリックして にすると、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

「ドメイン」は空欄にしておきます。

- OK** ボタンをクリックします。

IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。

プロバイダに電話をかけてつながると、ユーザー名(ユーザID)とパスワードの確認がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。タスクトレイのインジケータに [ダイヤルアップネットワークモニタ] のアイコンが表示されます。



INS ネット 64 に接続されます。

IWX70の液晶ディスプレイに、データ通信中を表す \rightarrow または \Rightarrow が表示されます。RS7から接続したときは、PHSランプが緑色または赤色に点滅します。

IWX70 液晶ディスプレイ

\rightarrow	Bチャンネル1つで64kbps通信中
\Rightarrow	Bチャンネル2つで128kbps通信中
B1	B1チャンネル使用中
B2	B2チャンネル使用中

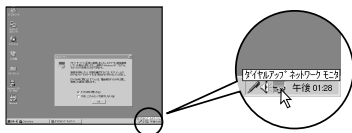
RS7などの子機からPIAFSスルーモードでインターネットに接続した場合は \rightarrow / \Rightarrow は表示されません。

RS7 PHSランプ

緑色点滅	無線チャンネル1つで32kbps通信中
赤色点滅	無線チャンネル2つで64kbps通信中

6

タスクトレイのインジケータの [ダイヤルアップネットワークモニタ] アイコンをダブルクリックします。



7

[ダイヤルアップネットワークモニタ] 画面の [状態] タブ内の、**切断** ボタンをクリックします。

8

はい ボタンをクリックします。

INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70 の液晶ディスプレイに「データセツタン」と約 20 秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしても、IWX70 の液晶ディスプレイに \rightarrow / \leftarrow が表示されているときや、RS7 の PHS ランプが緑色 / 赤色で点滅しているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときは IWX70 に接続されている INS 回線ケーブルを抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS 回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してから INS 回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合に IWX70 が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて 3 分間で 2 回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間を置いてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに、認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

3

データ通信の機能

インターネット通信やリモートアクセスするときのさまざまな機能と、Atermのメール機能を説明します。

データ通信の機能

Atermのメール機能

Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

3-1 . データ通信の機能

IWX70 と RS7 で使用できるデータ通信機能は次のとおりです。

表内の「RS7 機能利用」はRS7 で利用できる機能です。IWX70 では、通信モード指定発信以外のすべての機能が利用できます。



Atermの機能またはINSネット64の基本サービスで利用できる機能で、通話料金以外の課金はありません。



INSネット64の付加サービスで、表に書かれている付加サービスの契約と月額料金が必要です。

= 利用できます x = 利用できません

機能名	目的	必要な付加サービスの契約	RS7 機能利用
同期64kbpsインターネット通信（非同期/同期PPP変換）	同期PPP接続機能を持たないパソコンから同期アクセスポイントに接続する	¥0 なし	x
128kbpsマルチリンクPPP通信（MP通信）	Bチャンネル2本で高速データ通信をする	¥0 なし	x
リソースBOD	通信状態によって通信速度を64Kと128Kに切り替える	¥0 通信中着信通知サービス	x
スループットBOD		¥0 なし	x
PIAFS通信	PHSとデータ通信する	¥0 なし	
マルチアクセス	2台のパソコンから別々のプロバイダに接続する	¥0 なし	
ITMUX	2台のパソコンからBチャンネル1本で同じプロバイダに同時に接続する	¥0 なし	
通信モード指定発信	子機から通信モードを指定して発信する	¥0 なし	
無通信監視タイマ	一定時間通信がないときに切断する	¥0 なし	
強制切断タイマ	一定時間を超えたら通信を切断する	¥0 なし	
スティルスコールバック	サーバとクライアント間通信でクライアントに通話料金を発生させない	¥0 なし	
応答平均化	複数のAtermの着信応答を平均化する	¥0 なし	x
HLC	高位レイヤ整合性を設定する	¥0 なし	x
CTI機能	発信者番号などをデータポートに送出する	¥0 なし	x



お知らせ

表内の「機能名」の上でクリックすると、その機能の説明のページにジャンプできます。

設定の仕方

データ通信の機能は『らくらくアシスタント』、またはATコマンドで設定します。『らくらくアシスタント』の使い方は取扱説明書の「5-2．親機の電話機能」を参照してください。ATコマンドについては、「5．ATコマンド」を参照してください。

本章の読み方

この章では次のアイコンを用いて説明します。



IWX70 に接続したパソコンで利用できる機能を表します。



RS7 に接続したパソコンで利用できる機能を表します。



データ通信の機能を使うために必要な設定を説明します。各マークのうしろに書かれているところを参照してください。

ここではWindows 版の『らくらくアシスタント』の画面を例に説明しています。



Windows搭載のパソコンで設定する場合に参照してください。



Macintosh で設定する場合に参照してください。

同期 PPP (Point to Point Protocol) 接続機能を持たないパソコン (非同期 PPP 接続機能を持つパソコン) から、インターネットプロバイダの ISDN 回線 64 kbps (同期) のアクセスポイントに接続します。



設定

インターネット接続の設定で、モデムの種類 (接続方式) を「ISDN 回線 64 kbps (同期)」に設定します。

Windows

『らくらくアシスタント』で設定するか、またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「AtermIW SYNC115」に設定します。

取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2. 手動セットアップ」

Macintosh

『らくらくアシスタント』またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「NEC AtermIW 64kPPP」に設定します。

取扱説明書「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2-8. インターネット接続の手動設定」



AT コマンドで指定する場合は、発信する前に「AT\$N1=1」と入力します。

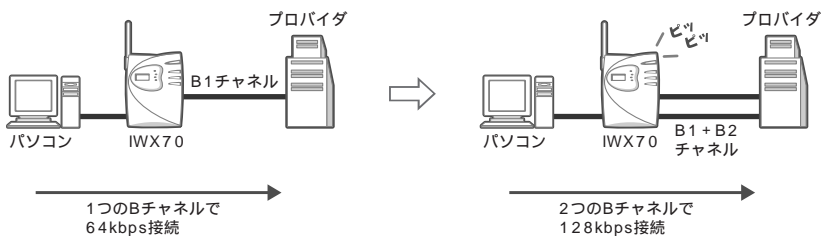


Macintosh で、ネットワークからの ACCM を許容しない PPP アプリケーションを使用している場合は、『らくらくアシスタント』で「ACCM を付加する」の をクリックして にしてください。
(ACCM = Async Control Character Map の略。非同期 PPP 通信で使用する制御キャラクタを 2 バイトのキャラクタに変換するかどうかを決める。)

128kbps マルチリンク PPP 通信 (MP 通信)

ISDN回線128kbps(同期)対応のアクセスポイントに対して、1本目のBチャンネルでPPP接続を完了後、もう1本のBチャンネルで同様に発信し、128kbpsの高速データ通信をおこないます。128kbps マルチリンク PPP 通信の状態になると、IWX70のブザーが「ピッピッ」と鳴ります。

IWX70



設定

インターネット接続の設定で、接続方式を「ISDN回線128kbps(同期)」に設定します。

Windows

『らくらくアシスタント』で設定するか、またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「AtermIW MP128」に設定します。

取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2. 手動セットアップ」

Macintosh

『らくらくアシスタント』またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「NEC AtermIW MP」に設定します。

取扱説明書「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2-8. インターネット接続の手動設定」



AT コマンドで指定する場合は、発信する前に「AT\$N11=1」と入力します。
128kbps マルチリンク PPP 通信で発信しても、プロバイダのアクセスポイントのポートが空いていない場合は、64kbps の接続になることがあります。
128kbps マルチリンク PPP 通信は B チャネルを 2 本使用するので、通信中に電話機やファクスを使用することはできません。電話機やファクスも使用するには「リソース BOD」を設定しておきます。なお、電話機を同時に使用したときは 64kbps 通信になります。
128kbps マルチリンク PPP 通信中の通信料金は、B チャネル 1 本のときの 2 倍かかります。
128kbps マルチリンク PPP 通信をおこなうには、プロバイダ側が認証プロトコルとして PAP (パスワード認証プロトコル) をサポートし、1 本目と 2 本目の B チャネルのネゴシエーションを同じ値で容認できる必要があります。ほとんどのプロバイダはこれに対応しています。128kbps マルチリンク PPP (MP) 対応のアクセスポイントに接続してください。
AtermIW シリーズ、ITX シリーズ、IT75 シリーズ、60/D、65EX シリーズ、65 シリーズ、50DSU、40/D、55 シリーズ どうしであれば、128kbps マルチリンク PPP 通信を対向で実行することができます。この場合は発信側と着信側に AT コマンドで「AT\$M8=0」を設定してください。また、受信側では「応答平均化」を使用しないでください。他の機種との 128kbps マルチリンク PPP 対向通信はできません。



128kbps マルチリンク PPP 通信に対応しているかどうかは、プロバイダによって異なります。プロバイダに確認の上、128kbps マルチリンク PPP 通信に対応しているアクセスポイントに接続してください。
IWX70 のシリアルポートを使用している場合は、パソコンのシリアルポートの最高速度を 115.2kbps に設定します。なお、この場合は 128kbps の速度を得ることはできません。Windows Me/Windows 98/Windows 95 で 128kbps の通信速度を得るには、230.4kbps に対応した市販の高速 RS-232C ボードを購入してください。Macintosh の場合は 230.4kbps 対応の機種の場合のみ使用できます。
Macintosh でネットワークからの ACCM を許容しない PPP アプリケーションをお使いの場合は、『らくらくアシスタント』で「ACCM を付加する」の をクリックして にしてください。
(ACCM = Async Control Character Map の略。非同期 PPP 通信で使用する制御キャラクタを 2 バイトのキャラクタに変換するかどうかを決める。)

INS ネット 64 は 1 本分の契約で B1 チャンネル、B2 チャンネルの 2 つの B チャンネルが同時に利用できるので、B チャンネル 2 本をたばねて使って（パルク転送）、128kbps マルチリンク PPP 通信が可能です。さらに BOD 機能を使用することによって、通信状態やデータ量に応じて B チャンネルの数を切り替え、効率のよいデータ通信をおこなうことができます。（BOD = Bandwidth On Demand）

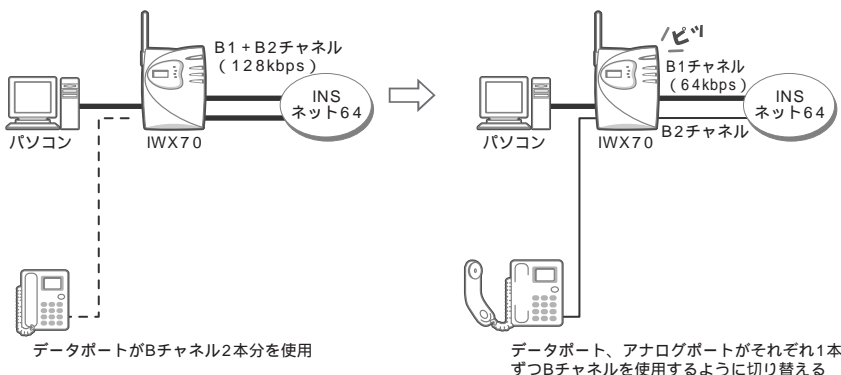


リソース BOD

128kbps マルチリンク PPP 通信中に、アナログポートに接続している電話機に発信または着信があると、データ通信で使用している 2 本の B チャンネルの 1 つを削除して、電話機が使用できるようにします。通話が終了すると、128kbps マルチリンク PPP 通信にもどります。



INS ネット 64 の「通信中着信通知サービス」を契約します。月額料金はかかりません。



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で IWX70 を接続しているデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「MP・BOD 機能」を選択します。
MP・BOD 機能を設定する画面になります。

- ③ 「リソース BOD を行う」をクリックして にします。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。

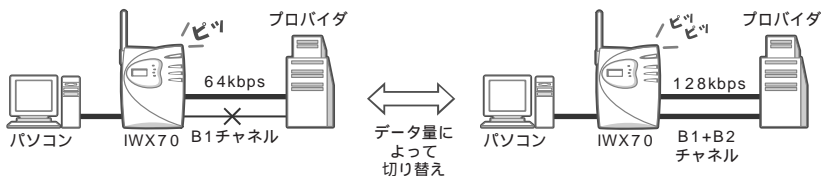
[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



Bチャンネルの1つが削除されたときや、通信終了時には「ピッ」と音が鳴ります。2つ目のBチャンネルが追加されたときは「ピッピッ」と音が鳴ります。接続するプロバイダの回線状況によっては、電話終了後に2つ目のBチャンネルを追加できないことがあります。そのときは電話機の受話器を上げて2秒ほど待ってから受話器をもどすと、再度Bチャンネルの追加がおこなわれます。2つ目のBチャンネルが追加されたときに電話をかけようとして受話器を上げると、話し中になることがあります。その場合は再度電話をかけ直してください。リソースBODとスループットBODの両方を設定した場合、スループットがしきい値以上になったときだけ、Bチャンネルが追加されます。電話を切ったあとでも条件が合わなければ、Bチャンネルは追加されません。リソースBODを設定しておく、128kbps マルチリンク PPP 通信中に、IWX70 前面のファンクションボタンを使って通信速度を切り替える「マニュアルBOD」が使用できます。(取扱説明書「6-1. ファンクションボタンで操作する」)リソースBODを利用すると、128kbps マルチリンク PPP 通信中に64K同期通信の発信をすることができます。INSネット64の無料の付加サービス「通信中着信通知サービス」を契約しないと、着信時はリソースBODがはたらきません。

スループットBOD

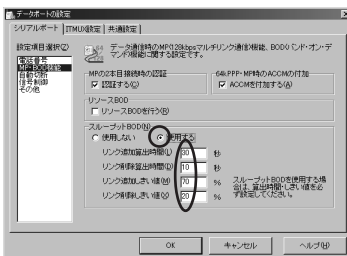
128kbps マルチリンク PPP 通信中に、通信データの量によって、使用する B チャンネルの数を変更します。通信データ量が少ないときは 1 つの B チャンネルを使用し、データ量が多いときだけ 2 つの B チャンネルを使用します。B チャンネルを追加することを「リンク追加」、B チャンネルを削除することを「リンク削除」といいます。リンク追加・削除をおこなう条件として、しきい値と算出時間を設定します。



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で IWX70 を接続しているデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「MP・BOD 機能」を選択します。
MP・BOD 機能を設定する画面になります。
- ③ 「スループットBOD」で「使用する」を選択し、リンク追加・削除をおこなう算出時間としきい値を指定します。



「しきい値」は回線利用率 (%) で指定します。

$$\text{回線利用率(\%)} = (\text{一定時間のデータ量の平均値}) \div (\text{回線の最大データ量}) \times 100$$

$$\text{回線の最大データ量} = 64\text{kbps} (= 8\text{kbps/秒})$$

例 リンク追加算出時間 = 30 秒、リンク追加しきい値 = 70% のとき

30 秒間の回線利用率が 70% より大きくなったとき (30 秒間のデータ量の平均値が 44.8kbps より大きくなったとき) B チャンネルを追加

④ ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



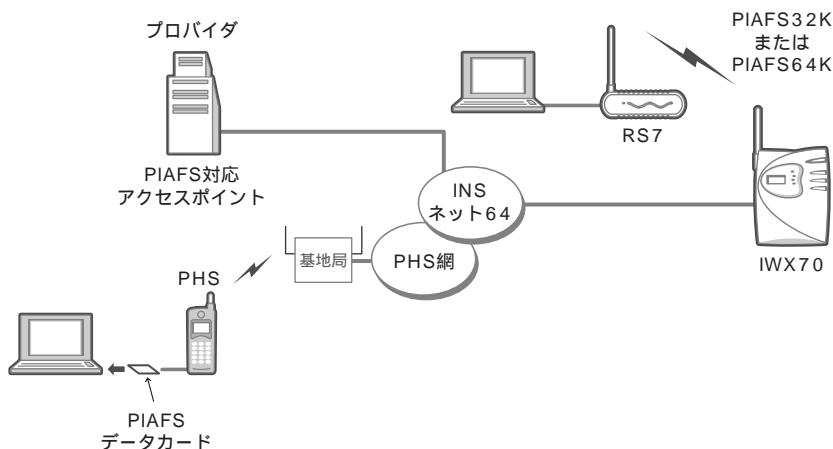
リンク追加・削除の算出時間・しきい値の値によっては、何度も接続や切断を
してしまうことがあります。設定値を変更する場合は、注意してください。

PIAFS (ピアフ) 通信

IWX70またはRS7に接続されたパソコンから、PHSを接続したノートパソコンなどにダイヤルアップ接続し、データの送受信ができます。PIAFS(ピアフ)とはPHSで高品質なデータ通信を実現するために標準化された規格です。IWX70はPIAFS2.0版とPIAFS2.1版、RS7はPIAFS2.0版に対応しており、PHS網とINSネット64を介して、PIAFS32K通信またはPIAFS64K通信ができます。

IWX70

RS7



データ通信の機能

3-1 データ通信の機能

PHS から着信する

外部のPHS端末などからPIAFSモードで着信があった場合、IWX70またはRS7が自動的に通信モードを判別してPIAFS通信をおこないます。

IWX70 で発信する

次の2つの方法があります。

インターネット接続の設定で、IWX70のモデムの種類(接続方式)を「PIAFS」に設定します。

Windows

『らくらくアシスタント』で設定するか、またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「AtermIW PIAFS32」または「AtermIW PIAFS64」に設定します。

取扱説明書「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

「2. 手動セットアップ」

PIAFS対応アクセスポイントを選択すると、自動的にモデムの種類が設定されます。

Macintosh

『らくらくアシスタント』またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「NEC AtermIW 32kPIAFS」または「NEC AtermIW 64kPIAFS」に設定します。

取扱説明書「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

「2-8. インターネット接続の手動設定」

インターネット接続の設定で、IWX70のモデムの種類(接続方式)を「同期64K」に設定しておき、接続するときに相手の電話番号の末尾に次の文字を付けて発信します。

PIAFS32K	電話番号の末尾に「PF」を付けて発信
PIAFS64K (PIAFS2.0)	電話番号の末尾に「PD」を付けて発信
PIAFS64K (PIAFS2.1)	電話番号の末尾に「PP」を付けて発信

RS7 で発信する

次の2つの方法があります。

IWX70の無線ポートのデータ発信モードを「PIAFS スルーモード」に設定し、RS7のインターネット接続の設定で、モデムの種類を以下のように設定します。

Windows

『らくらくアシスタント』で設定するか、またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を次のように設定します。

PIAFS32K (圧縮なし)	「AtermRS Air32K (Direct)」
PIAFS32K (圧縮あり)	「AtermRS Air32K (Compress)」
PIAFS64K	「AtermRS Air64K (DualLink)」

取扱説明書「3-3．らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2．手動セットアップ」

PIAFS対応アクセスポイントを選択すると、自動的にモデムの種類が設定されます。

Macintosh

『らくらくアシスタント』またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を次のように設定します。

PIAFS32K (圧縮なし)	「NEC AtermRS Direct」
PIAFS32K (圧縮あり)	「NEC AtermRS Compress」
PIAFS64K	「NEC AtermRS DualLinks」

取扱説明書「4-3．らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2-8．インターネット接続の手動設定」

インターネット接続の設定で、IWX70のモデムの種類(接続方式)を「PIAFS スルーモード」に設定しておき、接続するときに相手の電話番号の末尾に「DL」を付けて発信します。



WindowsMe/Windows98の場合は接続用アイコンの[プロパティ]で「市外局番とダイヤルのプロパティ」のチェックボックスが になっていると、正しく発信できないことがあります。その場合はチェックボックスをクリックして にして発信してください。

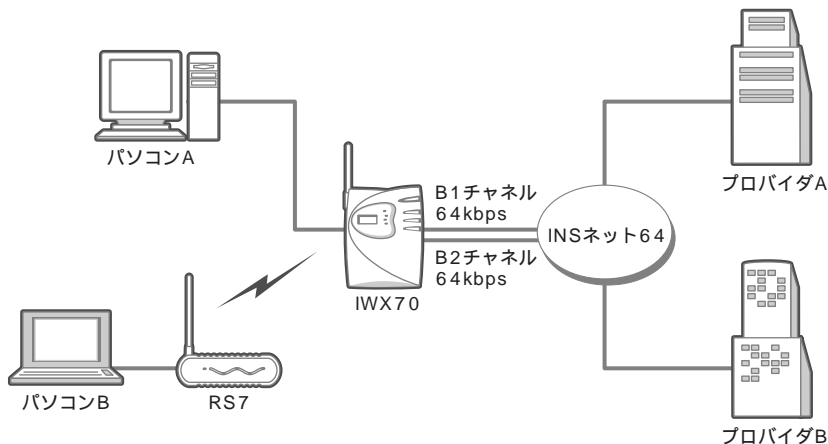
PIAFS64K通信をおこなう場合は、「発信者番号通知」を通知するように設定してください。(取扱説明書「5-2．親機の電話機能」)



PIAFS (PHS Internet Access Forum Standard) は、高品質なデータ通信のために標準化された規格です。

マルチアクセス

2台のパソコンから別々のプロバイダに同時に接続することができます。パソコン1台につき1つのBチャンネルを使用し、それぞれ最高64kbpsの速度で接続します。



使い方

- 1 1台目のパソコンから同期64Kでインターネットに接続します。
1本目のB1チャンネルを使って、64kbpsで接続します。
- 2 2台目のパソコンから同期64Kでインターネットに接続します。
2本目のB2チャンネルを使って、64kbpsで接続します。

設定

インターネット接続の設定で、モデムの種類(接続方式)を「同期64K」、「非同期」(シリアルポート接続のみ)または「PIAFS」のいずれかに設定します。「128kbpsマルチリンクPPP通信」の設定をしていなければ、設定の変更は必要ありません。

Windows

『らくらくアシスタント』で設定するか、またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「AtermIW MP128」以外に設定します。

取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2.手動セットアップ」

Macintosh

『らくらくアシスタント』またはインターネット接続の手動設定で、モデムの種類を「NEC AtermIw MP」以外に設定します。

取扱説明書「4-3 . らくらくアシスタントで簡単に設定する」
「2-8 . インターネット接続の手動設定」



マルチアクセスはBチャンネルを2本使用するので、通信料金はBチャンネル1本のときの2倍かかります。

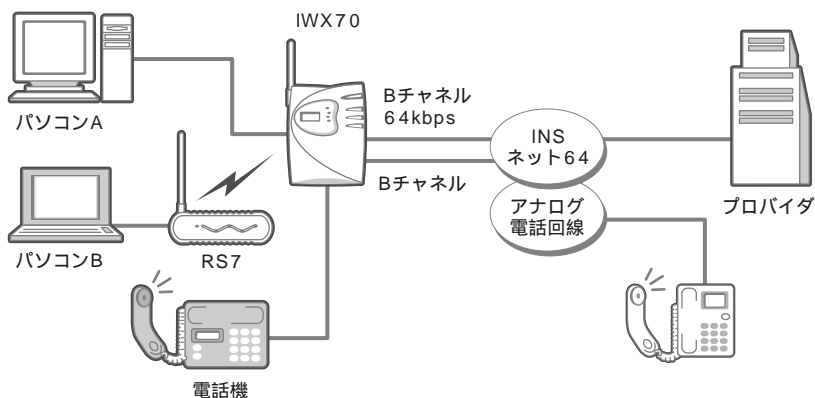
マルチアクセスはBチャンネルを2本とも使用するので、マルチアクセス通信中に電話機やファクスを使うことはできません。着信があった場合は、話し中になります。128kbps マルチリンク PPP 通信中は、マルチアクセス通信は使用できません。マルチアクセス中はチャンネル数を自動的に切り替える「BOD機能」は使用できません。

着信の場合もマルチアクセスが使用できます。その場合、『らくらくアシスタント』の[データポートの共通設定]でシリアルポートとUSBポートのどちらに優先的に着信させるかを指定できます。

マルチアクセスが利用可能な通信モードの組み合わせは次のとおりです。

2台のパソコンの組み合わせ	IW X 7 0		RS 7	増設した子機
	シリアルポート	USBポート		
IW X 7 0に2台のパソコンを接続した場合	同期64K	同期64K	-	-
IW X 7 0に1台、RS 7に1台のパソコンを接続した場合	同期64K	-	同期プロトコル変換 (PIAFS32K /PIAFS64K)	-
	-	同期64K	同期プロトコル変換 (PIAFS32K /PIAFS64K)	-
	同期64K	-	PIAFSスルー (PIAFS32K /PIAFS64K)	-
	-	同期64K	PIAFSスルー (PIAFS32K /PIAFS64K)	-
RS 7と他の子機に1台ずつパソコンをつないだ場合	-	-	同期プロトコル変換 (PIAFS32K)	PIAFSスルー (PIAFS32K)
	-	-	PIAFSスルー (PIAFS32K)	PIAFSスルー (PIAFS32K)

1つのユーザID（アカウント）で、2台のパソコンから同じプロバイダに同時に接続します。データ量が少ない通信の場合などは、2本のBチャンネルを使用したときよりも、通信費が節約できます。また、ITMUX通信中に空いているもう1本のBチャンネルで、電話やファクスが使用できます。



使い方

- ① 1台目のパソコンから同期64Kまたは同期128Kでインターネットに接続します。
- ② 1台目のパソコンの接続が完了してから、2台目のパソコンで同様にインターネットに接続します。

設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

Windows

『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]で「ITMUX機能を使用する」を選択します。

取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」

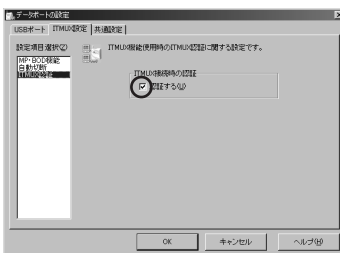
Macintosh

『らくらくアシスタント』で[データポートの詳細設定]と[無線ポートの詳細設定]を選択して設定します。

Windows で設定を変更する場合、またはMacintoshで設定する場合は以下のように設定します。

IWX70 のデータポートの設定

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、設定する IWX70 のデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② [ITMUX 設定] タブをクリックします。
- ③ 「設定項目選択」で「ITMUX 認証」を選択し、「認証する」をクリックして にします。



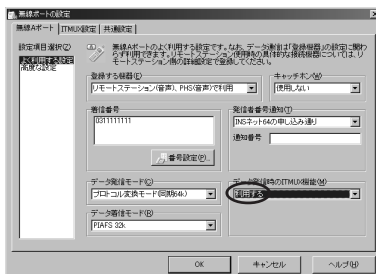
- ④ 「設定項目選択」の「MP・BOD 機能」と「自動切断」で必要な設定をします。
- ⑤ **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

パソコンを 2 台とも IWX70 に接続している場合は、シリアルポートと USB ポートの両方を設定します。

無線ポートの設定

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、設定する無線ポートを選択します。
[無線ポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「データ発信時の ITMUX 機能」で「利用する」を選択します。



③ 「設定項目選択」の「MP・BOD 機能」と「自動切断」で必要な設定をします。

④  ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



AT コマンドで指定する場合は、「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで電話番号の末尾に「PA」(64K モード) または「PB」(128K モード) を付けて発信します。2 台のパソコンは同じアクセスポイントに接続し、同じアカウント(ユーザID)とパスワードでログインします。2 台目のパソコンが接続したアクセスポイントが1 台目と異なっていると、ITMUX 機能は使用できません。

ITMUX が利用できる通信モードは同期 64K、または 128kbps マルチリンク PPP 接続の場合です。

無線ポートから ITMUX を利用する場合は、プロトコル変換モード(同期 64K)のみ使用できます。

同期 128K(128kbps マルチリンク PPP 通信)で接続しているときは B チャンネルを 2 本とも使用するので、通信料金は B チャンネル 1 本分の 2 倍かかります。また電話機を同時に使うことはできません。同期 128K で ITMUX 通信中に電話機も使用したい場合は、「リソース BOD」を設定してください。

無線ポート(RS7)の自動切断の設定は、RS7 の [データポートの設定] の「タイム」で設定します。

Macintosh の場合は『RS7 らくらくユーティリティ』の [データポートの設定] で設定します。

増設登録した PHS 電話機で ITMUX を利用する場合は、前ページの「無線ポートの設定」をおこない、PHS 電話機でダイヤルした電話番号の最後に「2」(同期 64K) または「3」(同期 128K)のどちらかのサブアドレスを付けて発信します。サブアドレスのダイヤルの仕方は、PHS 電話機の取扱説明書を参照してください。または、前ページの「無線ポートの設定」の「データ発信時の ITMUX 機能」で「常時利用する(同期 64K 通信時)」または「常時利用する(同期 128K 通信時)」を設定して、常に ITMUX 機能を利用するように設定することもできます。

スタイルスコールバック、USB ネットワークまたは内線データ通信を使用しているときは、ITMUX は使用できません。

ネットワークゲームなどのアプリケーションは動作しないことがあります。

PPP 接続のときのプロバイダ側の認証プロトコルは、PAP(パスワード認証プロトコル)のみです。VJC、MS-CBCP、MLPPP、CCP は使用できません。



1 台目のパソコンの接続が完了したことを確認してから、2 台目のパソコンで発信をしてください。

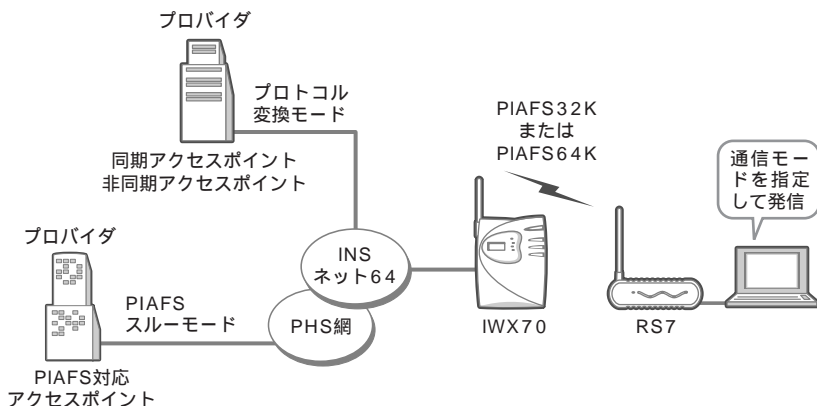
家族会員など、同じアクセスポイントに接続するけれども、異なるユーザIDで接続したいときは、『らくらくアシスタント』の「ITMUX 接続時の認証」で「認証する」を に設定してください。

通信モード指定発信

RS7 から通信モードを指定して発信することができます。

通常、RS7 などの子機から受け取ったデータをどのような通信方式で IWX70 が INS ネット 64 に発信するかは、IWX70 の無線ポートの「データ発信モード」で設定します。しかし、この IWX70 に設定されている通信モードを変更しないで、RS7 から通信モードを指定して発信することもできます。「通信モード指定発信」で発信したときだけ通信モードが変更できるので、一時的に PIAFS 対応アクセスポイントや非同期アクセスポイントに接続したいときなどに利用すると便利です。IWX70 側の設定は必要ありません。

RS7



使い方

ATコマンドの「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで、発信先の電話番号のあとに以下の通信モードのコードを指定します。

通信モード		PIAFS32K	PIAFS64K (デュアルリンク)
PIAFSスルー		P0	D0
プロトコル変換	非同期9.6kbps	P1	D1
	非同期14.4kbps	P2	D2
	非同期19.2kbps	P3	D3
	非同期28.8kbps	P4	D4
	非同期38.4kbps	P5	D5
	非同期57.6kbps	P6	D6
	同期64kbps	P7	D7

例 電話番号 03-1111-2222 に PIAFS32K、PIAFS スルーで接続する場合
ATD0311112222P0

例 電話番号 03-7777-8888、サブアドレス 99 に PIAFS64K (デュアルリンクワイヤレス通信)、同期 64K で接続する場合
ATD0377778888 * 99D7 (*はサブアドレスセパレータ)



通信モードについては、取扱説明書の「5-1. ワイヤレス通信機能」を参照してください。

「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで指定できるコマンドは、上記以外に次のものがあります。

通信モード	コード	発信可能
デュアルリンクワイヤレス通信	DL	IWX70・RS7
ITMUX (64Kモード)	PA	IWX70・RS7
ITMUX (128Kモード)	PB	IWX70・RS7
PIAFS32K	PF	IWX70
PIAFS64K (PIAFS2.0)	PD	IWX70
PIAFS64K (PIAFS2.1)	PP	IWX70

RS7 で指定可能な DL、PA、PB、PP は、IWX70 に指定されている無線ポートの通信モードにしたがって INS ネット 64 に発信されます。

Windows をお使いの場合、ITMUX (64K モード、128K モード) は『らくらくアシスタント』で設定することもできます。この場合は PA、PB を付ける必要はありません。

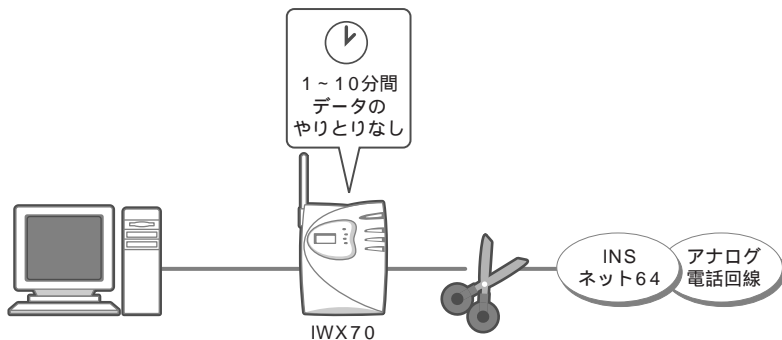
PIAFS64K の「デュアルリンクワイヤレス通信」は NEC 独自の通信方式です。

無通信監視タイマ

通信状態を監視し、一定時間データのやりとりがないと、自動的に通信を切断します。アクセスしていない間に、よけいな通信料金がかかることを防ぎます。

IWX70

RS7



データ通信の機能

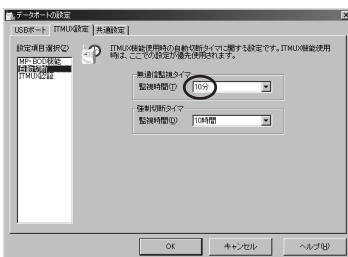
3-1 データ通信の機能

設定

『らくらくアシスタント』でIWX70またはRS7の設定をします。

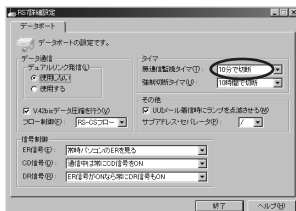
IWX70

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、設定するIWX70のデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「自動切断」を選択します。
- ③ 「無通信監視タイマ」で、監視する時間を1 ~ 10分の中から選択します。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で RS7 のデータポートを選択します。
[RS7 詳細設定] 画面が表示されます。
- ② 「タイマ」の「無通信監視タイマ」で、監視する時間を 1 ~ 10 分の中から選択します。



- ③ **終了** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



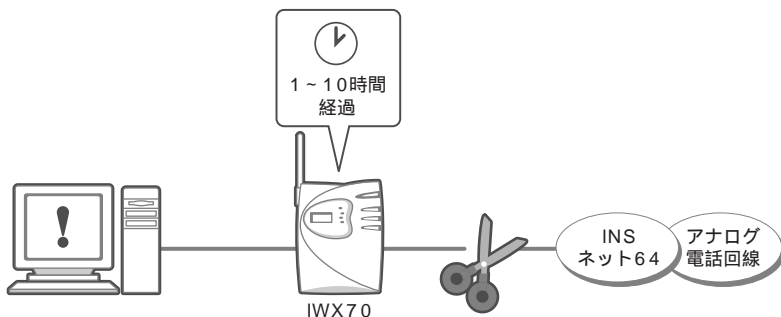
RS7 を Macintosh に接続している場合は、『RS7 らくらくユーティリティ』で設定します。



切断後は、再度ダイヤルアップ接続してください。
Macintosh で Open Transport PPP を使用している場合や、接続するプロバイダによっては、監視パケットなどを定期的に発信している場合があります。その場合は無通信監視タイマは無効となり、通信は切断されません。パソコンから切断操作をおこなってください。

強制切断タイマ

設定した通信時間を超えると、強制的に通信を切断します。パソコンで切断操作を忘れるなど、よけいな通信料金がかかることを防ぎます。定期的に監視データを発信するので、無通信監視タイマが利用できないプロバイダとの接続の場合でも、切断忘れを防ぐことができます。

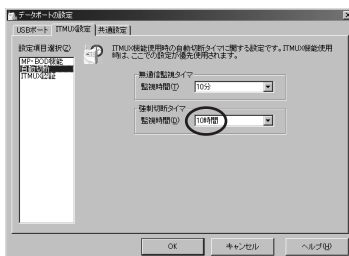


設定

『らくらくアシスタント』でIWX70またはRS7の設定をします。

IWX70 の設定

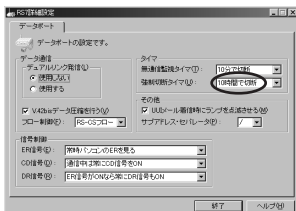
- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、設定するIWX70のデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「自動切断」を選択します。
- ③ 「強制切断タイマ」で、切断までの時間を1～10時間の中から選択します。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

RS7 の設定

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で RS7 のデータポートを選択します。
[RS7 詳細設定] 画面が表示されます。
- ② 「タイム」の「強制切断タイム」で、切断までの時間を 1 ~ 10 時間の中から選択します。



- ③ 「終了」ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



お知らせ

RS7 を Macintosh に接続している場合は、『RS7 らくらくユーティリティ』で設定します。



お願い

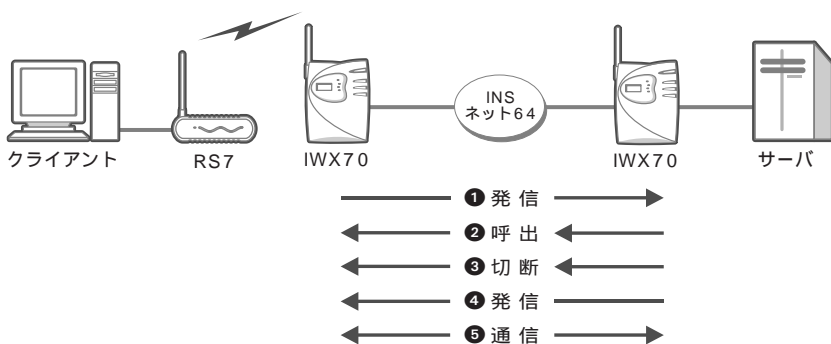
フレッツ・ISDN やテレホーダイなどを契約していて切断したくない場合は、強制切断タイムを設定しないでください。ただしフレッツ・ISDN の場合、通信していない間は電話が使用できるので、強制切断タイムを設定した方が回線が有効に使えます。
切断後は、再度ダイヤルアップ接続してください。

スタイルスコールバック

Aterm を使用したダイヤルアップサーバや RAS サーバなどと、リモートクライアントのネットワークの場合に、クライアントから発信するとサーバが接続をいったん切断してサーバからクライアントへ発信し直すことができます。電話料金はサーバ側にかかるので、クライアント側には通信料金がかかりません。

IWX70

RS7



データ通信の機能

3-1 データ通信の機能

使い方

クライアントパソコンから次のように発信します。

IWX70

ダイヤルアップネットワークで、電話番号の末尾に「CB」を付けて発信します。

RS7

ダイヤルアップネットワークで、電話番号の末尾に「/1」を付けて発信します。

設定

『らくらくアシスタント』で、クライアント（発信）パソコンとサーバ（着信）パソコンのそれぞれに設定をします。

RS7 の設定

RS7 でスタイルスコールバックを利用する場合は、次の設定をします。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、無線 A ポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② [共通設定] タブをクリックします。

- ③ 「外線データ通信の優先着信ポート」で「無線ポート」を選択します。



- ④ **OK** をクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

クライアントパソコンの設定

- ① IWX70 を設定します。

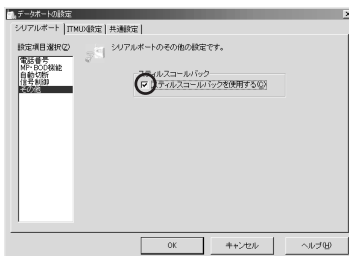
- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、パソコンを接続したデータポートまたは無線ポートを選択します。

[データポートの設定] 画面が表示されます。

無線ポートを選択した場合は [無線ポートの設定] 画面が表示されます。

- ② 「設定項目選択」で「その他」を選択します。
無線ポートの場合は「高度な設定」を選択します。

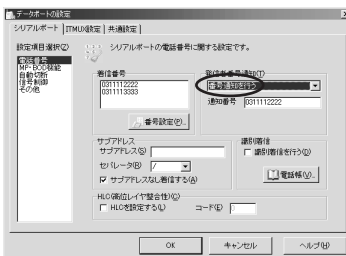
- ③ 「スティルスコールバックを使用する」(無線ポートの場合は「スティルスコールバックを行う」)をクリックして にします。



画面はシリアルポートを選択したときの例です。

- ④ 「設定項目選択」で「電話番号」を選択します。
無線ポートの場合は「使用する設定」を選択します。

- ⑤ 「発信者番号通知」で「番号通知を行う」を選択します。



画面はシリアルポートを選択したときの例です。

- ② クライアントパソコンが接続された IWX70 または RS7 の設定をします。
- ① AT コマンドで「RS-CS フロー制御あり」(初期値)に設定します。
AT コマンド AT¥Q=3
 - ② AT コマンドで「自動応答」(初期値は RING1 回で自動応答)に設定します。
AT コマンド ATS0=1

サーバパソコンの設定

- ① IWX70 を設定します。
 - ① クライアントパソコンと同じ設定をします。
 - ② サーバを待ち受け状態 (ER 信号を ON) にします。

お知らせ

Aterm シリーズの IWX70、IT21L、ITX シリーズ、IW50/D、IT75 シリーズ、60L シリーズ、60/D、40/D、65EX シリーズ、65 シリーズ、50DSU、55 シリーズ、45 シリーズ、25DSU、IW60 シリーズ(子機モード)、IB55Pro/II、IC20 で利用できます。

スティルスコールバックが実行されたかどうかは、通信後にクライアントパソコンの累積通信料金が加算されていないことで確認できます。

インターネットに接続したり、電話の発着信は通常どおり実行できます。

アナログポートでは使用できません。

お願い

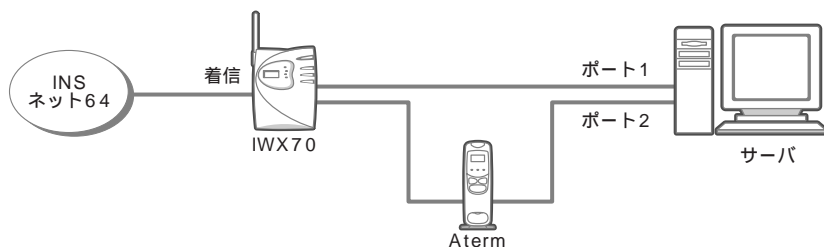
クライアントパソコンの同一回線内に複数のターミナルアダプタが接続されている場合は、Aterm に着信するようにサブアドレスやダイヤルインを利用してください。Aterm に着信するように指定されていないと、サーバパソコンがかけ直したときに他のターミナルアダプタが応答することがあります。

応答平均化

1本のINS ネット64回線に複数のAtermが接続されている場合に、各Atermへの着信応答を平均化します。

サーバに複数のAtermが接続されている場合、クライアントからサーバにアクセスがあるとサーバの全ポートに着信し、その中で早く応答したポートがクライアントと通信状態になります。そのため遅く応答したポートは、着信から切断復旧までの間、次の着信を受けることができません。応答平均化を利用するとサーバの各ポートに交互に着信させることができますので、サーバへの無効な着信や接続の失敗を防ぐことができます。

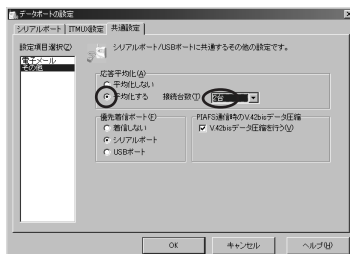
IWX70



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。シリアルポートとUSBポートに共通の設定です。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定]画面で、シリアルポートまたはUSBポートのどちらかを選択します。
[データポートの設定]画面が表示されます。
- ② [共通設定]タブをクリックします。
- ③ 「設定項目選択」で「その他」を選択します。
データポートに共通の設定をする画面になります。
- ④ 「応答平均化」で「平均化する」を選択し、「接続台数」に接続しているAtermの台数を入力します。



⑤ ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



AtermシリーズのIWX70、IT21L、ITXシリーズ、IW50/D、IT75シリーズ、60L、60/D、40/D、65EXシリーズ、65シリーズ、50DSU、55シリーズ、45シリーズ、25DSU、IW60シリーズ、IB55Pro/II、IC20で利用できます。アナログポートと無線ポートに対しては使用できません。



同一回線内に接続されているすべてのAtermに、応答平均化を設定してください。設定されていないAtermがあると、正しく動作しません。

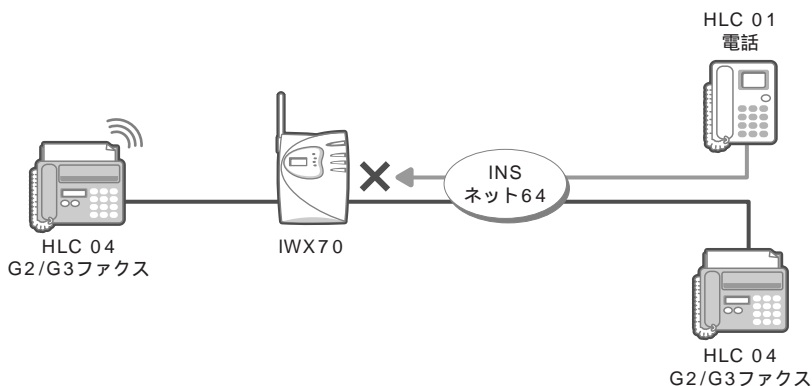
IWX70に接続したパソコンやアナログ通信機器の種別をHLCに設定し、HLCが一致する相手とだけ通信をおこないます。

発信時はIWX70が自動的にHLCを付けて発信し、着信時は発信者からのHLCを照合して一致するときだけ通信を実行します。相手がINS ネット 64 に加入している場合だけ利用できます。

(HLC = 高位レイヤ整合性)

IWX70

例 ファクスにHLCを設定している場合



HLC コード

HLC コードは次のとおりです。

IWX70のアナログポートに接続された機器は、「HLCを設定する」に設定すると、電話機は「01」、ファクスまたはモデムには「04」のHLCコードが自動的に設定されます。データポートにはHLCコードが任意に設定できます。

HLCコード	接続機器の種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム (MHS)
65	OSIアプリケーション

設定

『らくらくアシスタント』で IWX70 の設定をします。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で、設定する IWX70 のデータポートを選択します。

[データポートの設定] 画面が表示されます。

- ② 「HLC を設定する」をクリックして にし、HLC コードを任意に入力します。



- ③ [OK] ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

お願い

ファクス付電話機のように、相手が電話でもファクスでも着信を受け付けたいときは「HLC を設定するが着信判定しない」に設定します。「着信判定する」に設定されていると、相手が INS ネット 64 に接続された電話機またはファクスの場合に、着信できないことがあります。

お知らせ

相手から HLC がない着信があった場合、通常は受け付けますが、IWX70 のアナログポートに接続する機器の設定が「FAX やモデムを接続する」になっていると、着信は受け付けません。

CTI (コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション) 機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことで、IWX70のCTI機能は、アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にデータポートにリザルトコードで送出します。

IWX70

RING ANALOG 発信者番号/発信者サブアドレス 着信番号/着信サブアドレス
(最大32桁) (最大19桁) (最大32桁) (最大19桁)

非通知理由を受信したときは、発信者番号/発信者サブアドレスのかわりに、以下の形式でリザルトコードを送出します。

RING ANALOG [非通知理由] 着番号/着信サブアドレス
P: ユーザ拒否
C: 公衆電話発信
O: サービス提供不可
S: サービス競合

設定

ATコマンドで「AT\$A16=1」を入力し、「CTIモードを使用する」に設定します。



お知らせ

サブアドレスセパレータの「/」と、リザルトコードの最後に付加される「CR」、「LF」は固定です。
i・ナンバーを使用しているときは、着信番号のかわりにi・ナンバー情報に対応した電話番号が表示されます。



お願い

リザルトコードについては「5. ATコマンド」を参照してください。

3-2 . Atermのメール機能

INS ネット 64 の基本サービス「ユーザ間情報通知サービス (UII)」と Aterm のメール機能を組み合わせてメールサービスが利用できます。

メール機能とは

Aterm で利用できるメールサービスは次の 3 種類です。

電子メール着信通知

BIGLOBE に電子メールが届くと、IWX70 または RS7 の MSG ランプが点滅して電子メールの到着を知らせます。BIGLOBE にアクセスしなくてもメールの着信が確認できるので、メールの確認のためだけにパソコンを起動したり、インターネットにアクセスする手間がはぶけます。

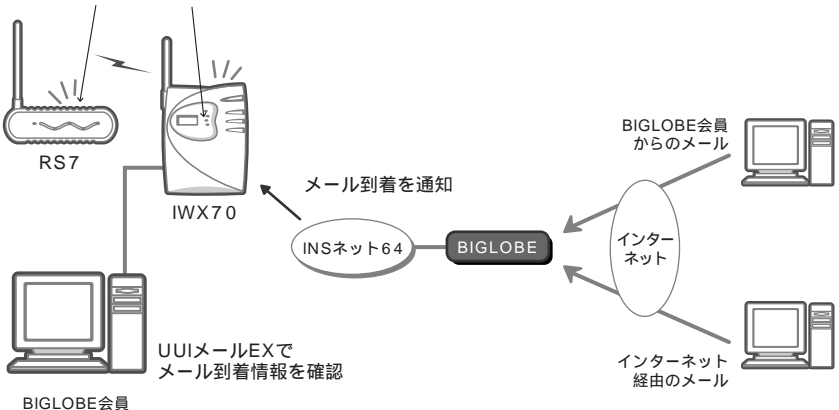
また添付のユーティリティソフト『UIIメールEX』を使うと、電子メールの送信者 (From : 先頭 10 バイト)、用件 (Subject : 先頭 100 バイト) をパソコンに表示することができます。

さらに BIGLOBE 側の設定で通知する条件などを設定することで、必要なメールの到着だけに限定して通知することもできます。



BIGLOBE に加入契約をし、メールオプションの申し込みをします。(有料)
すでに BIGLOBE 会員の方は、メールオプションだけを申し込んでください。

着信するとMSGランプが点滅します



お知らせ

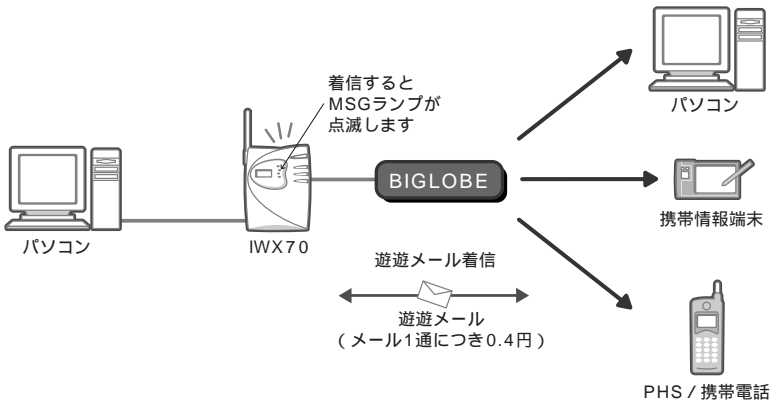
UIIメールが着信したときのIWX70のMSGランプの点滅を消す場合は、IWX70に接続した電話機のプッシュボタンで **※** **※** **○** と押します。

遊遊メール（UUIメール変換サービス）

BIGLOBEにUUIメールを送信すると、BIGLOBEのサーバが電子メールの形式に変換してインターネット上に送信します。電子メールでの呼び出しやメッセージ送信ができるPHS電話機、携帯電話、携帯情報端末（PDA）などのショートメッセージサービスが利用できます。また、IWX70に接続した電話機のプッシュボタンでメッセージを送信（テレホン遊遊メール）することもできます。



BIGLOBEに加入契約をし、メールオプションの申し込みをします。（有料）
すでにBIGLOBE会員の方はメールオプションだけを申し込んでください。

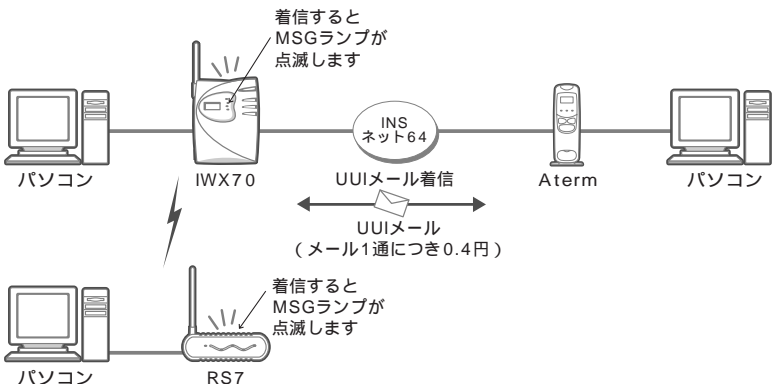


UUIメール

プロバイダやパソコン通信サービスを経由せずに、IWX70またはRS7と相手側のAterm間で直接メールの送受信ができます。また、IWX70に接続した電話機のプッシュボタンでメッセージを送信（テレホンUUIメール）することもできます。



「ユーザ間情報通知サービス」を「着信許可」と申し込みます。（無料）



メール機能を利用するには

Atermのメール機能を利用するには、以下の申し込みとAtermの設定が必要です。

必要な申し込み

利用するメール機能によって、INS ネット 64 の基本サービスの契約とBIGLOBEのメールオプションを次のように申し込みます。

申し込み		メールサービス	電子メール 着信通知	遊遊メール	UIIメール
INS ネット 64 基本サービス	ユーザ間情報通知	着信許可			
	発信者番号通知	-	通常通知（通話ごと非通知）または通常非通知（回線ごと非通知）*2	-	
	通信中着信通知	申込推奨 *1		-	
BIGLOBE		BIGLOBEの加入とメールオプションの申込（有料）*3			-

- *1 「通常非通知」を契約している場合は『らくらくアシスタント』の設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定します。
- *2 「通信中着信通知」を申し込むと、Bチャンネル2本を使った通信中でもUIIメールの着信を受け付けることができます。
- *3 BIGLOBEのメールオプションや申し込みについては、下記を参照してください。

BIGLOBE ホームページ

<http://www.biglobe.ne.jp/>（平成12年9月現在）

BIGLOBE メールオプションの設定

<http://www.biglobe.ne.jp/mail/>（平成12年9月現在）

必要な設定

IWX70 に接続されている電話機のプッシュボタンで操作したり、添付 CD-ROM 『Aterm IWX70&RS7 ユーティリティ集』に収録されている『UIIメールEX』を使用してAtermのメール機能を利用します。

メールサービス		電子メール着信通知	遊遊メール	UIIメール
使用するツール				
	UIIメールEX	BIGLOBEで設定した「通知表示名」の登録が必要	BIGLOBEのID登録が必要	
電話機	テレホンUIIメール	×	×	
	テレホン遊遊メール	×	BIGLOBEのID登録が必要	×



『BIGLOBE』は、NECが運営するインターネットプロバイダです。

『UIIメールEX』については、添付 CD-ROM に HTML でオンラインマニュアルが収録されています。CD-ROM の「UIIメールEX」フォルダ内の「index.htm」ファイルを Internet Explorer などのブラウザで開くと、UIIメールEX の詳しい説明を見ることができます。

Aterm で必要な設定

データポートに発信者通知番号と着信番号を設定したあと、Atermのメール機能をIWX70で利用するか、RS7で利用するかを選択します。初期値はIWX70で利用するように設定されています。

ここではWindows98搭載のパソコンで設定する場合を例に説明します。Macintoshの場合は一部の手順および画面が異なります。

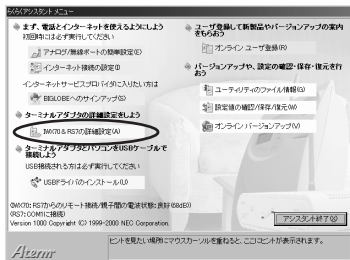
発信者通知番号と着信番号の設定

データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。

① 『らくらくアシスタント』を起動します。

② [らくらくアシスタントメニュー]で [IWX70&RS7の詳細設定] をクリックします。

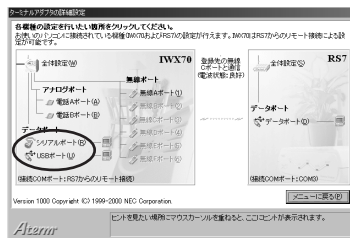
(取扱説明書「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」・「4-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」)



[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

Macintoshの場合は [IWX70らくらくアシスタント]画面で [データポートの詳細設定]を選択し、④に進みます。

③ IWX70を接続しているデータポート(シリアルポートまたはUSBポート)を選択します。



[データポートの設定]画面が表示されます。

④ 「着信番号」でメールを着信する電話番号を確認します。

電話番号を変更する場合は、[番号設定]ボタンをクリックして設定します。



⑤ 「発信者番号通知」で「番号通知を行う」を選択し、「通知番号」に相手に通知する電話番号を入力します。

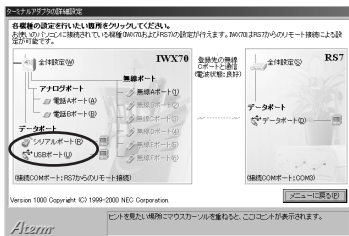
(取扱説明書「5-2.親機の電話機能」)

⑥ [OK] ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。

メール機能を利用する Aterm を設定する

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定]画面で、IWX70のシリアルポートまたはUSBポートを選択します。

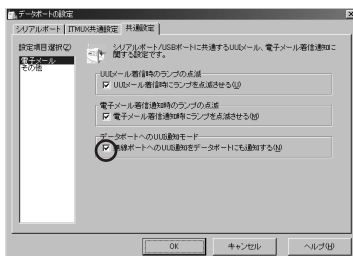


シリアルポートとUSBポートに共通の設定です。

[データポートの設定]画面が表示されます。

- ② [共通設定]タブをクリックします。

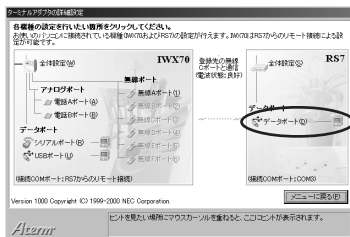
- ③ 「データポートへのUII通知モード」の「無線ポートへのUII通知をデータポートにも通知する」を指定します。IWX70で利用する場合はにします。RS7で利用する場合はクリックしてにします。



- ④ OK ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。

- ⑤ RS7のデータポートを選択します。



[RS7の詳細設定]画面が表示されます。

Macintoshの場合は『RS7らくらくユーティリティ』を起動します。

- ⑥ 「その他」の「UIIメール着信時にランプを点滅させる」を指定します。IWX70で利用する場合はクリックしてにします。RS7で利用する場合はにします。



- ⑦ 終了 ボタンをクリックし、はい ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



この設定をおこなっても、テレホンUIIメールの着信は通知されません。

UII メールEX の設定と使い方 (Windows)

Windows 搭載のパソコンで、メール機能を使うために必要なユーティリティ『UIIメールEX』の設定をする手順を説明します。

ここでは Windows 98 搭載のパソコンに IWX70 を接続した場合を例に説明します。RS7 を接続した場合の手順も同様です。

UII メールEX のインストール

『UIIメールEX』をパソコンのハードディスクにインストールし、使用できるようにします。

- 1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7 ユーティリティ集』をパソコンにセットします。
[セットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。
- 3 [セットアップガイドを見ないでインストール]をクリックします。
インストーラ集が表示されます。
- 4 [UIIメールEXのインストール]をクリックします。
[インストール先の選択]画面が表示されます。

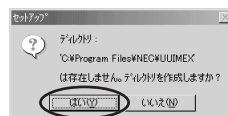
- 5 UIIメールEXのインストール先を指定します。

表示されているインストール先でよければそのままにします。変更する場合は **参照** ボタンをクリックし、インストール先を指定します。



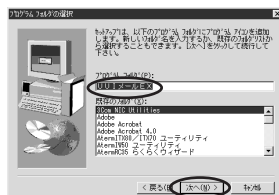
- 6 **次へ** ボタンをクリックします。

次の画面が表示された場合は **はい** ボタンをクリックします。



- 7 UIIメールEXを登録するプログラムフォルダ名を指定し、**次へ** ボタンをクリックします。

プログラムフォルダ名を変更する場合はフォルダ名を入力するか、「既存のフォルダ」から選択します。



インストールが始まります。

[コンポーネントの選択]画面が表示されます。

8

「スタートアップに登録する」が になっていることを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。



「スタートアップに登録する」が になっていると、パソコンを起動したときに UIメール EX が自動的に起動します。

[セットアップの完了]画面が表示されます。

9

「今すぐUIメールEXを起動する」が になっていることを確認し、**終了** ボタンをクリックします。



「README.TXTを参照する」を にしておくと、メモ帳が起動して UIメール EX についての説明が表示されます。内容を確認したら、メモ帳を終了します。

タスクトレイに [UIメールEX] アイコンが表示されます。



10

CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたことを確認し、CD-ROM を取り出します。

UIメールEXの環境設定をする

メール機能の環境を設定します。

1

タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックします。

2

[環境設定] を選択します。



[環境設定]画面が表示されます。

[UIメールEX]画面の[環境設定]アイコンをクリックした場合も同様です。

3

[メール着信通知] [UIメール] [遊遊メール]の中から利用するメールサービスのタブをクリックします。

メール着信通知



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

参照 ボタン

「利用するメールソフト」を設定するときにクリックします。メールの送受信に使用する電子メールソフトを選択します。

利用するメールソフト

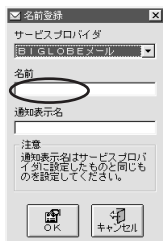
参照 ボタンで指定した電子メールソフトが表示されます。電子メールソフトを指定していない場合は空欄です。

メール通知設定

電子メール着信通知をするときの名前を次の手順で登録します。

- ① 名前を登録する欄をクリックし、**登録** ボタンをクリックします。
[名前登録]画面が表示されます。「サービスプロバイダ」には「BIGLOBEメール」と表示されます。

- ② 「名前」に、電子メールが着信したときに表示する自分の名前を入力します。



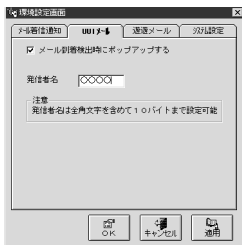
- ③ 「通知表示名」に、BIGLOBEのメールオプションの設定で入力した通知表示名と同じ名前を入力します。大文字、小文字など正しく入力します。

通知表示名が正しく入力されていないと、着信通知は起こりません。BIGLOBEのID(アカウント)を指定することをおすすめします。

- ④ **OK** ボタンをクリックします。

複数のメール通知設定を登録する場合は **適用** ボタンをクリックしてから **OK** ボタンをクリックして[環境設定]を終了し、再度①～③をくり返します。

UII メール



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

発信者名

メールを発信するときの名前を任意に入力します。

遊遊メール



BIGLOBE-ID

BIGLOBEのID(ユーザ名)を入力します。

発信者番号通知

発信者番号通知の電話番号が表示されていることを確認します。表示されていないときは、『らくらくアシスタント』で契約者回線番号を設定してください。

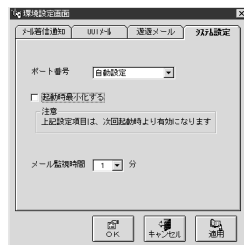
IWX70 に接続したパソコンを使用し、i・ナンバーを利用している場合は、契約者回線番号が表示されません。

RS7に接続したパソコンを使用している場合は、契約者回線番号が表示されません。

- ④ [システム設定]タブをクリックします。

[システム設定]画面が表示されます。

- ⑤ 共通の設定をします。



ポート番号

IWX70 または RS7 が接続されているCOMポートを指定します。「自動設定」を選択すると、UIメールEX を起動したときに自動的にCOMポートが検出されます。

起動時最小化する

にすると、UIメールEXの初期画面を起動したときに最小化します。

メール監視時間

メール到着を何分おきに確認するか設定します。

- 6 **適用** ボタンをクリックしてから
OK ボタンをクリックします。

アドレス帳に登録する

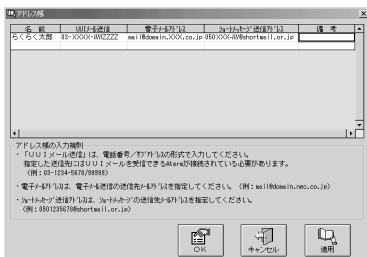
メールを送信する相手をアドレス帳に登録します。

- 1 タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックし、[アドレス帳]を選択します。

[UIメール送信]画面の
アドレス帳 ボタンをクリックした場合も同様です。

[アドレス帳]画面が表示されます。

- 2 登録する欄をクリックし、アドレスを入力します。



名前

送信相手の名前を入力します。

UIメール送信

UIメール送信をする相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は「/」を入力してからサブアドレスを入力します。

電子メールアドレス

電子メール送信をする相手の電子メールアドレスを入力します。

備考

備考が必要なときに入力します。

- 3 **適用** ボタンをクリックします。
続けて登録するときは、1~3を繰り返します。
- 4 **OK** ボタンをクリックします。
[UIメール送信]画面にもどります。

メールを送信する

- 1 タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックし、[UIメール送信][電子メール送信][ショートメッセージ送信]の中から利用するメール送信サービスを選択します。



UIメール送信

プロバイダを経由せずに、Aterm とうでメールを直接送受信します。

電子メール送信

遊遊メールで電子メールを送信します。

ショートメッセージ送信

遊遊メールでメッセージ送信ができる PHS 電話機、携帯電話、携帯情報端末などに、ショートメッセージを送信します。

以降は「UIメール送信」を例に説明します。

[UIメール送信]画面が表示されます。

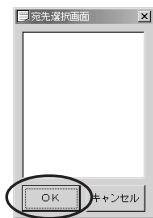
- 2 「利用サービス」が、1 で選択したメール送信サービスになっていることを確認します。



③ **追加** ボタンをクリックします。

[宛先選択]画面が表示されます。

④ 送信する相手をクリックし、**OK** ボタンをクリックします。



[UI メール送信] 画面にもどります。

アドレス帳に登録されていない送信先を直接入力するときは、**手入力** ボタンをクリックし、宛先を入力して **OK** ボタンをクリックします。

複数の相手に同じ内容のメールを送信する場合は、③ ~ ④ をくり返します。

⑤ 発信者名が表示されていることを確認します。

「UIメール送信」のときは、環境設定のUIメールの「発信者名」に入力した名前が表示されます。「電子メール送信」「ショートメッセージ送信」のときは、環境設定の遊遊メールの「BIGLOBE-ID」が表示されます。

⑥ 送信するメッセージを入力します。

メッセージ入力欄の上に入力可能文字数(半角)が表示されるので、その範囲内でメッセージを入力します。

あらかじめ保存してあるメッセージを送信するときは**差込ファイル** ボタンをクリックし、メッセージが保存されているファイルを指定します。

⑦ **送信** ボタンをクリックします。

メールの送信が実行され、送信結果(「送信完了」または「送信失敗」)が表示されます。

⑧ IWX70 または RS7 前面の DATA ランプが消灯していることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。

着信した電子メールを見る

BIGLOBEに電子メールが届くと、IWX70 またはRS7 前面のMSGランプがオレンジ色に点滅します。『UIメールEX』が起動しているときは、タスクトレイの[UIメールEX]アイコンも赤色に点滅します。



電子メール着信通知

[新着メール通知]画面が表示されるので、**はい** ボタンをクリックします。[メール参照]画面でメールの「From (電子メールアドレスの「@」の前の文字列10バイト)と「Subject」(用件の先頭100バイト)が確認できます。

UIメール

タスクトレイの[UIメールEX]アイコンを右クリックし、[UIメール受信]を選択し、メールの表題を確認します。



インターネットに接続しているときは、IWX70またはRS7が接続されているパソコンのCOMポートまたはUSBポートが使用中なので、『UIメールEX』を起動することはできません。

IWX70 または RS7 を初期化したり、パソコンのOSをインストールし直したりすると、UIメールEXの設定が消えてしまいます。その場合は、取扱説明書「7-1. 困ったときのQ&A」を参照してください。

UIメールEX の設定と使い方 (Macintosh)

Macintosh でメール機能を使うために必要なユーティリティ『UIメールEX』の設定の手順を説明します。

ここではMacintoshにIWX70を接続した場合を例に説明します。RS7を接続した場合の手順も同様です。

UIメールEX のインストール

『UIメールEX』をMacintoshのハードディスクにインストールし、使用できるようにします。

- 1 Macintoshを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを起動しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70&RS7ユーティリティ集』をMacintoshにセットします。
CD-ROMのウィンドウが開きます。
- 3 ウィンドウ内の[らくらくセットアップガイド]アイコンをダブルクリックします。
ウィンドウが表示されないときはCD-ROMアイコンをダブルクリックします。
- 4 [セットアップガイドを見ないでインストール]をクリックします。
インストラール集が表示されます。
- 5 [UIメールEXのインストール]をクリックします。
画面にしたがってインストールをおこないます。
- 6 CD-ROMを取り出します。


UIメールEX の環境設定をする

メール機能の環境を設定します。

- 1 ハードディスクの[UIメールEX]フォルダをダブルクリックします。
- 2 [UIメールEX]アイコンをダブルクリックします。



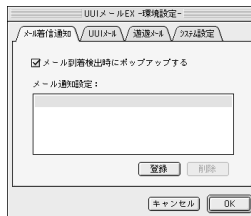
- 3 「まず初めに、環境設定を行ってください。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

すでに環境設定をしてある場合は、[UIメールEX]画面のをクリックします。

[UIメールEX - 環境設定 -]画面が表示されます。

- 4 [メール着信通知][UIメール][遊遊メール]の中から、利用するメールサービスのタブをクリックします。

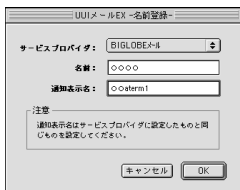
メール着信通知



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

登録 ボタン

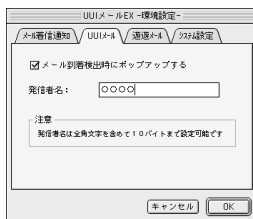
[名前登録] 画面が表示されます。



「名前」に電子メール着信通知をするときの名前を入力し、「通知表示名」にBIGLOBEのメールオプションの設定で入力した通知表示名と同じ名前を入力します。

通知表示名が正しく入力されていないと、着信通知はおこなわれません。BIGLOBEのID(アカウント)を指定することをおすすめします。

UIIメール

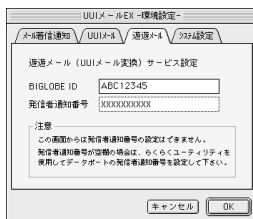


メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

発信者名

メールを発信するときの名前を任意に入力します。

遊遊メール



BIGLOBE-ID

BIGLOBEのID(ユーザ名)を入力します。

発信者番号通知

発信者番号通知の電話番号が表示されていることを確認します。表示されていないときは、『らくらくアシスタント』で契約者回線番号を設定してください。

IWX70に接続したパソコンを使用し、i・ナンバーを利用している場合は、契約者回線番号は表示されません。

RS7に接続したパソコンを使用している場合は、契約者回線番号は表示されません。

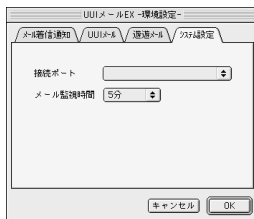
5

[システム設定] タブをクリックします。

[システム設定] 画面が表示されます。

6

共通の設定をします。



接続ポート

IWX70またはRS7が接続されているポート(モデムポートまたはプリンタポート、USBポート)を選択します。

メール監視時間

メール到着を何分おきに確認するか設定します。

7


OK ボタンをクリックします。

[UIIメールEX] 画面にもどります。


アドレス帳に登録する

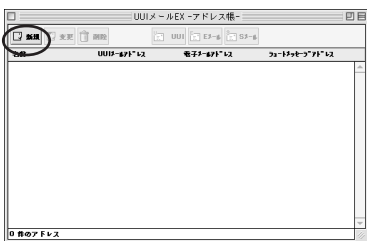
メールを送信する相手をアドレス帳に登録します。

- 1 ハードディスクの [UII メール EX] フォルダ内の [アドレス帳] アイコンをダブルクリックします。

UII メール EX が起動中の場合は、UII メール EX 画面の  ボタンをクリックします。

[UII メール EX - アドレス帳 -] 画面が表示されます。

- 2  ボタンをクリックします。



[UII メール EX - アドレス帳の編集 -] 画面が表示されます。

- 3 登録する欄をクリックし、アドレスを入力します。

名前

送信相手の名前を入力します。

UII メールアドレス

UII メール送信をする相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は「/」をのうしろにサブアドレスを入力します。



電子メールアドレス

電子メール送信をする相手の電子メールアドレスを入力します。

ショートメッセージアドレス
ショートメッセージ送信をおこなう相手のアドレスを入力します。

- 4  ボタンをクリックします。

[UII メール EX - アドレス帳 -] 画面にもどります。

続けて登録するときは、 ~  をくり返します。

- 5 クローズボックスをクリックし、アドレス帳ウィンドウを閉じます。

メールを送信する

- 1 ハードディスクの [UII メール EX] フォルダ内の [UII メール EX] アイコンをダブルクリックします。

[UII メール EX] 画面が表示されます。


- 2 ツールバーの中から利用するメール送信サービスのボタンをクリックします。

 UII メール

プロバイダを経由せずに、Aterm ほうでメールを直接送受信します。

 電子メール

遊遊メールで電子メールを送信します。

 ショートメッセージ

遊遊メールでメッセージ送信ができる PHS 電話機、携帯電話、携帯情報端末などに、ショートメッセージを送信します。

以降は「電子メール送信」を例に説明します。

[UII メール EX - メール送信 -] 画面が表示されます。

③ アドレス帳 ボタンをクリックします。

[宛先選択]画面が表示されます。



④ 送信する相手をクリックし、**OK** ボタンをクリックします。

[UIIメールEX - メール送信 -]画面に
もどります。

アドレス帳に登録されていない
送信先を直接入力するときは、
手入力 ボタンをクリックし、宛
先を入力して **OK** ボタンをク
リックします。

複数の相手に同じ内容のメール
を送信する場合は、③ ~ ④ を
くり返します。

⑤ 発信者名が表示されていることを確認
します。

「UIIメール送信」のときは、環
境設定のUIIメールの「発信者
名」に入力した名前が表示されま
す。「電子メール送信」「ショート
メッセージ送信」のときは、環境
設定の遊遊メールの「BIGLOBE-
ID」が表示されます。

⑥ 「メッセージ」に、送信するメッセ
ージを入力します。

メッセージ入力欄の左に入力可
能文字数(半角)が表示されるの
で、その範囲内でメッセージを
入力します。

あらかじめ保存してあるメッ
セージを送信するときは **差込**
ボタンをクリックし、メッセ
ージが保存されているファイルを
指定します。

⑦ **送信** ボタンをクリックします

メールの送信が実行され、送信結果(「送
信完了」または「送信失敗」)が表示され
ます。

⑧ IWX70 または RS7 前面の DATA ラ
ンプが消灯していることを確認し、

OK ボタンをクリックします。

着信した電子メールを見る

BIGLOBEに電子メールが届くとIWX70
またはRS7前面のMSGランプがオレン
ジ色に点滅し、「新着メールがあります。」
とパソコンに表示されます。

① **OK** ボタンをクリックします。

② 「UIIメールEX」を起動します。

電子メール着信通知の一覧が表示され、
メールの内容が確認できます。



インターネットに接続してい
るときは、IWX70またはRS7が
接続されているモデム(プリン
タポートまたはUSBポートが
使用中なので、『UIIメールEX』
を起動することはできません。
電子メール着信通知サービ
スの設定が正しくないと、MSG
ランプは点滅しません。

テレホンUIメールを使うには

IWX70の液晶ディスプレイを見ながら、アナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを使ってUIメールを送信します。

テレホンUIメールの送信

Atermを持っている相手に電話機からUIメールを送信します。

ご利用の前にINS ネット64の契約内容が次のようになっているか確認してください。

必須項目の「ユーザ間情報通知サービス」が「着信許可」になっているか。

付加機能項目「月額使用料(無料)」の「通信中着信通知サービス」を申し込んでいるか。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げ、**[*][*][2][*][1][*]** と押します。
- 2 相手の電話番号を押します。
前回発信した電話番号に発信する場合は、電話番号のかわりに **[*][3]** を押します。
- 3 **[#]** を押します。
- 4 サブアドレス（最大15桁）を指定します。
サブアドレスを付ける場合：**[*]** サブアドレス **[#]**
サブアドレスを付けない場合：**[#]**
- 5 **[#][*]** を押してからメッセージを入力します。
メッセージは数字と **[*]** の組み合わせで押します。（「メッセージの作成の仕方」P.141）
例 ケンキテスカ？
[2][4][0][4][0][3][2][2][4][4][0][4][3][3][2][1][6][7]
ケンキテスカ？
[*][3] を押すと前回のメッセージが表示されます。
メッセージとして入力できる文字数は100文字以内です。これを超えるとエラー通知音（ピッピッ）が鳴り、それ以降に入力した文字は無視されます。
- 6 **[#][#]** を押してから、手話器を置きます。
メッセージの送信を中断するときは、最後の **[#]** を押す前に手話器を置きます。
IWX70の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示されます。
送信が失敗したときは「ソウシンシッハイサイソウシンシテクダサイ」と表示されます。



送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、受話器を上げて
[*] [*] [2] [*] [3] [#] を押してから受話器を置きます。
なお再送信ができるのはテレホンUIメールまたはテレホン遊遊メールのうち、直前に実行した 1 つのメールだけです。

受信したUUIメールを見る

UUIメールを受信すると、IWX70前面のMSGランプがオレンジ色に点滅します。受信したUUIメールはIWX70に50件まで保存でき、液晶ディスプレイにメールの内容を表示することができます。

使い方

① IWX70のアナログポートに接続されている電話機の受話器を上げ、[*][*][2][*][2][*] と押します。

② 表示するメールの番号 [0][1] ~ [5][0] を押します。
このとき次の操作ができます。

- ① 次ページ表示
- ② メール番号の確認
- ③ 次のメールを表示
- ④ 前のメールを表示
- ⑤ メール番号の選択にもどる
- [*][*] 表示中のメールを削除

表示しようとしたメールに全角文字が含まれていると「PCメールテ`ス」と表示されます。全角文字が含まれているメールは、パソコンで『UUIメールEX』を使用して内容を確認してください。

③ [*] を押してから、受話器を置きます。



受信メールには、受信した順に01～50の番号が付きます。
受信メールが50件を超えると古いメールから削除され、メール番号は1つずつずれます。

テレホン遊遊メールを使うには

IWX70の液晶ディスプレイを見ながら、アナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを使って遊遊メールを送信します。

ご利用の前に次の点を確認してください。

BIGLOBEの加入とメールオプション「遊遊メールサービス」の申し込み
インターネットプロバイダ『BIGLOBE』に加入し、メールオプションの「遊遊メールサービス」を申し込みます。

BIGLOBEのID番号の登録

BIGLOBEに接続するときのID番号(ユーザ名)を、あらかじめIWX70に登録しておきます。

発信者番号通知の設定

INS ネット64の発信者番号通知を「通常非通知」と契約している場合は、『らくらくアシスタント』の設定でデータポートの発信者番号通知を「行う」に設定します。(取扱説明書「5-2. 親機の電話機能」)

携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメイン名の登録

携帯情報端末やPHS、携帯電話にテレホン遊遊メールを送信するときは、携帯情報端末、PHS、携帯電話のドメイン名をあらかじめIWX70に登録しておきます。
(「携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメイン名の登録」P.138)

BIGLOBEのID番号の登録

テレホン遊遊メールはBIGLOBEのサーバを介して、携帯情報端末や電子メールの送信先にメッセージを送ります。テレホン遊遊メールを利用する前に、BIGLOBEに接続するときのID番号(ユーザ名)を登録します。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げ、[*] [*] [8] [5] [*] [8] [5] [*] と押します。
- 2 BIGLOBEのID番号(ユーザ名)を押します。
「メッセージの作成の仕方」(P.141)を見て文字コードを押します。
- 3 [#] [#] を押してから、手話器を置きます。

携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメイン名の登録

テレホン遊遊メールで携帯情報端末、PHS 電話機、携帯電話へショートメッセージを送信するときのドメイン名（組織名）とサーバ名を IWX70 に登録します。

使い方

- ① IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げ、[*][*][8][4] と押します。
- ② ドメイン名を登録する短縮番号 [0][1] ~ [0][8] を押します。
ここで登録した短縮番号を使ってテレホン遊遊メールを送信するときには、次のように押します。
短縮番号 01 [*][*][3][1]
短縮番号 08 [*][*][3][8]
- ③ [*] を押してからドメイン名を押します。
「メッセージの作成の仕方」(P.141) を見て文字コードを押します。
ドメイン名は 40 文字まで入力できます。
- ④ [#][*] を押してからサーバ名を押します。
サーバ名は 12 文字まで入力できます。
サーバ名はテレホン遊遊メールの送信のときに [*][*][3][1] ~ [*][*][3][8] を押すと、IWX70 の液晶ディスプレイに表示されます。任意に入力することができますが、入力しなくても問題ありません。
- ⑤ [#][#] を押してから、手話器を置きます。

テレホン遊遊メールの送信（携帯情報端末 / PHS / 携帯電話への送信）

BIGLOBEの「遊遊メールサービス」を利用して、電話機から携帯情報端末やPHS電話機、携帯電話あてにショートメッセージを送信します。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の受話器を上げ、**[*][*]** と押し
ます。
- 2 登録してあるドメイン名の番号 **[3][1]** ~ **[3][8]** を押し
ます。
- 3 **[*]** を押してから相手の携帯情報端末、PHS、携帯電話の番号を押し
ます。
前回発信した電話番号に発信する場合は、電話番号のかわりに **[*][3]** を押し
ます。
パスワードがある場合は、電話番号に続けてパスワードを押し
ます。
パスワードで「_」を入力するときは **[*][9][1]** を押し
ます。
- 4 **[#]** を押してからメッセージを押し
ます。
メッセージは数字と **[*]** の組み合わせで押し
ます。（「メッセージの作成の仕方」
P.141）
[*][3] を押すと前回のメッセージが表示
されます。
メッセージとして入力できる文字数は98文字以内です。これを超えるとエ
ラー通知音（ビッピッ）が鳴り、それ以降に入力した文字は無視され
ます。
- 5 **[#][#]** を押してから、受話器を置
きます。
メッセージの送信を中断するときは、最後の **[#]** を押す前に受話器を置
きます。
IWX70の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示され
ます。
送信が失敗したときは「ソウシンシッパ`イサイソウシンシテクタ`サイ」と表示
され
ます。



送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、受話器を上げて **[*][3][9][#]** を押してから受話器を置
きます。
なお再送信ができるのはテレホンUIメールまたはテレホン遊遊メールのうち、直
前に実行した1つのメールだけです。

テレホン遊遊メールの送信（電子メールへの送信）

BIGLOBEの遊遊メールサービスを利用して、電話機から電子メールアドレスに電子メールを送信します。

使い方

- ① IWX70のアナログポートに接続されている電話機の受話器を上げ、[*][*][4][1]と押します。

[4][1]のかわりに[4][2]を押すと、短縮番号にあらかじめ登録してあるメールアドレスが入力できます。（「電子メールアドレスの登録」P.143）

- ② [*]を押してから送信相手のメールアドレスを入力します。
メールアドレスは数字と[*]の組み合わせで入力します。（「メッセージの作成の仕方」）

①で[4][2]を押した場合は、メールアドレスを登録した短縮番号[1]～[9]を押します。

- ③ [#][*]を押してからメッセージを押します。
メッセージは数字と[*]の組み合わせで押します。（「メッセージの作成の仕方」）

例 ケンキテスカ？

[2][4] [0][4] [0][3] [2][2] [4][4] [0][4] [3][3] [2][1] [6][7]
ケ ン キ テ ス カ ？

[*][3]を押すと前回のメッセージが表示されます。

メッセージとして入力できる文字数は98文字以内です。これを超えるとエラー通知音（ピッピッ）が鳴り、それ以降に押した文字は無視されます。

- ④ [#][#]を押してから、受話器を置きます。
メッセージの送信を中断するときは、最後の[#]を押す前に受話器を置きます。

IWX70の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示されます。

送信が失敗したときは「ソウシンシッハ イサイソウシンシテクタ サイ」と表示されます。



送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、受話器を上げて[*][*][4][9][#]を押してから受話器を置きます。
なお再送信ができるのはテレホンUIメールまたはテレホン遊遊メールのうち、直前に実行した1つのメールだけです。

メッセージの作成の仕方

電話機のプッシュボタンを使って、送信するメッセージやメールアドレスを入力します。送信できる文字は以下の「文字コード」にあるカタカナ、アルファベット、数字、一部の記号です。またIWX70に登録してある定型文や自分で登録しておいた文章を組み合わせてメッセージを作成することもできます。

文字コード

コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字
11	ア	51	ナ	91	ラ	36	K	76	¥	**	訂正
12	イ	52	ニ	92	リ	37	L	77	&	*1	頁めくり
13	ウ	53	ヌ	93	ル	38	M	78	_	*2	-
14	エ	54	ネ	94	レ	39	N	79	,	*3	前データ
15	オ	55	ノ	95	ロ	30	O	70	%	*4	[
21	カ	61	ハ	01	ワ	46	P	86	*	*5	大/小文字
22	キ	62	ヒ	02	ヲ	47	Q	87	#	*6]
23	ク	63	フ	03	ン	48	R	88	空白	*8	空白
24	ケ	64	ヘ	04	・	49	S	89	.	*91	_
25	コ	65	ホ	05	°	40	T	80	@	*92	;
31	サ	71	マ	16	A	56	U	96	1		
32	シ	72	ミ	17	B	57	V	97	2		
33	ス	73	ム	18	C	58	W	98	3		
34	セ	74	メ	19	D	59	X	99	4		
35	ソ	75	モ	10	E	50	Y	90	5		
41	タ	81	ヤ	26	F	66	Z	06	6		
42	チ	82	(27	G	67	?	07	7		
43	ツ	83	コ	28	H	68	!	08	8		
44	テ	84)	29	I	69	-	09	9		
45	ト	85	ヨ	20	J	60	/	00	0		

英字の大文字 / 小文字の切り替え
 文字入力 数字入力の切り替え
 数字入力 文字入力の切り替え
 定型文の入力

5
 8
 2 * 2
 0 5 定型文コード

定型文コード

コード	メッセージ	コード	メッセージ	コード	メッセージ
10	テ`ンワクタ`サイ	20	シキユ!	30	自作メッセージ
11	オクレマス	21	OKテ`ス	59	
12	ハソコウシマス	22	NGテ`ス		
13	チュウシテ`ス	23	シュウコ`ウ!		
14	サキコカエリマス	24	マッテテ!		
15	ルステ`ソアリ	25	ナニシテル?		
16	ジ`カンテ`ス	26	ト`コニル?		
17	ジ`タク	27	イマイコガ`シイ		
18	カイシャ	28	コ`メンナサイ		
19	カ`ッコウ	29	アリカ`トウ		

入力例

例 ゲ`ンキテ`スカ?

24 04 03 22 44 04 33 21 67
 ケ ` ン キ テ ` ス カ ?

例 Happy!

28 *5 16 46 46 50 68
 H (小文字切替) a p p y !

例 マチアワセハ6シ`

71 42 11 01 34 61 88 *8
 マ チ ア ワ セ ハ (空白×数字切替)
 06 *2*2 32 04
 6 (文字切替) シ `

例 定型文10「テ`ンワクタ`サイ」

*0510

自作メッセージの登録

定型文コード 30 ~ 59 に自分で作ったメッセージを登録しておくことができます。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げ、[*][*][8][2][*] と押します。
- 2 メッセージを登録する番号 [3][0] ~ [5][9] を押します。
定型文コード10~29には定型文がすでに登録されています。[1][0] ~ [2][9] を押すと液晶ディスプレイにその定型文が表示されるので、[#] を押して登録番号の入力にもどします。
- 3 [*] を押してから登録するメッセージを押します。
定型文として登録できる文字数は22文字以内です。
入力した文字を1文字削除するときは[*][*] を押します。
定型文コード10~29と組み合わせてメッセージを作成する場合は、[*][0][5] を押してから定型文コード [1][0] ~ [2][9] を押します。
入力した内容を見るときは[*][1] を押します。[*][1] を押すごとに、液晶ディスプレイのページが切り替わります。
- 4 [#][#] を押してから、手話器を置きます。
メッセージの作成を中断するときは、最後の[#] を押す前に手話器を置きます。

電子メールアドレスの登録

テレホン遊遊メールで電子メールを送信するときの電子メールアドレスを、IWX70の短縮番号に登録しておくことができます。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げ、[*][*][8][3] と押します。
- 2 電子メールアドレスを登録する短縮番号 [0][1] ~ [0][9] を押します。
ここで登録した短縮番号を使ってテレホン遊遊メールを送信するときには、次のように押します。
短縮番号 01 [*][*][4][2][*][1]
短縮番号 09 [*][*][4][2][*][9]

③ ***** を押してから電子メールアドレスを押します。
「メッセージの作成の仕方」(P.141) を見て文字コードを押します。
電子メールアドレスは 40 文字まで入力できます。

④ **# #** を押してから、受話器を置きます。

4

USBネットワークと内線データ通信

IWX70に接続した2台のパソコンでファイルやプリンタを共有したり、IWX70とRS7などの親・子機間や子機どうしてファイルやプリンタを共有するときの設定を説明します。

USBネットワークとは

内線データ通信とは

WindowsMeの設定

Windows98/Windows95の設定

Windows2000の設定

外部から着信可能なダイヤルアップサーバ

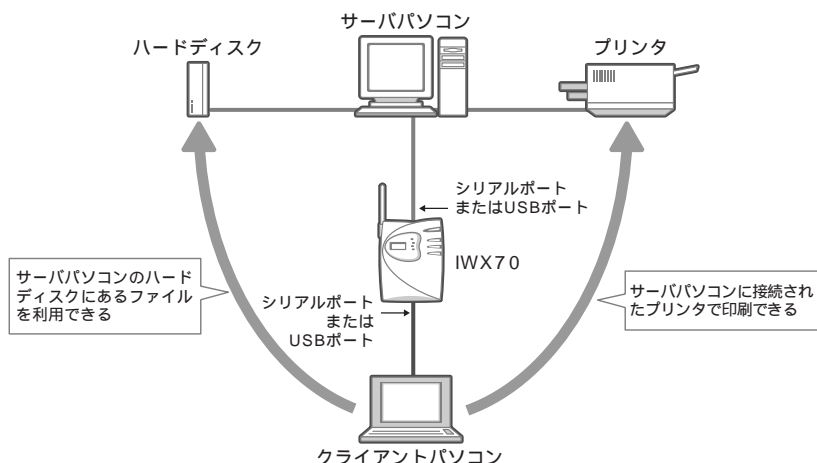
Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

4-1 . USB ネットワークとは

IWX70のシリアルポートとUSBポートに接続されたパソコン間で、簡易ネットワークが構築できます。このような簡易ネットワークを、Atermでは「USB ネットワーク」と呼びます。社内ネットワークなどで利用されているLAN (Local Area Network) の場合は専用のケーブルや接続用コネクタが必要ですが、IWX70のUSB ネットワークはIWX70とパソコンが2台あれば、簡単に簡易ネットワークが利用できます。

USBネットワークを利用すると、サーバパソコンに接続されているプリンタをクライアントパソコンで利用したり、データを共有したりすることができます。

なお、この機能はWindowsのMicrosoftネットワークを利用するため、USBネットワークができるのはWindowsパソコンだけです。



「サーバ」とは、ネットワーク上で他のコンピュータに資源を供給するコンピュータのことをいいます。USBネットワークでの「資源」とは、サーバに接続されたプリンタやサーバに保存されているデータのことをさし、「クライアント」はサーバが供給するこれらの資源を利用することができます。USBネットワークを使用するには、クライアントパソコンからサーバパソコンにインターネット接続のときと同様にダイヤルアップ接続して、サーバ上の資源を利用します。クライアントパソコンでは次の操作ができます。

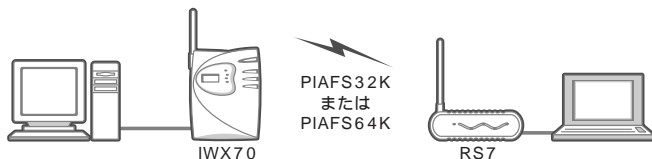
サーバパソコンで共有設定されたファイルを、クライアントパソコンにコピーする。
クライアントパソコンのファイルを、サーバパソコンに共有設定されたパソコンにコピーする。
クライアントパソコンから、サーバパソコンに接続されているプリンタで印刷する。
サーバパソコンで共有設定されたファイルを、クライアントパソコン上で開く。

4-2 . 内線データ通信とは

IWX70 に接続されているパソコンと、ワイヤレスセットに同梱の RS7 や増設登録されたマルチモバイルカード「AtermRC45」などの子機に接続されたパソコンとの親・子機間、または子機に接続されているパソコン間で簡易ネットワークを構築し、ワイヤレス機能を利用して内線でファイルやプリンタの共有ができます。Aterm ではこれを「内線データ通信」と呼びます。

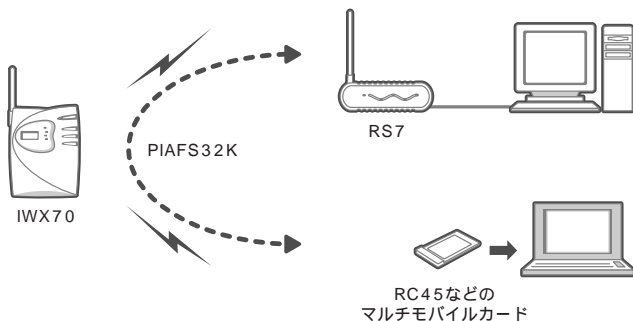
親・子機間通信

親・子機間で、PIAFS32K または PIAFS64K 通信ができます。



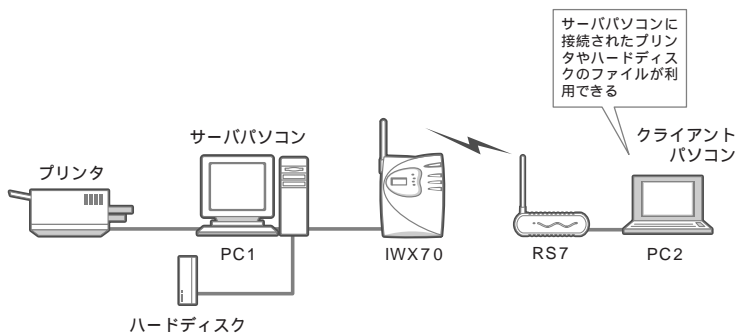
子機間通信

IWX70 を介して、ワイヤレスセットに同梱の RS7 や別売の AtermRC45 などの子機どうして、PIAFS32K 通信ができます。



ファイルやプリンタの共有

IWX70 と RS7 などの子機に接続されたパソコン間で、ファイルやプリンタを共有できます。



ファイルやプリンタを共有するには、各パソコンでネットワークとダイヤルアップの設定が必要です。

USBネットワークおよび内線データ通信を利用するための準備

USB ネットワークまたは内線データ通信を利用するには、次の準備が必要です。

パソコン

Windows® Me/Windows® 98/Windows® 95/Windows® 2000のいずれかを搭載したサーバ用パソコンとクライアント用パソコンが必要です。2台のパソコンのどちらをサーバにするか、IWX70のシリアルポートとUSBポートのどちらにつなぐか、といった制限はありません。

ダイヤルアップ接続

サーバパソコンとクライアントパソコンの両方で、IWX70またはRS7からインターネットにダイヤルアップ接続ができる状態にしておきます。また、USBポートで接続するパソコンには、USBドライバのインストールが必要です。それぞれのパソコンに『らくらくアシスタント』などでインストールします。

ダイヤルアップサーバプログラム

サーバパソコンにはWindows Me/Windows 98/Windows 95/Windows 2000の「ダイヤルアップサーバプログラム」が必要です。Windows Me/Windows 98/Windows 2000には、標準でダイヤルアップサーバプログラムがインストールされています。Windows 95の場合は「Microsoft Plus!」を別途購入するか、Windows 95のアップデートモジュール「ダイヤルアップネットワーク Ver.1.3」をMicrosoftのホームページ (http://www.microsoft.com/japan/windows/dun1_3) で入手します。

Microsoftのホームページアドレスや製品名、モジュール名は変更になることがあります。

ダイヤルアップサーバプログラムをインストールするときに、Windows 95のインストールディスクが必要になることがあります。インストールのときに表示される指示にしたがってください。

Microsoft ネットワーク

USBネットワークおよび内線データ通信は、Windows Me/Windows 98/Windows 95/Windows 2000の「Microsoft ネットワーク」を利用します。Microsoft ネットワークを利用するには、次の3つのコンポーネントが必要です。

アダプタ

Windows Me/Windows 98/Windows 95の場合、サーバパソコンとクライアントパソコンの両方に「ダイヤルアップアダプタ」が必要です。

プロトコル

Microsoft ネットワークのプロトコルの中の「NetBEUI」を使用します。サーバパソコンとクライアントパソコンで同じプロトコルを使います。

サービス / クライアント

サーバパソコンには「Microsoft ネットワーク共有サービス」、クライアントパソコンには「Microsoft ネットワーククライアント」が必要です。

パソコンに搭載されているOSや、サーバパソコンかクライアントパソコンかによって設定が異なります。ご使用の環境に合わせて、以降の手順を進めてください。

4-3 . Windows Me の設定

Windows Me を搭載したパソコンで、ネットワークを利用するための設定を説明します。2 台のパソコンのうち、どちらをサーバパソコンにし、どちらをクライアントパソコンにするかを決め、それぞれに必要な設定をします。

各パソコンがインターネットに接続できる状態であることを確認しておいてください。

サーバの設定

Windows Me 搭載のパソコンを、サーバパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は、新たに組み込む必要はありません。

お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。また操作の途中で Windows Me の CD-ROM が必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ダイヤルアップサーバプログラムのインストール

- 1 デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ] アイコンは 図と異なることがあります。

[マイコンピュータ] ウィンドウが表示されます。

- 2 [コントロールパネル] アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

- 3 [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

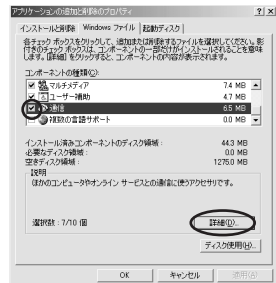


アプリケーション
の追加と削除

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面が表示されます。

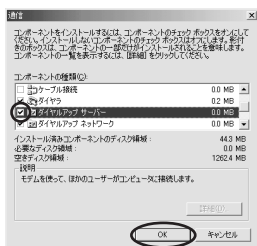
- 4 [Windows ファイル] タブをクリックします。

- 5 「コンポーネントの種類」の中から「通信」をクリックし、[詳細] ボタンをクリックします。



[通信] 画面が表示されます。

- 6 「ダイヤルアップサーバー」をクリックして にし、 **OK** ボタンをクリックします。



ディスクを挿入するように画面に表示された場合は、Windows MeのCD-ROMをセットしてください。

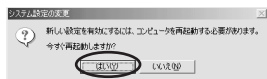
ダイヤルアップサーバプログラムがインストールされます。

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面にもどります。

- 7 **OK** ボタンをクリックします。

[システム設定の変更] 画面が表示されます。

- 8 **はい** ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ネットワークの設定

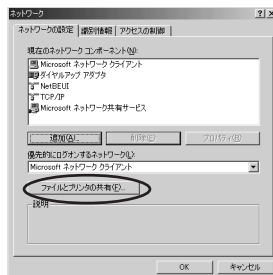
- 1 [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

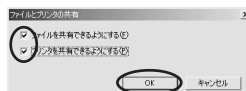
[ネットワーク] 画面が表示されます。

- 2 **ファイルとプリンタの共有** ボタンをクリックします。



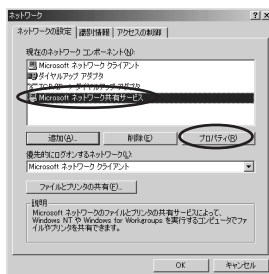
[ファイルとプリンタの共有] 画面が表示されます。

- 3 「ファイル共有できるようにする」と「プリンタを共有できるようにする」の両方を にし、 **OK** ボタンをクリックします。



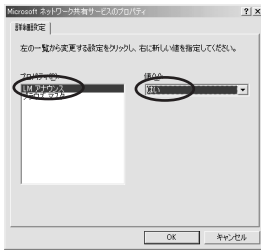
Microsoft ネットワーク共有サービスが追加され、[ネットワーク] 画面にもどります。

- 4 「現在のネットワークコンポーネント」の中から「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択し、 **プロパティ** ボタンをクリックします。

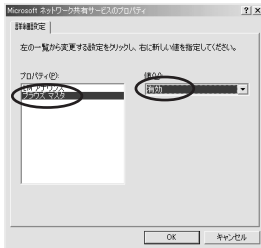


[Microsoft ネットワーク共有サービスのプロパティ] 画面が表示されます。

- 5 「プロパティ」で「LM アナウンス」を選択し、「値」で「はい」を選択します。



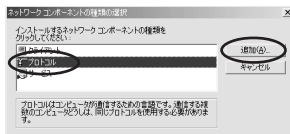
- 6 「プロパティ」で「ブラウズマスタ」を選択し、「値」で「有効」を選択します。



- 7 OK ボタンをクリックします。
[ネットワーク] 画面にもどります。

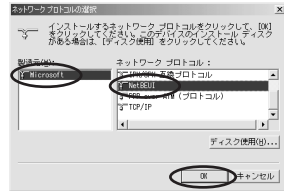
- 8 追加 ボタンをクリックします。
[ネットワークコンポーネントの種類を選択] 画面が表示されます。

- 9 「インストールするネットワークコンポーネントの種類」の中から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

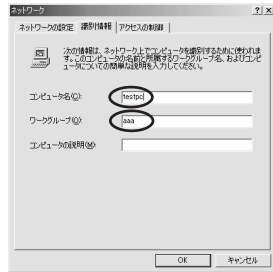
- 10 「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択して OK ボタンをクリックします。



[ネットワーク] 画面にもどります。

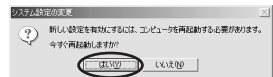
- 11 [識別情報] タブをクリックします。

- 12 「コンピュータ名」と「ワークグループ名」を入力します。
「コンピュータ名」は他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」は、クライアントと共通の名前を入力します。それぞれ半角 15 文字以内で入力します。



- 13 OK ボタンをクリックします。
[システム設定の変更] 画面が表示されます。

- 14 はい ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ダイヤルアップサーバの設定

クライアントからのダイヤルアップ接続を受けるための設定をします。

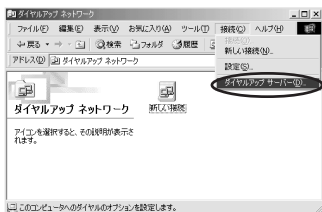
- 1 [コントロールパネル]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

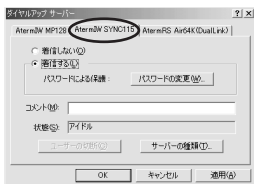
- 2 [接続] [ダイヤルアップサーバー]を選択します。



[ダイヤルアップサーバー]画面が表示されます。

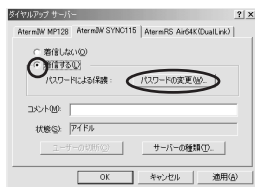
- 3 [AtermIW SYNC115]タブをクリックします。

RS7を接続している場合は[Aterm RS Air64K(DualLink)]をクリックします。



モデム情報が表示されない場合は、IWX70 / RS7のモデム情報がインストールされていません。「2-5 . インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

- 4 「着信する」を選択し、[パスワードの変更]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワークのパスワード]画面が表示されます。

- 5 「新しいパスワード」に任意のパスワードを入力し、「新しいパスワードの確認」に同じパスワードを入力します。パスワードが不要であれば入力しなくてもかまいません。パスワードを指定した場合は、「パスワードの確認入力」に同じパスワードをもう一度入力します。



ここで入力したユーザー名とパスワードで、クライアントパソコンがサーバパソコンにダイヤルアップ接続します。

- 6 [OK] ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップサーバー]画面にもどります。

- 7 [サーバーの種類] ボタンをクリックします。

[サーバーの種類]画面が表示されます。

- 8 「詳細オプション」の「ソフトウェア圧縮をする」と「暗号化パスワードを使う」を[]にし、[OK] ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップサーバー]画面にもどります。

9

OK ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどります。

タスクトレイのインジケータに [ダイヤルアップサーバ]アイコンが表示され、接続待機状態になります。



お知らせ

USBネットワークを使用している間は、ダイヤルアップサーバとして指定したモデム以外で着信することはできません。

ファイルの共有設定

サーバがクライアントに共有を許可するファイルを指定します。共有設定をしていないファイルは、クライアントから見ることはできません。

共有設定はドライブまたはフォルダごとに設定します。

1

[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、クライアントに公開するドライブ、またはフォルダを表示します。

2

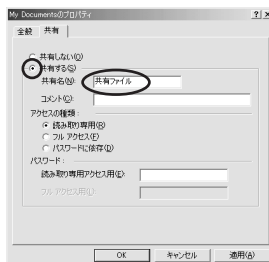
共有するドライブまたはフォルダをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



[プロパティ]画面が表示されます。

3

「共有する」を選択し、「共有名」を任意に入力します。



4

「アクセスの種類」の中から、クライアントに許可するアクセスの種類を選択し、パスワードを任意に入力します。

アクセスの種類によって次のようにパスワードを設定します。パスワードを設定しないと、クライアントがアクセスするときにパスワードが不要になります。

読み取り専用

クライアントからはデータの読み取りだけが可能です。読み取り用のパスワードを設定します。パスワードは設定しなくてもかまいません。

フルアクセス

クライアントはデータの読み取り、書き込みとも可能です。フルアクセス用のパスワードを設定します。パスワードは設定しなくてもかまいません。

パスワードに依存

読み取り用とフルアクセス用のパスワードを両方も設定します。

5

OK ボタンをクリックします。

[パスワードの確認]画面が表示されます。

6 OK ボタンをクリックします。



4 でパスワードを設定した場合は、同じパスワードを入力してから OK ボタンをクリックします。

[マイコンピュータ] ウィンドウにもどり、共有設定したドライブまたはフォルダには手のマークが表示されます。



プリンタの共有設定

サーバがクライアントに使用を許可するプリンタを指定します。共有設定をしていないプリンタは、クライアントから利用できません。

1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。

2 [プリンタ] アイコンをダブルクリックします。

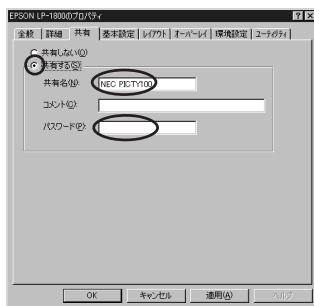
[プリンタ] ウィンドウが表示されます。

3 共有するプリンタをクリックし、[ファイル] [共有] を選択します。



[プロパティ] 画面が表示されます。

4 「共有する」を選択し、「共有名」と「パスワード」を任意に入力します。



「パスワード」は省略できます。

5 OK ボタンをクリックします。
[パスワードの確認] 画面が表示されます。

6 OK ボタンをクリックします。



4 でパスワードを設定した場合は、同じパスワードを入力してから OK ボタンをクリックします。

[プリンタ] ウィンドウにもどり、共有設定したプリンタには手のマークが表示されます。



クライアントの設定

WindowsMe搭載のパソコンをクライアントパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は新たに組み込む必要はありません。


お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。また操作の途中でWindowsMeのCD-ROMが必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ネットワークの設定

- 1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンはと異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

- 2 [コントロールパネル]アイコンをダブルクリックします。



コントロール
パネル

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

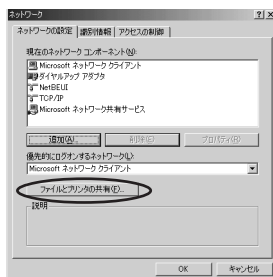
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

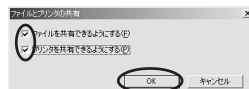
[ネットワーク]画面が表示されます。

- 4 **ファイルとプリンタの共有** ボタンをクリックします。



[ファイルとプリンタの共有]画面が表示されます。

- 5 「ファイル共有できるようにする」と「プリンタ共有できるようにする」の両方をにし、**OK** ボタンをクリックします。



Microsoft ネットワーク共有サービスが追加され、[ネットワーク]画面にもどります。

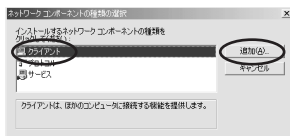
- 6 **追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークコンポーネントの種類の選択]画面が表示されます。

7

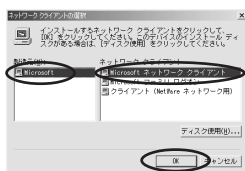
「インストールするネットワークコンポーネントの種類」の中から「クライアント」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワーククライアントの選択]画面が表示されます。

8

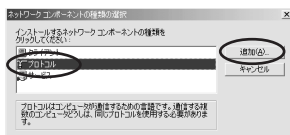
「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワーククライアント」の中から「Microsoft ネットワーククライアント」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



[ネットワークコンポーネントの種類の選択]画面にもどります。

9

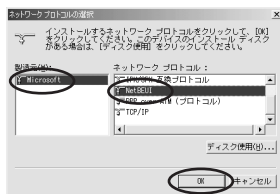
「インストールするネットワークコンポーネントの種類」の中から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。

10

「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



[ネットワーク]画面にもどります。

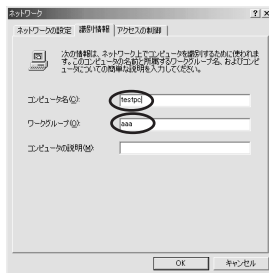
11

[識別情報]タブをクリックします。

12

「コンピュータ名」と「ワークグループ名」を入力します。

「コンピュータ名」は他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」は、サーバと共通の名前(P.151)を入力します。それぞれ半角 15 文字以内で入力します。



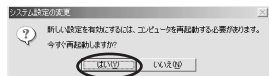
13

「OK」ボタンをクリックします。

[システム設定の変更]画面が表示されます。

14

「はい」ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ダイヤルアップネットワークの接続先の設定

サーバに接続するためのダイヤルアップネットワークの設定をします。

- 1 [コントロールパネル]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

- 2 [新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続

[新しい接続]画面が表示されます。

- 3 「接続名」を任意に入力します。



ここでは例として「USBネットワーク」と入力します。

- 4 「モデムの選択」でIWX70またはRS7のモデム情報を選択し、[設定]ボタンをクリックします。

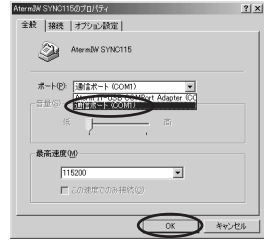
IWX70を接続している場合は「AtermIW SYNC115」、RS7を接続している場合は「AtermRS Air64K (DualLink)」を選択します。

モデム情報が表示されない場合は、IWX70 / RS7のモデム情報がインストールされていません。「2-5 . インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

[プロパティ]画面が表示されます。

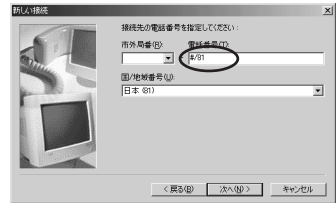
- 5 「ポート」でIWX70またはRS7の接続されているポートを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

シリアルポートの場合は「通信ポート」、USBポートの場合は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」になります。



- 6 [次へ]ボタンをクリックします。

- 7 「電話番号」にサーバパソコンの内線番号を入力します。



サーバが接続されているポートによって、次のように内線番号を指定します。

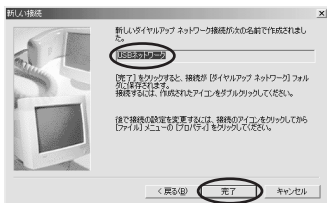
発信先	電話番号
USBポート	# / 71 DL
シリアルポート	# / 81 DL
無線Aポート	# / 91 DL
無線Bポート	# / 92 DL
無線Cポート	# / 93 DL
無線Dポート	# / 94 DL
無線Eポート	# / 95 DL
無線Fポート	# / 96 DL

IWX70は内線番号が「71」または「81」になります。ワイヤレスセットに同梱のRS7の内線番号は「91」です。

- 8 [次へ]ボタンをクリックします。

9

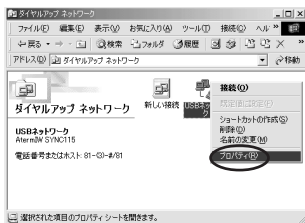
ダイヤルアップネットワークの接続名が③（P.157）で入力した「接続名」と同じであることを確認し、**完了** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどり、「接続名」で入力した名前のダイヤルアップネットワークアイコンが追加されます。

10

作成されたダイヤルアップネットワークアイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



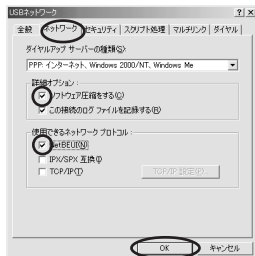
11

「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」をクリックして にします。



12

[ネットワーク]タブをクリックし、「詳細オプション」の「ソフトウェア圧縮をする」をにし、「使用できるネットワークプロトコル」の「NetBEUI」だけをにして **OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどり、クライアントの設定が完了します。

ネットワークの使い方

クライアントからサーバのデータプリンタを利用します。

サーバへの接続

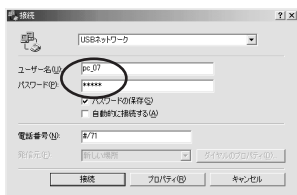
クライアントからダイヤルアップでサーバに接続します。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウのネットワーク接続用アイコン(例: USB ネットワーク)をダブルクリックします。



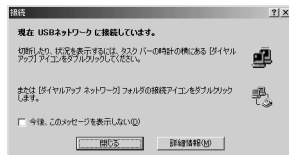
[接続]画面が表示されます。

- 2 「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
「パスワード」はサーバの設定 (P.152 5) で登録したパスワードを入力します。



- 3 「電話番号」が「ダイヤルアップネットワークの接続先の設定」の 7 (P.157) で指定した内線番号になっていることを確認し、[接続] ボタンをクリックします。

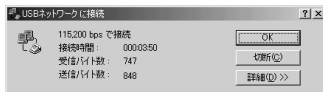
接続できると [接続]画面が表示されます。



タスクトレイに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。



接続状態を確認する場合は、インジケータのアイコンをダブルクリックします。



- 4 内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



ネットワークの接続を切断するときは、インターネット接続のときと同様に、タスクトレイの[ダイヤルアップ]インジケータをクリックし、[切断] ボタンをクリックします。



共有フォルダ/プリンタを使う

サーバパソコンがクライアントパソコンに利用を許可している共有フォルダや共有プリンタを使用します。

1 クライアントから、ダイヤルアップネットワークでサーバと接続しておきます。

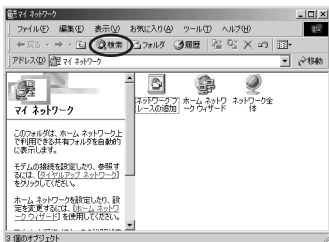
2 デスクトップの[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



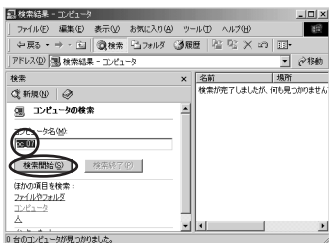
マイ ネットワーク

[マイネットワーク]ウィンドウが表示されます。

3 「検索」をクリックします。



4 「コンピュータ名」にサーバパソコンの名前を入力し、「検索開始」ボタンをクリックします。



サーバパソコンが検索されます。

5 サーバのアイコンをダブルクリックします。

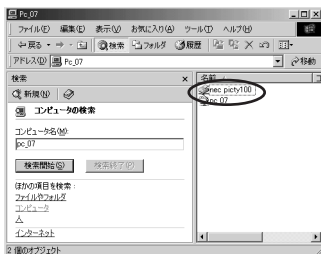


サーバが使用を許可しているドライブやフォルダ、プリンタが表示され、クライアントで使用できるようになります。

サーバがパスワードを設定している場合(P.152 ③)は、パスワードの入力が必要です。

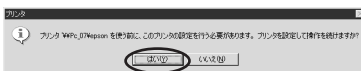
共有プリンタを使用する場合は、⑤にすんでください。共有ドライブまたは共有フォルダを使用する場合は、サーバの設定(P.153 ④)の制限内でファイルが利用できます。

6 プリンタのアイコンをダブルクリックします。



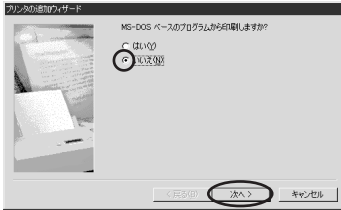
「...プリンタの設定を行う必要があります。...」と表示されます。

7 はい ボタンをクリックします。



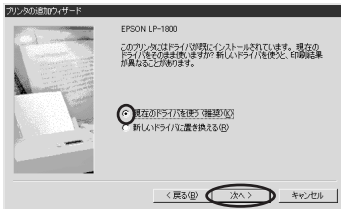
[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

- 8 「いいえ」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

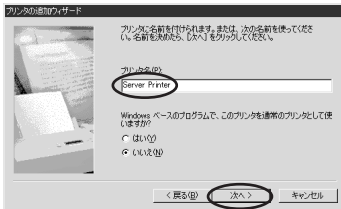


[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

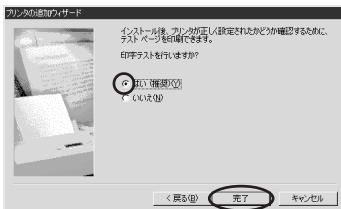
- 9 「現在のドライバを使う」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



- 10 「プリンタ名」を任意に入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



- 11 「はい」を選択し、**完了** ボタンをクリックします。



印字テストが実行され、プリンタのウィンドウが表示されます。

4-4 . Windows98/Windows95 の設定

Windows98/Windows95を搭載したパソコンで、ネットワークを利用するための設定を説明します。2台のパソコンのうち、どちらをサーバパソコンにし、どちらをクライアントパソコンにするかを決め、それぞれに必要な設定をします。

各パソコンがインターネットに接続できる状態であることを確認しておいてください。

サーバの設定

Windows98/Windows95 搭載のパソコンをサーバパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は新たに組み込む必要はありません。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。また操作の途中で Windows の CD-ROM が必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ダイヤルアップサーバプログラムのインストール

1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

2 [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

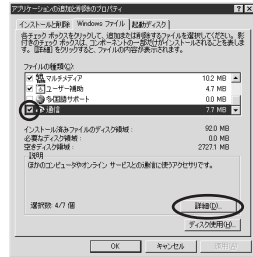


アプリケーション
の追加と削除

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

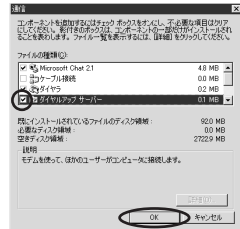
3 [Windows ファイル]タブをクリックします。

4 「ファイルの種類」の中から「通信」をクリックし、**詳細** ボタンをクリックします。



[通信]画面が表示されます。

5 「ダイヤルアップサーバ」をクリックして にし、**OK** ボタンをクリックします。



ディスクを挿入するように画面に表示された場合は、Windows の CD-ROM をセットしてください。

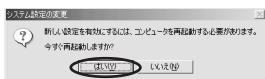
ダイヤルアップサーバプログラムがインストールされます。

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面にもどります。

6 **OK** ボタンをクリックします。

[システム設定の変更]画面が表示されます。

⑦ はい ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ネットワークの設定

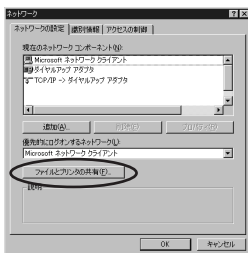
① [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

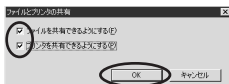
[ネットワーク]画面が表示されます。

② [ファイルとプリンタの共有] ボタンをクリックします。



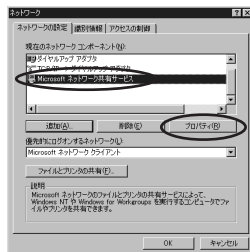
[ファイルとプリンタの共有]画面が表示されます。

③ 「ファイル共有できるようにする」と「プリンタを共有できるようにする」の両方を にし、[OK] ボタンをクリックします。



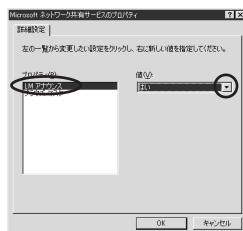
Microsoft ネットワーク共有サービスが追加され、[ネットワーク]画面にもどります。

④ 「現在のネットワークコンポーネント」の中から「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

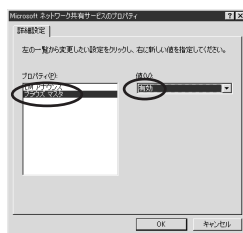


[Microsoft ネットワーク共有サービスのプロパティ]画面が表示されます。

⑤ 「プロパティ」で「LM アナウンス」を選択し、「値」で「はい」を選択します。



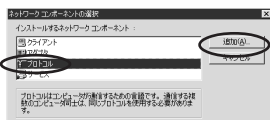
⑥ 「プロパティ」で「ブラウザマスタ」を選択し、「値」で「有効」を選択します。



⑦ [OK] ボタンをクリックします。
[ネットワーク]画面にもどります。

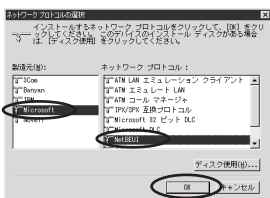
⑧ [追加] ボタンをクリックします。
[ネットワークコンポーネントの選択]画面が表示されます。

- 9 「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。

- 10 「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

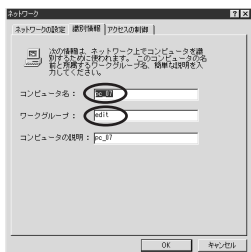


[ネットワーク]画面にもどります。

- 11 [識別情報] タブをクリックします。

- 12 「コンピュータ名」と「ワークグループ名」を入力します。

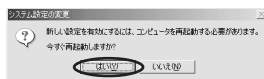
「コンピュータ名」は、他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」は、クライアントと共通の名前を入力します。それぞれ半角 15 文字以内で入力します。



- 13 OK ボタンをクリックします。

[システム設定の変更]画面が表示されます。

- 14 はい ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ダイヤルアップサーバの設定

クライアントからのダイヤルアップ接続を受けるための設定をします。

- 1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

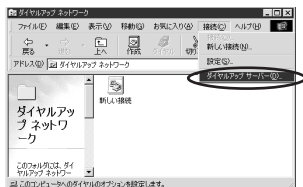
- 2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

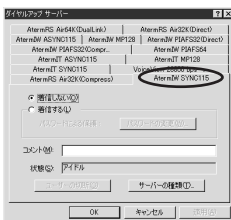
- 3 [接続] [ダイヤルアップサーバ] を選択します。



[ダイヤルアップサーバ]画面が表示されます。

4 [AtermIW SYNC115] タブをクリックします。

RS7 を接続している場合は [Aterm RS Air64K (DualLink)] をクリックします。



モデム情報が表示されない場合は、IWx70 / RS7 のモデム情報がインストールされていません。「2-6. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

5 「着信する」を選択し、[パスワードの変更] ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワークのパスワード] 画面が表示されます。

6 「新しいパスワード」に任意のパスワードを入力し、「新しいパスワードの確認」に同じパスワードを入力します。パスワードが不要であれば入力しなくてもかまいません。パスワードを指定した場合は、「パスワードの確認入力」に同じパスワードをもう一度入力します。

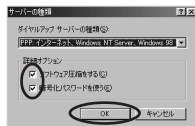


ここで入力したユーザー名とパスワードで、クライアントパソコンがサーバパソコンにダイヤルアップ接続します。

7 [OK] ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップサーバー] 画面にもどります。

8 [サーバーの種類] ボタンをクリックします。
[サーバーの種類] 画面が表示されます。

9 「詳細オプション」の「ソフトウェア圧縮をする」と「暗号化パスワードを使う」を にし、[OK] ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップサーバー] 画面にもどります。

10 [OK] ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウにもどります。

タスクトレイのインジケータに [ダイヤルアップサーバ] アイコンが表示され、接続待機状態になります。



お知らせ
USB ネットワークを使用している間は、ダイヤルアップサーバとして指定したモデム以外で着信することはできません。

ファイルの共有設定

サーバがクライアントに共有を許可するファイルを指定します。共有設定をしていないファイルは、クライアントから見ることはできません。

共有設定はドライブまたはフォルダごとに設定します。

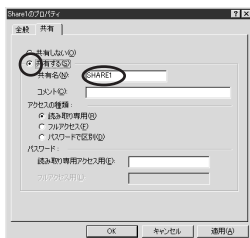
1 [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、クライアントに公開するドライブ、またはフォルダを表示します。

2 共有するドライブまたはフォルダをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



[プロパティ]画面が表示されます。

3 「共有する」を選択し、「共有名」を任意に入力します。



4 「アクセスの種類」の中から、クライアントに許可するアクセスの種類を選択します。

アクセスの種類によって次のようにパスワードを設定します。パスワードを設定しないと、クライアントがアクセスするときにパスワードが不要になります。

読み取り専用

クライアントからはデータの読み取りだけが可能です。読み取り用のパスワードを設定します。パスワードは設定しなくてもかまいません。

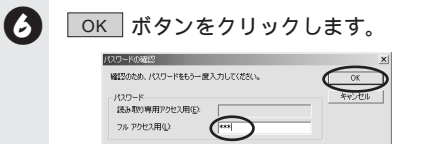
フルアクセス

クライアントはデータの読み取り、書き込みとも可能です。フルアクセス用のパスワードを設定します。パスワードは設定しなくてもかまいません。

パスワードに依存

読み取り用とフルアクセス用のパスワードを両方とも設定します。

5 OK ボタンをクリックします。
[パスワードの確認]画面が表示されます。



6 OK ボタンをクリックします。
4 でパスワードを設定した場合は、同じパスワードを入力してから OK ボタンをクリックします。

[マイコンピュータ]ウィンドウにもどり、共有設定したドライブまたはフォルダには手のマークが表示されます。



プリンタの共有設定

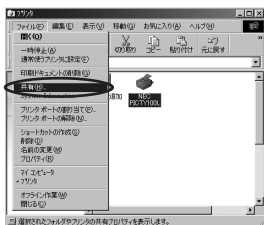
サーバがクライアントに使用を許可するプリンタを指定します。共有設定をしていないプリンタは、クライアントから利用できません。

① [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。

② [プリンタ]アイコンをダブルクリックします。

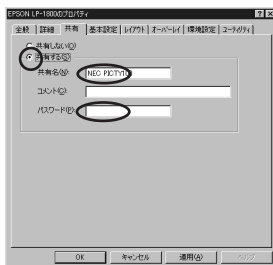
[プリンタ]ウィンドウが表示されます。

③ 共有するプリンタをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



[プロパティ]画面が表示されます。

④ 「共有する」を選択し、「共有名」と「パスワード」を任意に入力します。



「パスワード」は省略できます。

⑤ [OK] ボタンをクリックします。

[パスワードの確認]画面が表示されます。

⑥

[OK] ボタンをクリックします。



④ でパスワードを設定した場合は、同じパスワードを入力してから [OK] ボタンをクリックします。

[プリンタ]ウィンドウにもどり、共有設定したプリンタには手のマークが表示されます。



クライアントの設定

Windows98/Windows95 搭載のパソコンをクライアントパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は新たに組み込む必要はありません。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。また操作の途中で Windows の CD-ROM が必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ネットワークの設定

- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

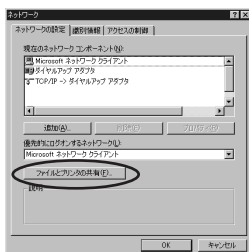
- ② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

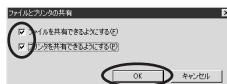
[ネットワーク] 画面が表示されます。

- ③ **ファイルとプリンタの共有** ボタンをクリックします。



[ファイルとプリンタの共有] 画面が表示されます。

- ④ 「ファイルを共有できるようにする」と「プリンタを共有できるようにする」の両方を にし、**OK** ボタンをクリックします。



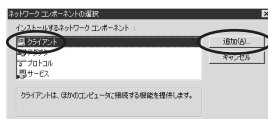
Microsoft ネットワーク共有サービスが追加され、[ネットワーク] 画面にもどります。

- ⑤ **追加** ボタンをクリックします。



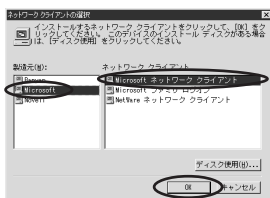
[ネットワークコンポーネントの選択] 画面が表示されます。

- ⑥ 「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「クライアント」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



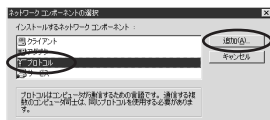
[ネットワーククライアントの選択] 画面が表示されます。

- 7 「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワーククライアント」の中から「Microsoft ネットワーククライアント」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



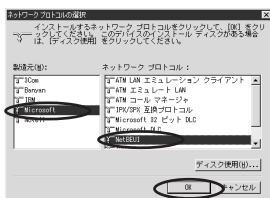
[ネットワークコンポーネントの選択] 画面にもどります。

- 8 「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

- 9 「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択して **OK** ボタンをクリックします。

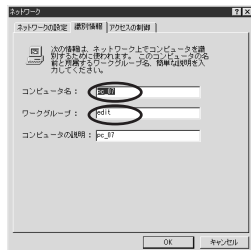


[ネットワーク] 画面にもどります。

- 10 [識別情報] タブをクリックします。

- 11 「コンピュータ名」と「ワークグループ名」を入力します。

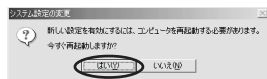
「コンピュータ名」は、他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」は、サーバと共通の名前(P.164 12)を入力します。それぞれ半角 15 文字以内で入力します。



- 12 **OK** ボタンをクリックします。

[システム設定の変更] 画面が表示されます。

- 13 **はい** ボタンをクリックします。



パソコンが再起動します。

ダイヤルアップネットワークの接続先の設定

サーバに接続するためのダイヤルアップネットワークの設定をします。

- 1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。

- 2 [ダイヤルアップネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウが表示されます。

- 3 [新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続

[新しい接続]画面が表示されます。

- 4 「接続名」を任意に入力します。



ここでは例として「USBネットワーク」と入力します。

- 5 「モデムの選択」でIWX70またはRS7のモデム情報を選択し、**設定** ボタンをクリックします。

IWX70を接続している場合は「AtermIW SYNC115」、RS7を接続している場合は「AtermRS Air64K (DualLink)」を選択します。

モデム情報が表示されない場合は、IWX70 / RS7のモデム情報がインストールされていません。「2-6. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

[プロパティ]画面が表示されます。

- 6 「ポート」でIWX70またはRS7の接続されているポートを確認します。

シリアルポートの場合は「通信ポート」、USBポートの場合は「Aterm IT-USB COMPort Adapter」になります。



- 7 次へ ボタンをクリックします。

- 8 「電話番号」にサーバパソコンの内線番号を入力します。



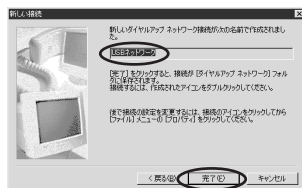
サーバが接続されているポートによって、次のように内線番号を指定します。

発信先	電話番号
USBポート	#/71DL
シリアルポート	#/81DL
無線Aポート	#/91DL
無線Bポート	#/92DL
無線Cポート	#/93DL
無線Dポート	#/94DL
無線Eポート	#/95DL
無線Fポート	#/96DL

IWX70は内線番号が「71」または「81」になります。ワイヤレスセットに同梱のRS7の内線番号は「91」です。

- 9 次へ ボタンをクリックします。

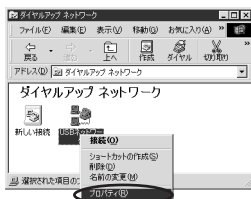
- 10 ダイヤルアップネットワークの接続名が 4 で入力した「接続名」と同じであることを確認し、**完了** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどり、「接続名」で入力した名前のダイヤルアップネットワークアイコンが追加されます。

11

作成されたダイヤルアップネットワークアイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



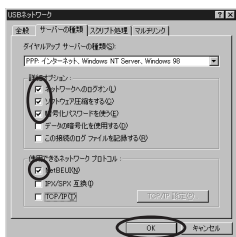
12

「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」をクリックして にします。



13

[サーバの種類]タブをクリックし、「詳細オプション」の「ネットワークへのログオン」、「ソフトウェア圧縮をする」、「暗号化パスワードを使う」を にし、「使用できるネットワークプロトコル」の「NetBEUI」だけを にして **OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどり、クライアントの設定が完了します。

ネットワークの使い方

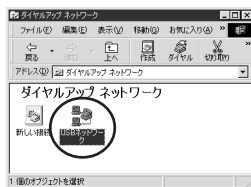
クライアントからサーバのデータやプリンタを利用します。

サーバへの接続

クライアントからダイヤルアップでサーバに接続します。

1

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウ内のネットワーク接続用アイコン(例: USB ネットワーク)をダブルクリックします。



[接続]画面が表示されます。

2

「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

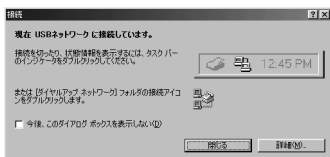
「パスワード」はサーバの設定 (P.165 ③) で登録したパスワードを入力します。



3

「電話番号」が「ダイヤルアップネットワークの接続先の設定」の③(P.170)で指定した内線番号になっていることを確認し、**接続** ボタンをクリックします。

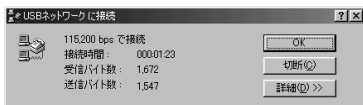
接続できると、[接続] 画面が表示されます。



タスクトレイに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。



接続状態を確認する場合は、インジケータのアイコンをダブルクリックします。

**4**

内容を確認し、**閉じる** ボタンをクリックします。

お知らせ

ネットワークの接続を切断するときは、インターネット接続のときと同様に、タスクトレイの[ダイヤルアップ]インジケータをクリックし、**切断** ボタンをクリックします。



共有フォルダ/プリンタを使う

サーバパソコンがクライアントパソコンに利用を許可している共有フォルダや共有プリンタを使用します。

1

クライアントから、ダイヤルアップネットワークでサーバと接続しておきます。

2

スタート [検索] [ほかのコンピュータ] を選択します。

3

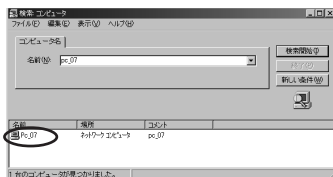
「名前」にサーバのコンピュータ名を入力し、**検索開始** ボタンをクリックします。



サーバパソコンが検索されます。

4

サーバのアイコンをダブルクリックします。



サーバが使用を許可しているドライブやフォルダ、プリンタが表示され、クライアントで使用できるようになります。

サーバがパスワードを設定している場合(P.167 ④)は、パスワードの入力が必要です。

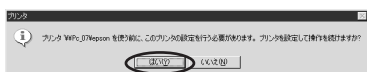
共有プリンタを使用する場合は、⑤ にすすんでください。共有ドライブまたは共有フォルダを使用する場合は、サーバの設定(P.166 ④)の制限内でファイルが利用できます。

- 5 プリンタのアイコンをダブルクリックします。



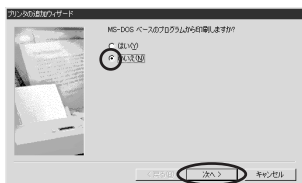
「…プリンタの設定を行う必要があります。…」と表示されます。

- 6 はい ボタンをクリックします。



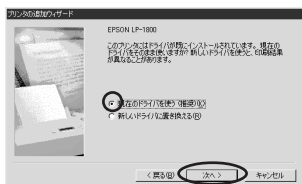
[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

- 7 「いいえ」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

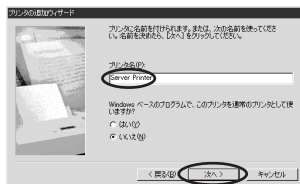


[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

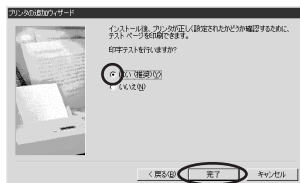
- 8 「現在のドライバを使う」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



- 9 「プリンタ名」を任意に入力し、次へ ボタンをクリックします。



- 10 「はい」を選択し、完了 ボタンをクリックします。



印字テストが実行され、プリンタのウィンドウが表示されます。

- 11 プリンタウィンドウを閉じます。

4-5 . Windows2000 の設定

Windows2000 を搭載したパソコンで、ネットワークを利用するための設定を説明します。2台のパソコンのうち、どちらをサーバパソコンにし、どちらをクライアントパソコンにするかを決め、それぞれに必要な設定をします。

設定をするときには、Windows2000 の起動時に Administrator 権限のあるアカウントでログオンしてください。

各パソコンがインターネットに接続できる状態であることを確認しておいてください。

サーバの設定

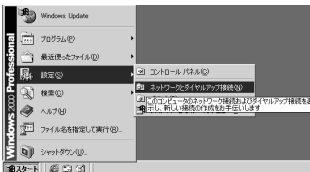
Windows2000 搭載のパソコンを、サーバパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は新たに組み込む必要はありません。

お使いの環境によっては、手順や画面が異なることがあります。また操作の途中で Windows2000 の CD-ROM が必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ダイヤルアップ接続の設定

クライアントからのダイヤルアップ接続を受けるための設定をします。

1 [スタート] [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。



[スタート]メニューは図と異なる場合があります。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

2 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



新しい接続の
作成

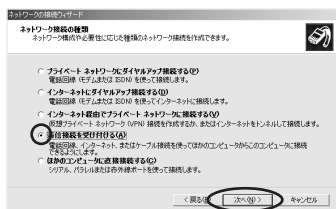
[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。

3 次へ ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続の種類」を選択する画面が表示されます。

4 「着信接続を受け付ける」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

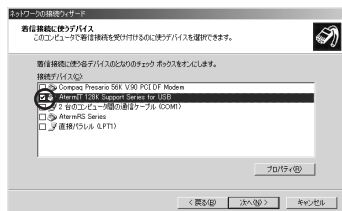


「着信接続に使うデバイス」を選択する画面が表示されます。

5

「接続デバイス」の中から、接続しているポートに対応したモデム情報をクリックして にします。

サーバパソコンをシリアルポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series」、USBポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series for USB」を選択します。RS7に接続している場合は「AtermRS Series」を選択します。



モデム情報が表示されない場合は、IW70 / RS7のモデム情報がインストールされていません。「2-7. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

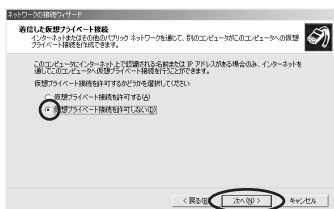
6

次へ ボタンをクリックします。

「着信した仮想プライベート接続」を指定する画面が表示されます。

7

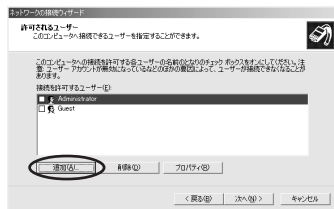
「仮想プライベート接続を許可しない」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



「許可されるユーザー」を選択する画面が表示されます。

8

追加 ボタンをクリックします。



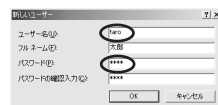
「新しいユーザー」画面が表示されます。

接続を許可するユーザーがすでに表示されている場合は、**追加** をクリックして にし、**次へ** に進みます。

9

「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

パスワードが不要であれば入力しなくてもかまいません。パスワードを指定した場合は「パスワードの確認入力」に同じパスワードをもう一度入力します。



ここで入力したユーザー名とパスワードで、クライアントパソコンがサーバパソコンにダイヤルアップ接続します。

10

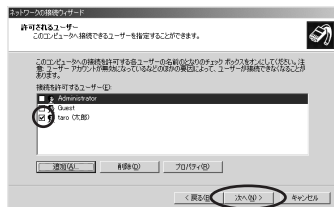
OK ボタンをクリックします。

「許可されるユーザー」を指定する画面にもどります。

複数のユーザを登録する場合は、**3** ~ **10** をくり返します。

11

接続を許可するすべてのユーザーが になっていることを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。

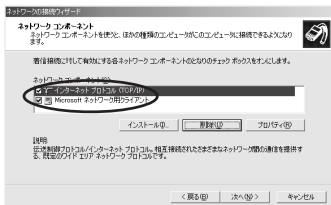


「ネットワークコンポーネント」を選択する画面が表示されます。

12

「ネットワークコンポーネント」に次の3つがあるか確認します。

- NetBEUI プロトコル
- Microsoft ネットワーク用クライアント
- Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有



この画面の例では「NetBEUI プロトコル」と「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」が不足しています。以降はこの2つを追加する手順を説明します。

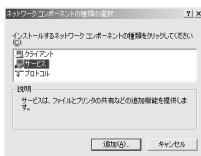
3つがすべてある場合は 16 に進みます。

13

インストール ボタンをクリックします。
[ネットワークコンポーネントの種類を選択] 画面が表示されます。

14

インストールするネットワークコンポーネントの種類を選択します。



追加するものによって、それぞれ次のコンポーネントを選択します。

- クライアント
「Microsoft ネットワーク用クライアント」を追加するとき
- サービス
「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」を追加するとき

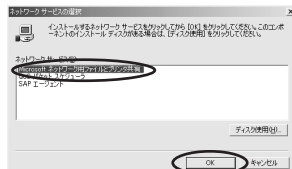
プロトコル
「NetBEUIプロトコル」を追加するとき

ここでは例として「サービス」を選択します。

[ネットワークサービスの選択] 画面が表示されます。

15

「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



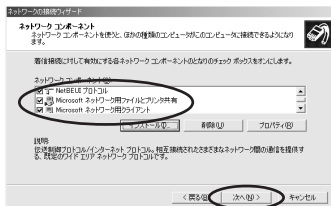
「ネットワークコンポーネント」を選択する画面にもどります。

他に不足しているコンポーネントがある場合は 12 ~ 15 をくり返します。

途中で「今すぐ再起動しますか?」と表示された場合は、**いいえ** ボタンをクリックします。

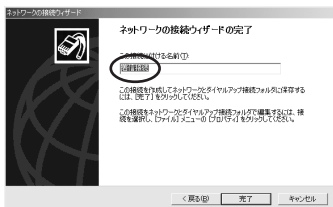
16

「NetBEUIプロトコル」、「Microsoft ネットワーク用クライアント」、「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」がそろったら **次へ** ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続ウィザードの完了」の画面が表示されます。

17 「この接続に付ける名前」に、任意でネットワーク接続の名称を入力します。



ここで入力した名前が [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンの名称になります。

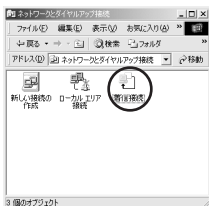
18 [完了] ボタンをクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどり、17 で付けた名前前のアイコンが追加されます。

19 [スタート] [シャットダウン] を選択し、Windows を再起動します。

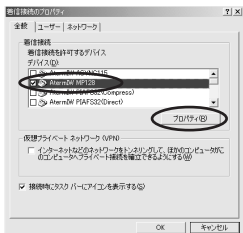
Windows が再起動し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

20 17 で付けた名前前の [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコン (例: 着信接続) をダブルクリックします。



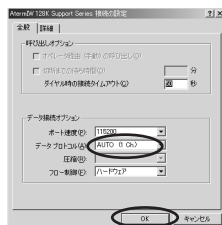
[着信接続のプロパティ] 画面が表示されます。

21 「デバイス」の中から ② (P.175) で選択したモデム情報を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



[接続の設定] 画面が表示されます。

22 「データプロトコル」が「AUTO (1Ch)」になっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。



[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどります。

ワークグループ名の確認

サーバパソコンのワークグループ名を確認します。クライアントパソコンは、サーバと同じグループ名を指定します。

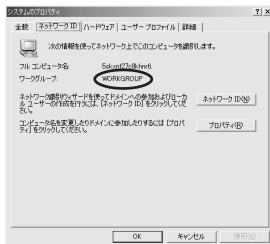
1 [コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックします。



[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

2 [ネットワーク ID] タブをクリックします。

3 「ワークグループ名」を確認します。



4 [キャンセル] ボタンをクリックします。

[コントロールパネル] ウィンドウにもどります。

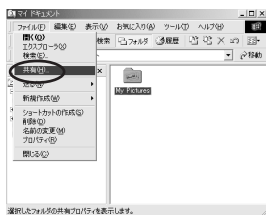
ファイルの共有設定

サーバがクライアントに共有を許可するファイルを指定します。共有設定をしていないファイルは、クライアントから見ることはできません。

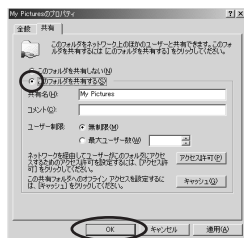
共有設定は、ドライブまたはフォルダごとに設定します。

1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックし、クライアントに公開するドライブ、またはフォルダを表示します。

2 共有するドライブまたはフォルダをクリックし、[ファイル] [共有] を選択します。



3 「このフォルダを共有する」を選択し、OK ボタンをクリックします。



[マイコンピュータ] ウィンドウにもどり、共有設定したドライブまたはフォルダには手のマークが表示されます。



ドライブに対して共有設定をすると、クライアントパソコンからサーバパソコンのディスクがそのまま利用できるようになります。ただし、クライアントパソコン側のアプリケーションから直接サーバパソコンのファイルにアクセスするように設定した場合、サーバパソコン側でハードディスク内のフォルダの位置を変えたり、別のドライブへ移動させたときに、クライアント側のアプリケーションの設定も変更しなければならないことがあります。

フォルダ単位で共有設定する場合は、クライアントから見える共有名はハードディスク上のフォルダ構成が変わっても影響を受けません。

プリンタの共有設定

サーバがクライアントに使用を許可するプリンタを指定します。共有設定をしていないプリンタは、クライアントから利用できません。

1 [コントロールパネル] の [プリンタ] アイコンをダブルクリックします。

[プリンタ] ウィンドウが表示されます。

2 共有するプリンタアイコンをクリックし、[ファイル] [共有] を選択します。



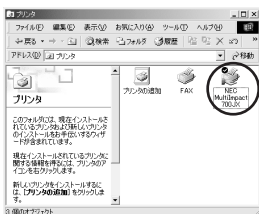
[プロパティ] 画面が表示されます。

3

「共有する」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。



[プリンタ]ウィンドウにもどり、共有設定したプリンタには手のマークが表示されます。



クライアントの設定

Windows2000 搭載のパソコンを、クライアントパソコンにするために必要な設定をおこないます。ご使用の環境によっては、ネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合は新たに組み込む必要はありません。

ワークグループ名の設定

サーバパソコンのワークグループ名と同じ名前を指定します。

1

[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。



システム

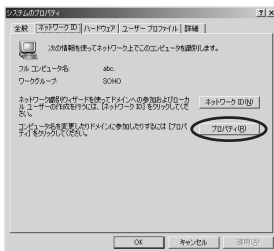
[システムのプロパティ]画面が表示されます。

2

[ネットワーク ID] タブをクリックします。

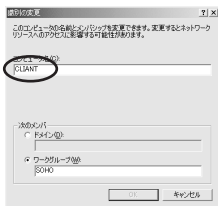
3

プロパティ ボタンをクリックします。



[識別の変更]画面が表示されます。

- 4 コンピュータ名を入力します。
サーバパソコンの名前やワークグループ名と重複しない名前を任意に入力します。



- 5 ワークグループ名を入力します。
「サーバの設定」(P.177 3) で確認したワークグループ名を入力します。

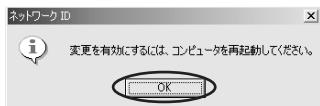
- 6 **OK** ボタンをクリックします。
「ワークグループへようこそ」と表示されます。

- 7 **OK** ボタンをクリックします。



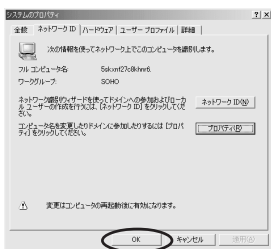
[ネットワーク ID] 画面が表示されます。

- 8 **OK** ボタンをクリックします。



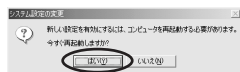
[システムのプロパティ] 画面にもどります。

- 9 **OK** ボタンをクリックします。



[システム設定の変更] 画面が表示されます。

- 10 **はい** ボタンをクリックします。

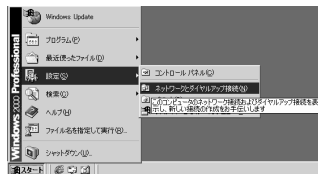


Windows が再起動します。

ダイヤルアップネットワークの接続 先の設定

サーバにダイヤルアップ接続するための、ダイヤルアップネットワークの設定をします。

- 1 **スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。



[スタート]メニューは図と異なることがあります。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

- 2 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。

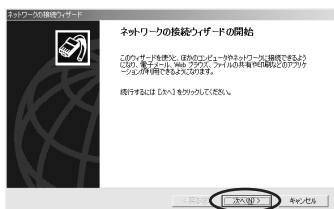


新しい接続の
作成

[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。

3

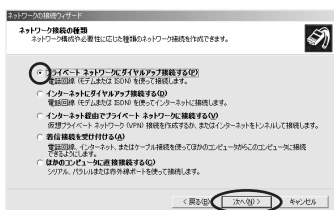
次へ ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続の種類」を選択する画面が表示されます。

4

「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

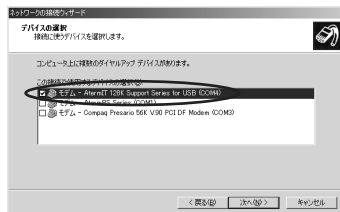


「デバイスの選択」の画面が表示されます。

5

「この接続で使用するデバイスの選択」の中から、接続しているポートに対応したモデム情報をクリックして にします。

クライアントパソコンを IWX70 のシリアルポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series」、USB ポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series for USB」を選択します。RS7 に接続している場合は「AtermRS Series」を選択します。



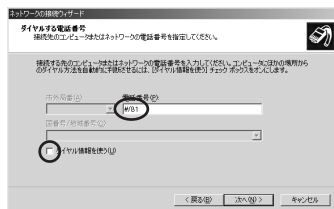
6

次へ ボタンをクリックします。

「ダイヤルする電話番号」を指定する画面が表示されます。

7

「電話番号」にサーバパソコンの内線番号を入力し、「ダイヤル情報を使う」にします。



サーバが接続されているポートによって、次のように内線番号を指定します。

発信先	電話番号
USBポート	# / 71 DL
シリアルポート	# / 81 DL
無線Aポート	# / 91 DL
無線Bポート	# / 92 DL
無線Cポート	# / 93 DL
無線Dポート	# / 94 DL
無線Eポート	# / 95 DL
無線Fポート	# / 96 DL

IWX70 は内線番号が「71」または「81」になります。ワイヤレスセットに同梱の RS7 の内線番号は「91」です。

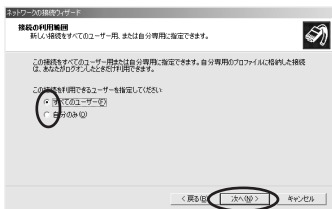
8

次へ ボタンをクリックします。

「接続の利用範囲」を指定する画面が表示されます。

9

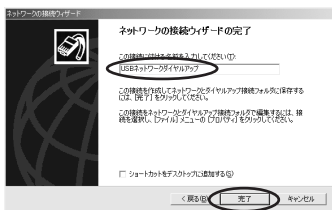
すべてのユーザーにこの接続の利用を許可するか、または自分だけが利用するかを選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続ウィザードの完了」の画面が表示されます。

10

この接続に付ける名前を任意に入力し、**完了** ボタンをクリックします。



[接続] 画面が表示されます。

11

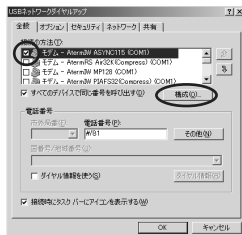
プロパティ ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップ] 画面が表示されます。

12

「接続の方法」に 5 (P.181) で選択したモデム情報が表示され、 になっていることを確認し、**構成** ボタンをクリックします。



[モデムの構成] 画面が表示されます。

13

「モデムプロトコル」で「PPP(64K)」を選択します。



14

「モデムによるエラー制御を行う」をにし、**OK** ボタンをクリックします。

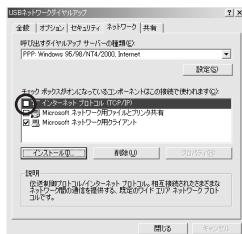
[ダイヤルアップ] 画面にもどります。

15

[ネットワーク] タブをクリックします。

16

「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を にします。



17

「チェックボックスが・・・コンポーネントは...」に次の3つがあるか確認します。

NetBEUI プロトコル
Microsoft ネットワーク用クライアント

Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有

18 の画面では「NetBEUI プロトコル」が不足しています。以降は「NetBEUI」を追加する手順を例に説明します。

3つがすべてある場合は 21 に進みます。

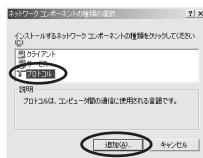
18

インストール ボタンをクリックします。

[ネットワークコンポーネントの種類を選択] 画面が表示されます。

19

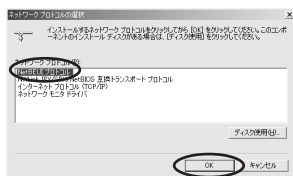
「プロトコル」を選択し、 **追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

20

「NetBEUI プロトコル」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



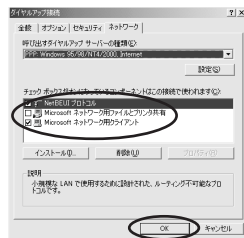
[ダイアルアップ接続] の画面にもどります。

他に不足しているコンポーネントがある場合は、18 ~ 20 をくり返します。

途中で「今すぐ再起動しますか？」と表示された場合は、 **いいえ** ボタンをクリックします。

21

「NetBEUI プロトコル」、「Microsoft ネットワーク用クライアント」、「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」がそろったら **OK** ボタンをクリックします。



[接続] 画面にもどります。

22

キャンセル ボタンをクリックします。

サーバパソコンがWindowsMe/Windows98/Windows95のいずれかの場合は、23 ~ 27 を実行します。

23

10 (P.182) で付けた名前の接続アイコン (例: USB ネットワーク) をクリックし、[ファイル] [プロパティ] を選択します。

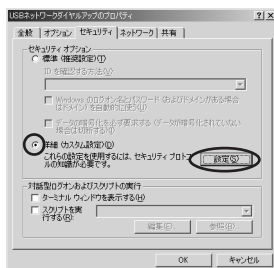
[ダイアルアップのプロパティ] 画面が表示されます。

24

[セキュリティ] タブをクリックします。

25

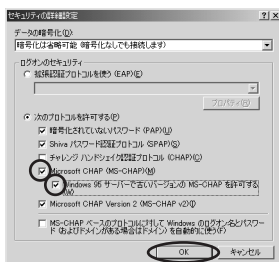
「詳細 (カスタム設定)」を選択し、 **設定** ボタンをクリックします。



[セキュリティの詳細設定] 画面が表示されます。

26

「Microsoft CHAP」を にしてから、「Windows 95 サーバーで古いバージョンの MS-CHAP を許可する」をクリックして にし、**OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップのプロパティ]画面にもどります。

27

OK ボタンをクリックします。

ネットワークの使い方

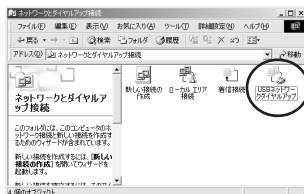
クライアントからサーバのデータやプリンタを利用します。

サーバへの接続

クライアントからダイヤルアップでサーバに接続します。

1


[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウ内のネットワーク接続用アイコン(例: USBネットワークダイヤルアップ)をダブルクリックします。



[接続]画面が表示されます。

2

「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

「パスワード」はサーバの設定 (P.175 ) で登録したユーザー名とパスワードを入力します。



- 3 「電話番号」が「ダイヤルアップネットワークの接続先の設定」の⑦(P.181)で指定した内線番号になっていることを確認し、**ダイヤル** ボタンをクリックします。

「接続中」と表示されたあと、タスクトレイに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。



サーバに接続できると、サーバパソコンにも[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。

ネットワークの接続を切断するときは、インターネット接続のときと同様にタスクトレイの[ダイヤルアップ]インジケータをクリックし、**切断** ボタンをクリックします。



共有フォルダ/プリンタを使う

サーバパソコンがクライアントパソコンに利用を許可している共有フォルダや共有プリンタを使用します。

- 1 クライアントから、ダイヤルアップネットワークでサーバと接続しておきます。

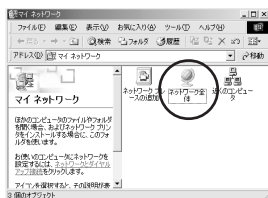
- 2 デスクトップの[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



マイ ネットワーク

[マイネットワーク]ウィンドウが表示されます。

- 3 [ネットワーク全体]アイコンをダブルクリックします。



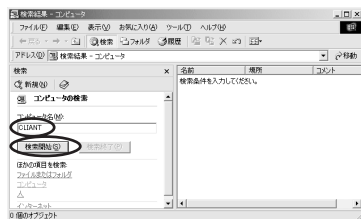
[ネットワーク全体]ウィンドウが表示されます。

- 4 「コンピュータの検索」をクリックします。



[検索結果 - コンピュータ]ウィンドウが表示されます。

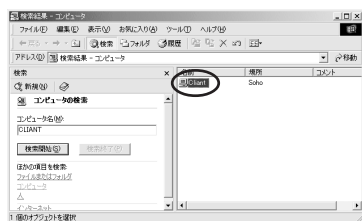
- 5 「コンピュータ名」でサーバパソコンの名前を入力し、**検索開始** ボタンをクリックします。



サーバパソコンが検索されます。

6

サーバのアイコンをダブルクリックします。



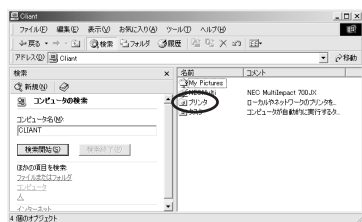
サーバが使用を許可しているドライブやフォルダ、プリンタが表示され、クライアントで使用できるようになります。

サーバがパスワードを設定している場合 (P.175 ⑦) は、パスワードの入力が必要です。

共有プリンタを使用する場合は、以降の手順にすんでください。

7

プリンタのアイコンをダブルクリックします。



8

はい ボタンをクリックします。

プリンタのウィンドウが表示されます。

9

プリンタウィンドウを閉じます。



4-6 . 外部から着信可能なダイヤルアップサーバ

USBネットワーク用に構成したサーバパソコンは、外部からの接続を受け付けるダイヤルアップサーバとしても動作します。

ただし、このためにはIWX70にINSネット64からの着信ができるように設定しておく必要があります。『らくらくアシスタント』を使って、電話番号画面でいずれかの電話番号にパソコンを接続したポートへの着信を指定します。



お知らせ

外部から着信させたくない場合は、着信の設定をしないか、データポートの識別着信を設定してください。

外部から着信するときに発信者側がAtermを使用している場合は、スティルスコーンバックが利用できます。(「3-1 . データ通信の機能」)



お願い

1台のパソコンをダイヤルアップサーバとして構成し、IWX70のシリアルポートとUSBポートの両方に接続すると、外部の2台のパソコンから着信を受け付けることができます。この場合、シリアルポートとUSBポートのどちらかに優先着信を設定してください。

5

ATコマンド

IWX70とRS7が対応するATコマンドについて説明します。

ATコマンドとは

IWX70用ATコマンド

RS7用ATコマンド

5-1 . AT コマンドとは

AT コマンドは米国 Hayes 社が自社用モデムのために開発した非同期端末用自動発着信方式の通信ソフトウェアの一種で、コマンドのほとんどが「AT」で始まることからこう呼ばれています。IWX70 と RS7 は AT コマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

AT コマンドの構成

AT コマンドは「コマンド」、「S レジスタ」、「リザルトコード」の3つから成り立っています。

コマンド

パソコンから IWX70 または RS7 に対して動作を指示するときに、「コマンド」を使います。コマンドは次の形式で入力します。

AT	コマンド	CR	RF
----	------	----	----

コマンドは半角の英数字で入力します。

英字は大文字か小文字のどちらかに統一して入力します。大文字・小文字を組み合わせる用いることはできません。

AT at x At aT

最大 184 字以内で複数のコマンドを連続して入力できます。184 字を超えた場合は ERROR をパソコンに返します。

コマンドによっては、コマンドのうしろにパラメータが必要なものがあります。パラメータが省略されると、値は「0」とみなされます。

「CR」(改行キーやreturn キー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字で、省略できます。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードは ASCII を使用します。

IWX70 と RS7 は AT コマンドからパソコンのデータポート速度、データビット長、パリティを自動的に判別し、それに合わせます。

S レジスタ

コマンドを実行する際に参照するのが「S レジスタ」です。

S レジスタは、自動発着信の動作を規定する各種のパラメータ (RING 回数、時間、文字) を格納するレジスタで、S レジスタの内容を指定することによって、発着信動作を詳細に規定することができます。

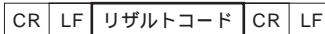
S レジスタの内容は「ATSn」コマンドで変更できます。

リザルトコード

パソコンから IWX70 または RS7 に対して実行したコマンドの結果や着信の報告を「リザルトコード」といいます。

リザルトコードの形式は V コマンドで設定します。次の 2 種類があります。

英数字表示のリザルトコード（初期値）



（英数字）

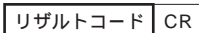
「CR」（改行キーや return キー）は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字です。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードは ASCII を使用します。

数値表示のリザルトコード

リザルトコードが数値表示になっていると、通信できない場合があります。



（数値）

「CR」（改行キーや return キー）は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。復帰文字を変更すると、通信できない場合があります。

コードは ASCII を使用します。

5-2 . IW X70 用 AT コマンド

IWX70 が対応している AT コマンドについて説明します。

- : コマンド実行時に設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。
 - : 「\$S」コマンドを実行すると設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。
- 注: 初期値は各コマンドの説明を参照してください。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
N	回線速度の設定	0
O	コマンドモードからデータ通信モードへもどす	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータ初期化	-
ZJ	データポートの設定初期化	-
ZK	USBポートの設定初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
/SJ	シリアルポートのサブアドレスセパレータ設定	/
/SK	USBポートのサブアドレスセパレータ設定	/
&C	データポートのCD信号制御設定	1
&CJ	シリアルポートのCD信号制御設定	1

コマンド	機能概要	初期値
&CK	USBポートのCD信号制御設定	1
&D	データポートのER信号制御設定	0
&DJ	シリアルポートのER信号制御設定	0
&DK	USBポートのER信号制御設定	0
&H	短縮番号表示	-
&K	フロー制御方式設定	3
&S	データポートのDR信号制御設定	0
&SJ	シリアルポートのDR信号制御設定	0
&SK	USBポートのDR信号制御設定	0
&Z	短縮番号登録	-
#C	データポートの通信料金、切断理由表示	-
#CJ	シリアルポートの通信料金、切断理由表示	-
#CK	USBポートの通信料金、切断理由表示	-
#H	データポートの通知番号表示	-
#HJ	シリアルポートの通知番号表示	-
#HK	USBポートの通知番号表示	-
#HA	電話Aポートの通知番号表示	-
#HB	電話Bポートの通知番号表示	-
#HPA ~#HPF	無線A~Fポートの通知番号表示	-

コマンド	機能概要	初期値
#HSA ~ #HSF	無線A~FポートのID登録状態表示	-
#M	PIAFSの設定と表示	1
#R	着信拒否	-
#Z	データポートの通知番号登録	-
#ZJ	シリアルポートの通知番号登録	-
#ZA	電話Aポートの通知番号登録	-
#ZB	電話Bポートの通知番号登録	-
#ZK	USBポートの通知番号登録	-
#ZPA ~ #ZPF	無線A~Fポートの通知番号登録	-
*H	着信番号・内線指定番号割当表示	-
*PC	データポートの発信i・ナンバー設定	-
*PCNJ	シリアルポートの発信i・ナンバー設定	-
*PCNK	USBポートの発信i・ナンバー設定	-
*PN	i・ナンバー情報電話番号	-
*PR	データポートの着信i・ナンバー設定	-
*PRNJ	シリアルポートの着信i・ナンバー設定	-
*PRNK	USBポートの着信i・ナンバー設定	-
*PX1	i・ナンバー使用の設定	0
*P?	i・ナンバー設定表示	-
*Z	着信番号・内線指定番号登録	-
*ZA	電話Aポート着信番号・内線指定番号割当	-

コマンド	機能概要	初期値
*ZB	電話Bポート着信番号・内線指定番号割当	-
*ZD	データポート着信番号割当	-
*ZDJ	シリアルポート着信番号割当	-
*ZDK	USBポート着信番号割当	-
*ZPA ~ *ZPF	無線A~Fポート着信番号・内線指定番号割当	-
¥C	累積通通信料金表示	-
¥CP	無線ポート累積通通信料金表示	-
¥D	UIメール表示の設定と表示	注
¥L	発信情報表示	-
¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	データポートの各種設定表示	-
¥SJ	シリアルポートの各種設定表示	-
¥SK	USBポートの各種設定表示	-
\$A	電話Aポートの設定と表示	注
\$B	電話Bポートの設定と表示	注
\$D	アナログポート共通設定と表示	注
\$F	データポート共通設定と表示	注
\$H	着信転送用アドレス表示	-
\$L	LCDの設定と表示	注
\$M	128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注

コマンド	機能概要	初期値
\$MJ	シリアルポートの128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注
\$MK	USBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注
\$N	データポートの制御に関する設定と表示	注
\$NJ	シリアルポートの制御に関する設定と表示	注
\$NK	USBポートの制御に関する設定と表示	注
\$NP	データポート / 無線ポート優先着信ポート指定と表示	注
\$O	ITMUX機能の設定や表示	注
\$P	無線ポート共通設定と表示	注
\$PA ~ \$PF	無線ポートの設定と表示	注
\$S	パラメータの保存	-
\$X	着信転送の設定	2, 0
\$Y	着信転送先アドレス登録	-
\$YM	遊遊メールの転送先メールアドレス登録	-
\$Z	着信転送元アドレス登録	-
%C	圧縮プロトコル指定	2
S	Sレジスタポイントの設定	0

コマンド	機能概要	初期値
?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-
!H	マイプライベート着信用アドレスの登録情報表示	-
!SH	疑似識別着信の登録情報表示	-
!SZ	疑似識別着信のアドレス登録	-
!UC	迷惑電話防止用アドレスの登録電話番号削除	-
!UH	迷惑電話防止用アドレスの情報表示	-
!US	迷惑電話防止用アドレスの登録	-
!VH	ボイスワープ設定電話番号の登録情報表示	-
!VZ	ボイスワープ設定電話番号登録	-
!WH	疑似識別リング用アドレスの登録情報表示	-
!WZ	疑似識別リング用アドレスの登録	-
!X	マイプライベート着信の設定	0
!Z	マイプライベート着信の相手番号と着信ポートの設定	-

A

機能： 「RING」が表示されているときに、本コマンドを入力して相手と通信中にします。
 書式： ATA
 パラメータ： なし
 入力例： ATA

D

機能： 発信して相手呼び出します。
 書式： ATD <パラメータ 1> </パラメータ 2> <パラメータ 3>
 パラメータ： <パラメータ 1> 相手アドレス (相手電話番号)
 S=0 ~ 9: 短縮・識別番号へ発信します。
 ¥: 再発信します。
 00: USBポートへ内線発信します。
 02: シリアルポートへ内線発信します。
 <パラメータ 2> 相手サブアドレス
 <パラメータ 3> [ユーザ・ユーザデータ
 ; : コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力します。
 CB: スティルスコールバックの発信をします。
 PF: PIAFS32Kが設定されていない場合に、PIAFS32Kで発信します。通信終了後はもとの設定にもどります。
 PD: PIAFS64Kが設定されていない場合に、PIAFS64Kで発信します。通信終了後はもとの設定にもどります。
 PA: ITMUX同期64KPPP通信で発信します。
 PB: ITMUX128KマルチリンクPPP通信で発信します。
 PP: PIAFS2.1で発信します。
 DL: デュアルリンクワイヤレスモードで発信します。

入力例： ATD0123-45-6789 [ABCD
 ATDS=0

ATD0123-45-6789CB

補足： 相手電話番号は数字で最大32桁使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。
 相手サブアドレスは数字で最大19桁使用できます。また、「/」以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。「/」は「S」コマンドで変更できます。
 「ユーザ・ユーザデータ」は最大128桁で、0~9、*、#、英字が使用できます。ユーザ・ユーザデータの前には[を入れてください。
 「;」はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。
 「CB」指定時は合わせてスティルスコールバック着信許可(\$N10=1)にしてください。また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
 「CB」指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。
 PIAFS32K、PIAFS64K通信時は「CB」は使用できません。
 「CB」「PF」「PD」「PA」「PB」「DL」「PP」は必ず最後に付けてください。
 「CB」「PF」「PD」「PA」「PB」「DL」「PP」を指定した発信のリダイヤルはできません。

E

機能： エコーバックするかどうかを指定します。
 書式： ATE <パラメータ 1>
 パラメータ： <パラメータ 1> 0 : エコーバックしません。
 1 : エコーバックします。(初期値)
 入力例： ATE0

H

機能： 通信を切断します。
 書式： ATH
 パラメータ： なし
 入力例： ATH
 補足： 最初にエスケープコマンド「+++」を入力し、コマンドモードにしてから「H」コマンドを入力します。

W

機能： リザルトコードRINGの表示のしかたを設定します。
 書式： ATW <パラメータ 1 >
 パラメータ： <パラメータ 1 > 0：RINGだけを返します。(初期値)
 2：RINGのあとに続けて相手の電話番号、サブアド
 レス、ユーザ・ユーザデータを表示します。

入力例： ATW2
 補足： 電話番号とサブアドレスは、サブアドレスセパレータで区切られます。
 電話番号またはサブアドレスとユーザ・ユーザデータの区切りは [です。

X

機能： リザルトコードセットを指定します。
 書式： ATX <パラメータ 1 >
 パラメータ： <パラメータ 1 > 0：ベーシックセット
 1：拡張セット 1
 2：拡張セット 2
 3：拡張セット 3 (初期値)
 4：拡張セット 4

入力例： ATX0

リザルトコードセット一覧

数字	英語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK					
1	CONNECT		-	-	-	-
2	RING					
3	NO CARRIER					
4	ERROR					
5	CONNECT1200	-				
7	BUSY	-	-	-		
10	CONNECT2400	-				
11	CONNECT4800	-				
12	CONNECT9600	-				
13	CONNECT14400	-				
14	CONNECT19200	-				
18	CONNECT57600	-				
19	CONNECT64000	-				
21	CONNECT32000	-				
26	CONNECT28800	-				
28	CONNECT38400	-				
67	COMPRESSION : V.42bis	-				
69	COMPRESSION : NONE	-				
82	PROTOCOL : PIAFS	-				

Z

機能：	パラメータを初期値にもどします。		
書式：	ATZ <パラメータ 1 >		
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0	： 「\$S」コマンドで設定した内容にもどします。
		1	： 短縮ダイヤル、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号、累積通信料金、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス、受話音量、時計設定以外のパラメータを初期化します。
		98	： ハードウェアリセットをし、すべてのパラメータを初期化します。
		99	： ソフトウェアリセットをし、「\$S」コマンドで設定した内容にもどします。
入力例：	ATZ1		

ZJ

機能：	シリアルポートの設定を初期化します。		
書式：	ATZJ <パラメータ 1 >		
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0	： シリアルポートを「\$S」コマンドで保存した内容にもどします。
		1	： シリアルポートを購入時の状態にもどします。
入力例：	ATZJ0		

ZK

機能：	USB ポートの設定を初期化します。		
書式：	ATZK <パラメータ 1 >		
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0	： USB ポートを「\$S」コマンドで保存した内容にもどします。
		1	： USB ポートを購入時の状態にもどします。
入力例：	ATZK1		

/S

機能：	データポートのサブアドレスセパレータの表示・設定をします。		
書式：	AT/S <パラメータ 1 > < = パラメータ 2 >		
パラメータ：	<パラメータ 1 > < = パラメータ 2 >	0	： セパレータの表示
		1	： セパレータの設定
		1 = /	(初期値)
		1 = #	
		1 = *	
入力例：	AT/S1=#		
補足：	本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、「&Z」「#Z」「#ZA」「#ZB」「#ZPA」～「#ZPF」「\$Z」「D」コマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。 アナログポートで使用するセパレータ（*）は固定です。 液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字が表示されます。		

/SJ

機能：	シリアルポートのサブアドレスセパレータの表示・設定をします。		
書式：	AT/SJ <パラメータ 1 > < = パラメータ 2 >		
パラメータ：	「/S」コマンドと同じです。		
入力例：	AT/SJ1=*		
補足：	アナログポートで使用するセパレータ（*）は固定です。 液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字が表示されます。		

#CJ

機能： シリアルポートの通信料金、切断理由コードなどを表示します。
書式： AT#CJ
パラメータ： なし
入力例： AT#CJ
補足： 「#C」コマンドの補足を参照してください。

#CK

機能： USBポートの通信料金、切断理由コードなどを表示します。
書式： AT#CK
パラメータ： なし
入力例： AT#CK
補足： 「#C」コマンドの補足を参照してください。

#H

機能： データポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#H
パラメータ： なし
入力例： AT#H
補足： 通知番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

#HJ

機能： シリアルポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を表示します。
書式： AT#HJ
パラメータ： なし
入力例： AT#HJ
補足： 「#H」コマンドの補足を参照してください。

#HK

機能： USBポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を表示します。
書式： AT#HK
パラメータ： なし
入力例： AT#HK
補足： 「#H」コマンドの補足を参照してください。

#HA

機能： 電話 A ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#HA
パラメータ： なし
入力例： AT#HA

#HB

機能： 電話 B ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT#HB
パラメータ： なし
入力例： AT#HB

#HPA・#HPB・#HPC・#HPD・#HPE・#HPF

機能： 無線 A ~ F ポートの通知番号を表示します。
書式： AT#HPA (~ F)
パラメータ： なし
入力例： AT#HPA
補足： 「#H」コマンドの補足を参照してください。

#HSA・#HSB・#HSC・#HSD・#HSE・#HSF

機能： 無線 A～F ポートの登録状況を表示します。
書式： AT#HSA (<F>)
パラメータ： なし
入力例： AT#HSA
補足： 登録されている場合は「/91」(REG)、登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。数字の部分は各ポートの内線番号になります。

#M

機能： PIAFS の設定・表示をします。
書式： AT#M= <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : PIAFS 通信する
1 : 非同期通信する (初期値)
? : 設定内容の表示
入力例： AT#M=0
補足： 「#M」コマンドでの設定は「\$N1」コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。

#R

機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT#R
パラメータ： なし
入力例： AT#R

#Z

機能： データポートの通知番号を登録します。
書式： AT#Z <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 通知番号
<パラメータ 2 > 自己サブアドレス
入力例： AT#Z012345678/910
補足： 通知番号は、数字で最大 32 桁まで使用できます。
自己サブアドレスは、数字で最大 19 桁まで使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。

#ZJ

機能： シリアルポートの発信者通知番号 (通知番号と自己サブアドレス) を登録します。
書式： AT#ZJ <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： 「#Z」コマンドと同じです。
入力例： AT#ZJ12345678
補足： 「#Z」コマンドの補足を参照してください。

#ZK

機能： USB ポートの発信者通知番号 (通知番号と自己サブアドレス) を登録します。
書式： AT#ZK <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： 「#Z」コマンドと同じです。
入力例： AT#ZK567890/123
補足： 「#Z」コマンドの補足を参照してください。

#ZA

機能： 電話 A ポートの通知番号を登録します。
書式： AT#ZA <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 通知番号
<パラメータ 2 > 自己サブアドレス
入力例： AT#ZA012345678/2222
補足： 「#Z」コマンドの補足を参照してください。

#ZB

機能： 電話 B ポートの通知番号を登録します。
書式： AT#ZB <パラメータ 1> </パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
<パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例： AT#ZB012345678/3333
補足： 「#Z」コマンドの補足を参照してください。

#ZPA・#ZPB・#ZPC・#ZPD・#ZPE・#ZPF

機能： 無線 A ~ F ポートの通知番号を登録します。
書式： AT#ZP (A ~ F) <パラメータ 1> </パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
<パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例： AT#ZPA012345678/2222
補足： 「#Z」コマンドの補足を参照してください。
この通知番号は ISDN 網のダイヤルイン番号に相当します。
この通知番号は ISDN 網に有効なアドレスとなります。

*H

機能： 着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。
書式： AT*H
パラメータ： なし
入力例： AT*H

*PC

機能： i・ナンバーの発信と情報を設定します。
書式： AT*PC <パラメータ 1> < =パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> A、B：アナログポート
N：データポート
PA、PB、PC、PD、PE、PF：無線ポート
<パラメータ 2> i・ナンバー情報 1 ~ 3
入力例： AT*PCA=1
補足： 初期値は B=2、それ以外は 1 です。

*PCNJ

機能： シリアルポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT*PCNJ = <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
入力例： AT*PCNJ=1

*PCNK

機能： USB ポートに、発信用 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT*PCNK = <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
入力例： AT*PCNK=1

*PN

機能： i・ナンバー情報の電話番号を設定します。
書式： AT*PN <パラメータ 1> < =パラメータ 2> < ,パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報
<パラメータ 2> 電話番号
<パラメータ 3> 内線指定番号 (必要に応じて入力します)
入力例： AT*PN1=0312345678

*PR

機能： i・ナンバーの着信、i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT*PR <パラメータ 1> <=パラメータ 2> <,パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> A、B(アナログポート)、N(データポート)、P、PA、
PB、PC、PD、PE、PF(無線ポート)
<パラメータ 2> i・ナンバー情報
<パラメータ 3> i・ナンバー情報
入力例： AT*PRA=1,2
補足： 初期値はA=1、B=2、N=1、2、P、PA=1、2、他=設定なしです。

*PRNJ

機能： シリアルポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT*PRNJ = <パラメータ 1> <,パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
<パラメータ 2> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
入力例： AT*PRNJ=1, 2

*PRNK

機能： USBポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。
書式： A T*PRNK = <パラメータ 1> <,パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
<パラメータ 2> i・ナンバー情報 1 ~ 3 (初期値 1)
入力例： AT*PRNK=1, 2

*PX1

機能： i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。
書式： AT*PX1 <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 使用しない(初期値)
1 : 使用する
入力例： AT*PX1=1

*P?

機能： i・ナンバーに関する設定内容を表示します。
書式： AT*P?
パラメータ： なし
入力例： AT*P?

*Z

機能： 着番号と内線指定番号を最大 8 個まで登録します。
書式： AT*Z <パラメータ 1> <=パラメータ 2> <,パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ~ 7 : テーブル番号
<パラメータ 2> 着信番号(電話番号)
<パラメータ 3> 内線指定番号
入力例： AT*Z1 = 1234567890, 1111
補足： 通知番号は、数字で最大 32 桁まで使用できます。
内線指定番号は「モデム・ダイヤルイン」、「アナログ・ダイヤルイン」を設定したときだけ使用します。数字で最大 4 桁まで使用できます。

*ZA

機能： 電話 A ポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式： AT*ZA = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 > : 0 ~ 7
(「*Z」コマンドで登録したテーブル番号)

入力例： AT*ZA = 0, 2, 3, 7
補足： 1 つのポートに最大 8 つまで割り当てることができます。
本コマンドで登録された番号で着信判定をおこないます。
内線指定番号は「モデム・ダイヤルイン」、「アナログ・ダイヤルイン」を設定したときだけ使用します。

*ZB

機能： 電話 B ポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式： AT*ZB = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： 「*ZA」と同じです。
入力例： AT*ZB = 0, 2, 3, 7
補足： 「*ZA」コマンドの補足を参照してください。

*ZD

機能： データポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式： AT*ZD = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： 「*ZA」と同じです。
入力例： AT*ZD = 0, 2, 3, 7
補足： 1 つのポートに最大 8 つまで割り当てることができます。
本コマンドで登録された番号で着信判定をおこないます。
内線指定番号は無視されます。

*ZDJ

機能： シリアルポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号を割り当てます。

書式： AT*ZDJ = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： 「*ZA」コマンドと同じです。
入力例： AT*ZDJ=0, 1, 7, 2, 6
補足： 「*ZD」コマンドの補足を参照してください。

*ZDK

機能： USB ポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号を割り当てます。

書式： AT*ZDK = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： 「*ZA」コマンドと同じです。
入力例： AT*ZDK=1, 3, 4, 6
補足： 「*ZD」コマンドの補足を参照してください。

*ZPA・*ZPB・*ZPC・*ZPD・*ZPE・*ZPF

機能： 無線 A ~ F ポートに「*Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。

書式： AT*ZP (A ~ F) <パラメータ 1> < /パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ> ~ <, パラメータ 8 > : 0 ~ 7
(*ZP コマンドで登録したテーブル番号)

入力例： AT*ZPA=0, 2, 3, 7
補足： 内線指定番号は無視されます。

¥C

機能： データポート、電話Aポート、電話Bポートの累積通信料金の表示と初期化をおこないません。
書式： AT¥C <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 累積通信料金を表示します。
1 : 累積通信料金を初期化(0円)します。
入力例： AT¥C0

¥CP

機能： 無線A～Fポートの累積通信料金の表示と初期化をおこないます。
書式： AT¥CP <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 累積通信料金を表示します。
1 : 累積通信料金を初期化(0円)します。
入力例： AT¥CP0

¥D

機能： UUIメール着信時のランプ表示設定と設定内容の表示をします。
書式： AT¥D <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 設定内容の表示
1 : ランプ点灯選択
1=0 : UUIメール着信でランプ点灯しない
1=1 : UUIメール着信でランプ点灯する(初期値)
入力例： AT¥D1=0

¥L

機能： データポート、電話Aポート、電話Bポートの最新発信・着信番号と着信しなかった理由を表示します。
書式： AT¥L <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 最新の発信番号を表示します。
1 : 最新の着信番号、切断理由、診断情報を表示します。
入力例： AT¥L1
補足： SEND CAUSE=切断理由、DIAGNOSIS=診断情報です。詳細は取扱説明書の「8-3. 切断理由/生成源/診断情報の表示」を参照してください。

¥M

機能： 電子メール着信通知時のランプ表示設定と設定内容を表示します。
書式： AT¥M <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 設定内容の表示
1 : ランプ点灯選択
1=0 : 電子メール着信でランプ点灯しない
1=1 : 電子メール着信でランプ点灯する(初期値)
入力例： AT¥M1=0

¥Q

機能： フロー制御方式を設定します。
書式： AT¥Q <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : フロー制御なし
1 : XON/XOFFフロー制御
2 : CSフロー制御
3 : RS-CSフロー制御(初期値)
入力例： AT¥Q0

¥S

機能：	データポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。	
書式：	AT¥S <パラメータ 1 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0 : データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、非同期 / 同期 PPP モード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示します。
		1 : Sレジスタの内容をSレジスタ名とともに表示します。
		2 : リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態を表示します。
		3 : Sレジスタの内容を表示します。
入力例：	AT¥S0	

¥SJ

機能：	シリアルポートの設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
書式：	AT¥SJ <パラメータ 1 >
パラメータ：	「¥S」コマンドと同じです。
入力例：	AT¥SJ1

¥SK

機能：	USBポートの設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
書式：	AT¥SK <パラメータ 1 >
パラメータ：	「¥S」コマンドと同じです。
入力例：	AT¥SK0

\$A

機能：	電話Aポートの設定と表示をします。
書式：	AT\$A <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ：	<パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
	0 : 設定内容の表示
	1 : アナログポート選択
	1=0 : 電話で使用する (初期値)
	1=1 : ファクスやモデムで使用する
	1=2 : 使用しない
	2 : キャッチホン選択
	2=0 : 使用しない (初期値)
	2=1 : INS キャッチホンを使用する
	2=2 : 疑似キャッチホンを使用する
	3 : 識別着信設定
	3=0 : 識別着信しない (初期値)
	3=1 : INS なりわけ識別着信
	3=2 : 疑似識別着信
	3=3 : INS なりわけ選択キャッチホン
	3=4 : 疑似選択キャッチホン
	4 : HLC 設定
	4=0 : HLC を設定しない (初期値)
	4=1 : HLC を設定して着信判定する
	4=2 : HLC を設定するが着信判定しない
	5 : グローバル着信選択
	5=0 : 着信する (初期値)
	5=1 : 着信しない
	6 : サブアドレスなし着信選択
	6=0 : 着信する (初期値)
	6=1 : 着信しない

- 7 : ダイヤル桁間タイマ設定
 - 7=0 : 5 秒 (初期値)
 - 7=1 : 9 秒
 - 7=2 : 11 秒
 - 7=3 : 13 秒
- 8 : フッキング検出タイマ設定
 - 8=0 : 0.03 秒 ~ 1 秒
 - 8=1 : 0.3 秒 ~ 1 秒 (初期値)
 - 8=2 : 0.5 秒 ~ 1.5 秒
- 9 : 発信者番号通知設定
 - 9=0 : 発信者番号通知しない
 - 9=1 : 発信者番号通知する
 - 9=2 : INS ネット 64 申込内容にしたがう (初期値)
- 10 : 受話音量の設定
 - 10=0 : 小音
 - 10=1 : 中音 (初期値)
 - 10=2 : 大音
- 11 : 情報通知サービス設定
 - 11=0 : 情報通知サービスしない (初期値)
 - 11=1 : ナンバー・ディスプレイを使用する
 - 11=2 : モデム・ダイヤルインを使用する
 - 11=3 : アナログ・ダイヤルインを使用する
 - 11=4 : ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する
- 12 : 情報通知サービス (サブアドレス) 設定
 - 12=0 : サブアドレスを付けない (初期値)
 - 12=1 : サブアドレスを付ける
- 13 : リバースパルス送出設定
 - 13=0 : 送出しない (初期値)
 - 13=1 : 送出する
- 14 : 通話中の受話音量変更
 - 14=0 : * # 入力で受話音量を変更しない (初期値)
 - 14=1 : * # 入力で受話音量を変更する
- 15 : 識別リング設定
 - 15=0 : 使用しない (初期値)
 - 15=1 : INS なりわけ
 - 15=2 : 疑似なりわけ
- 16 : CTI モード設定
 - 16=0 : 使用しない (初期値)
 - 16=1 : 使用する
- 18 : キャッチホン・ディスプレイ設定
 - 18=0 : 使用しない (初期値)
 - 18=1 : 使用する

入力例 :

AT\$A3=1

補足 :

HLC を設定した場合に電話を選択していれば HLC は「電話」に、ファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。
 12 (情報通知サービス) は 11 (情報通知サービス) を 1, 2, 4 に設定したときに利用できます。
 11 = 0 のときは 12 の設定は動作に関係しません。

\$B

機能 :

電話 B ポートの設定と表示をします。

書式 :

AT\$B <パラメータ 1> <=パラメータ 2>

パラメータ :

「\$A」と同じです。

入力例 :

AT\$B4=1

補足 :

「\$A」コマンドの補足を参照してください。

\$D

機能： 2つのアナログポートに共通する設定と表示をします。
書式： AT\$D <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>

- 0： 設定内容の表示
- 2： 停電時のリング制御
 - 2=0： 着信時リングでなくブザーが鳴る
 - 2=1： 着信時リングが鳴る（初期値）
 - 2=3： 着信を受け付けない
- 3： 優先着信ポートの指定
 - 3=0： 指定しない（初期値）
 - 3=1： 電話 A ポート優先
 - 3=2： 電話 B ポート優先
- 4： 内線通話・転送機能使用可否
 - 4=0： 使用しない
 - 4=1： 使用する（初期値）
- 5： 三者通話使用可否
 - 5=0： 使用しない（初期値）
 - 5=1： 三者通話を使用する
 - 5=2： 疑似三者通話を使用する
- 6： 通信中転送使用可否
 - 6=0： 使用しない（初期値）
 - 6=1： 使用する
- 7： お出かけ設定
 - 7=1： おやすみモード（初期値）
 - 7=2： 電話着信転送モード
 - 7=3： ボイスワープ転送モード
 - 7=4： フラッシュモード
- 8： ボイスワープ転送モード設定
 - 8=1： 無条件転送（初期値）
 - 8=2： 無応答時転送
 - 8=3： 話中時転送
 - 8=4： 無応答または話中時転送
- 9： アナログポート [#] 発信設定
 - 9=0： 使用しない（#、##で発信しない）
 - 9=1： # 発信する（初期値）
 - 9=2： ## 発信する

入力例： AT\$D3=2

補足： <パラメータ 1> の 4, 5, 6 は無線ポートも一緒に設定されます。

\$F

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT\$F <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>

- 0： 1～3 の設定内容の表示
- 1： 優先着信ポートの設定
 - 1=0： 優先ポートを指定しない（初期値）
 - 1=1： シリアルポートを優先ポートに指定する
 - 1=2： USB ポートを優先ポートに指定する
- 2： 応答平均化機能
 - 2=0： 応答平均化しない（初期値）
 - 2=1： 応答平均化する
- 3： 応答平均化時のマルチポイント接続端末数
 - 3=1～8： 1～8 台（初期値 1 台）

入力例： AT\$F1=2

補足： 存在しないポートを指定した場合は ERROR となります。
3（マルチポイント接続端末数）は、2（応答平均化機能）を「1」に設定したとき（2=1）には必ず設定してください。3 には同一回線に接続されている Aterm の数を設定します。
2=0 のとき、3 の設定値は無効になります。

\$H

機能： アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレス設定状態を表示します。
書式： AT\$H
パラメータ： なし
入力例： AT\$H
補足： 着信番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

\$L

機能： 液晶ディスプレイの設定と表示をします。
書式： AT\$L <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
1 : バックライトの設定
1=0 : 常に消灯
1=1 : 常に点灯
1=2 : AUTO (初期値)
1=3 : AUTO + データ通信中は常に点灯
1=4 : AUTO + B チャネル使用中は常に点灯
2 : アナログ発信時の発信ダイヤル表示
2=0 : ダイヤル番号を表示しない
2=1 : ダイヤル番号を表示する (初期値)
入力例： AT\$L1=1
補足： データ発信時は常にダイヤル番号を表示します。

\$M

機能： データポートの 128kbps マルチリンク PPP 通信の設定と表示をします。
書式： AT\$M <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
1 : マルチリンク通信設定
1=0 : 128kbps マルチリンク PPP 通信しない (初期値)
1=1 : 128kbps マルチリンク PPP 通信する
2 : リソース BOD 選択
2=0 : リソース BOD をおこなわない (初期値)
2=1 : リソース BOD をおこなう
3 : スループット BOD 選択
3=0 : スループット BOD をおこなわない (初期値)
3=1 : スループット BOD をおこなう
3=2 : フレックス BOD で使用する
4 : リンク追加算出時間 (10 秒単位)
4=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 30 秒)
5 : リンク削除算出時間 (10 秒単位)
5=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 10 秒)
6 : リンク追加しきい値設定 (10% 単位)
6=60 ~ 90 : 60 ~ 90% (初期値 70%)
7 : リンク削除しきい値設定 (10% 単位)
7=10 ~ 40 : 10 ~ 40% (初期値 20%)
8 : 2 本目接続時の認証
8=0 : 認証しない
8=1 : 認証する (初期値)
補足： 本コマンドを送出したデータポート (シリアルポートまたは USB ポート) の設定のみ変更されます。
「\$M1」コマンドは「\$N11」コマンドと同じです。どちらかを設定すれば有効になります。

\$MJ

機能： シリアルポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示をします。
書式： AT\$MJ <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： 「\$M」コマンドと同じですが、3=2（フレックスBODで使用する）は使用できません。
入力例： AT\$MJ3=1

\$MK

機能： USBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示をします。
書式： AT\$MK <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： 「\$M」コマンドと同じです。
入力例： AT\$MK4=30

\$N

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT\$N <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>
0： 設定内容の表示
1： 非同期/同期PPP変換選択
1=0： 非同期/同期PPP変換しない（初期値）
1=1： 非同期/同期PPP変換する
1=2： PIAFS通信する
2： 識別着信
2=0： 識別着信しない（初期値）
2=1： 識別着信する
3： HLC設定
3=N： HLCを設定しない（初期値）
3=0 ~ 127
4： 着信速度チェック
4=0： チェックしない（初期値）
4=1： チェックする
5： グローバル着信選択
5=0： 着信する（初期値）
5=1： 着信しない
6： サブアドレスなし着信選択
6=0： 着信する（初期値）
6=1： 着信しない
7： 応答平均化機能
7=0： 平均化しない（初期値）
7=1： 平均化する
8： マルチアクセスポイント接続端末数（マルチアクセス）
8=1 ~ 8： 1 ~ 8台（初期値1台）
9： 無通信監視タイマ
9=0： 監視しない
9=1 ~ 10： 1 ~ 10分（初期値10分）
10： スティルスコールバック使用
10=0： コールバックしない（初期値）
10=1： コールバックする
11： マルチリンク通信設定（128kbpsマルチリンクPPP）
11=0： 通信しない（初期値）
11=1： 通信する
12： 発信者番号通知設定
12=0： 発信者番号を通知しない
12=1： 発信者番号を通知する
12=2： INS ネット 64 申込内容にしたがう（初期値）
13： PPP ACCM 付加選択
13=0： 64KPPP、MP時にACCMを付加しない
13=1： 64KPPP、MP時にACCMを付加する（初期値）

- 14 : 強制切断タイマ
14=0 : 強制切断しない
14=1 ~ 10 : 1 ~ 10 時間 (初期値 10 時間)
- 15 : PIAFS モード指定
15=0 : PIAFS32K (初期値)
15=1 : PIAFS64K
15=2 : PIAFS2.1

入力例 : AT\$N9=2
 補足 : 8 (マルチアクセスポイント接続端末数)は、7 (応答平均化機能)を 1 に設定したとき (7=1) に必ず設定してください。
 8 には同一回線に接続されている Aterm の数を設定します。
 7=0 のときは 8 の設定値は動作に関係しません。
 4 (着信速度チェック)を「チェックしない」(4=0)に設定すると、異速度通信をおこなう動作になります。
 \$N1=0, \$N1=2 の設定は「#M」コマンドでも同様に設定できます。どちらかを設定すれば有効になります。
 \$N1=2 のときの PIAFS 通信時の速度 (32K/64K)は「\$N15」コマンドで設定します。

\$NJ

機能 : シリアルポートの制御に関する設定と表示をします。
 書式 : AT\$NJ <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 パラメータ : 「\$N」コマンドと同じです。
 入力例 : AT\$NJ3=1
 補足 : 「\$N」コマンドの補足を参照してください。

\$NK

機能 : USB ポートの制御に関する設定と表示をします。
 書式 : AT\$NK <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 パラメータ : 「\$N」コマンドと同じです。
 入力例 : AT\$NK4=1
 補足 : 「\$N」コマンドの補足を参照してください。

\$NP

機能 : データポートへの UUI メール通知モードを指定します。
 書式 : AT\$NP <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 パラメータ : <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 0 : 3 の設定内容の表示
 3 : 外線データ着信時の優先着信ポート指定
 3=0 : データポート (初期値)
 3=1 : 無線ポート
 4 : UUI メール通知モード
 4=0 : 通知しない
 4=1 : 通知する (初期値)
 入力例 : AT\$NP3=1

\$O

機能 : ITMUX 機能の動作に関する設定や表示をします。
 書式 : AT\$O <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 パラメータ : <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 0 : 設定内容の表示
 2 : リソース BOD モード設定
 2=0 : おこなわない (初期値)
 2=1 : おこなう
 3 : スループット BOD モード設定
 3=0 : おこなわない (初期値)
 3=1 : おこなう
 3=2 : フレックス BOD で使用する

- 4 : リンク追加算出時間設定
4=0、10 ~ 60 秒 (初期値 30 秒)
- 5 : リンク削除算出時間設定
5=0、10 ~ 60 秒 (初期値 10 秒)
- 6 : リンク追加しきい値設定
6=0、60 ~ 90 % (初期値 70 %)
- 7 : リンク削除しきい値設定
7=0、10 ~ 40 % (初期値 20 %)
- 8 : 2 本目接続時の認証モード設定
8=0 : 認証しない
8=1 : 認証する (初期値)
- 9 : PPP ACCM 付加モード設定
9=0 : ACCM を付加しない
9=1 : ACCM を付加する (初期値)
- 10 : ITMUX 接続での 2 本目以降の接続認証モード
10=0 : 認証をおこなわない
10=1 : 認証をおこなう (初期値)
- 21 : 無通信監視タイマ設定
21=0 : 監視しない
21=1 ~ 10 : 1 ~ 10 分 (初期値 10 分)
- 22 : 強制切断タイマ設定
22=0 : 強制切断タイマを使用しない
22=1 ~ 10 : 1 ~ 10 時間 (初期値 10 時間)

入力例 : AT\$00

補足 : あるデータポートが ITMUX 通信中のときは「OK」を返し、設定変更をおこないません。ただし、パラメータ 0 (設定値読み出し) は実行可能です。

\$P

機能 : 全無線ポート共通 (一斉着信時の設定含む) の設定と表示をします。

書式 : AT\$P <パラメータ 1> <=パラメータ 2>

パラメータ : <パラメータ 1> <=パラメータ 2>

- 0 : 設定内容の表示
- 1 : 音声呼の一斉着信 (グローバル着信) 時の無線ポート呼び出し
 - 1=0 : 全無線ポートを一斉呼び出しする (初期値)
 - 1=1 : 無線 A ポートだけを呼び出す
 - 1=2 : 無線 B ポートだけを呼び出す
 - 1=3 : 無線 C ポートだけを呼び出す
 - 1=4 : 無線 D ポートだけを呼び出す
 - 1=5 : 無線 E ポートだけを呼び出す
 - 1=6 : 無線 F ポートだけを呼び出す
 - 1=7 : 無線ポートは呼び出さない
- 2 : データ呼の一斉着信 (グローバル着信) 時の無線ポート呼び出し
 - 2=1 : 無線 A ポートだけを呼び出す
 - 2=2 : 無線 B ポートだけを呼び出す
 - 2=3 : 無線 C ポートだけを呼び出す
 - 2=4 : 無線 D ポートだけを呼び出す
 - 2=5 : 無線 E ポートだけを呼び出す
 - 2=6 : 無線 F ポートだけを呼び出す
 - 2=7 : 無線ポートは呼び出さない (初期値)

入力例 : AT\$P1=1

\$PA・\$PB・\$PC・\$PD・\$PE・\$PF

- 機能： 無線 A～F ポートの設定と表示をします。
書式： AT\$P(A～F) <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>
- 0 : 設定内容の表示
 - 1 : ポート利用方法
 - 1=0 : PHS (初期値)
 - 1=1 : リモーステーション (デュアルリンクワイヤレス有効)
 - 1=2 : 使用しない (データ通信可)
 - 2 : キャッチホン選択
 - 2=0 : 使用しない (初期値)
 - 2=1 : INS キャッチホンを使用する
 - 2=2 : 疑似キャッチホンを使用する
 - 3 : 無線ポート用識別着信設定
 - 3=0 : 識別着信しない (初期値)
 - 3=1 : INS なりわけ識別着信
 - 3=2 : 疑似識別着信
 - 3=3 : INS なりわけ選択キャッチホン
 - 3=4 : 疑似選択キャッチホン
 - 7 : ダイアル桁間タイマ
 - 7=0 : 5 秒 (初期値)
 - 7=1 : 9 秒
 - 7=2 : 11 秒
 - 7=3 : 13 秒
 - 9 : 発信者番号通知モード設定
 - 9=0 : 発信者番号通知を禁止する
 - 9=1 : 発信者番号通知を許可する
 - 9=2 : 発信者番号通知モードを指定しない (初期値)
 - 10 : PIAFS データ発信時のプロトコル変換
 - 10=0 : ダイレクト通信をする (初期値)
 - 10=1～6 : 非同期
 - 10=7 : INS ネット 64 の回線速度を同期 64K に変換する
 - 11 : データ着信時の無線区間の通信モード指定
 - 11=0 : PIAFS32K (初期値)
 - 11=1 : PIAFS64K (PIAFS2.0)
 - 11=2 : デュアルリンクワイヤレス
 - 11=3 : PIAFS64K (PIAFS2.1)
 - 12 : UUI 通知モード
 - 12=0 : 通知しない (初期値)
 - 12=1 : 通知する
 - 13 : スティルスコールバックモード
 - 13=0 : コールバックしない (初期値)
 - 13=1 : コールバックする
 - 14 : CTI 機能
 - 14=0 : CTI しない (初期値)
 - 14=1 : CTI する
 - 15 : ITMUX 機能
 - 15=0 : 利用しない
 - 15=1 : 利用する (初期値)
 - 15=3 : 常時 64K 接続
 - 15=4 : 常時 128K 接続

入力例： AT\$PA1=1

補足： 15=1 の場合に RS7 からの「PA」, 「PB」指定が有効となります。
15=3 または 15=4 の場合は、RS7 での「PA」, 「PB」の指定とは無関係に ITMUX 機能は有効となります。
15=4 の場合、無線ポート単独の通信では 128kbps になりません。データポート側からの乗り入れがあったときだけ、128kbps で接続できます。

\$S

機能： ATコマンドで設定したパラメータや、自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。

書式： AT\$\$S

パラメータ： なし

入力例： AT\$\$S

補足： リザルトコード「OK」が返るまでに30秒程度かかります。

\$X

機能： 着信転送や選択着信転送の種類を設定します。

書式： AT\$X <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>

0： 着信転送の種類の設定

0=1： NTT着信転送

0=2： 疑似着信転送（初期値）

0=3： 電話番号着信転送（遊遊メール）

1： 選択着信転送の種類の設定

1=0： 無条件転送（初期値）

1=1： INSなりわけ時転送

1=2： 識別着信時転送

入力例： AT\$X0=1

補足： 本コマンドとあわせて、「\$Y」「\$YM」「\$Z」コマンドを設定してください。

\$Y

機能： アナログボートの着信転送先のアドレスを登録します。

書式： AT\$Y <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ： <パラメータ1> 0： 着信転送先(0)アドレス
1： 着信転送先(1)アドレス
2： 着信転送先(2)アドレス

<パラメータ2> 転送先アドレス(電話番号)

入力例： AT\$Y0=0123456789

補足： 本コマンドとあわせて、「\$Z」コマンドで転送元を設定してください。
相手電話番号は数字で最大32桁まで使用できます。
着信転送先の設定はアドレスだけです。サブアドレスは設定できません。

\$YM

機能： 着信転送を電話番号着信転送（遊遊メール）でおこなう際の、転送先のメールアドレスを登録します。

書式： AT\$YM <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ： <パラメータ1> 0： 着信転送先(0)メールアドレス
1： 着信転送先(1)メールアドレス
2： 着信転送先(2)メールアドレス

<パラメータ2> 転送先アドレス(半角英数字、記号)

入力例： AT\$YM0=abc@def.ghi.co.jp

補足： 転送先メールアドレスは半角英数字・記号で最大40文字まで設定できます。

\$Z

機能：	アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
書式：	AT\$Z <パラメータ 1 > < =パラメータ 2 > < /パラメータ 3 >
パラメータ：	<パラメータ 1 > 0 : 着信転送元 (0) アドレス 1 : 着信転送元 (1) アドレス 2 : 着信転送元 (2) アドレス 5 : トークあり / なしの設定 <パラメータ 2 > 転送元アドレス (電話番号) 以下はパラメータ 1 が 5 のときに使用 0 : 転送トークなし、転送元トークなし 1 : 転送トークあり、転送元トークなし 2 : 転送トークなし、転送元トークあり 3 : 転送トークあり、転送元トークあり (初期値) <パラメータ 3 > 転送元サブアドレス
入力例：	AT\$Z0=9876543210 AT\$Z5=0
補足：	本コマンドとあわせて、「*Z」コマンドで着信番号を設定してください。また、「\$Y」「\$YM」コマンドで転送先を設定してください。 転送元アドレスは数字で最大 32 桁まで使用できます。 転送元サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。 また、「/」以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。 「/」は「/S」コマンドで変更できます。 転送トークの設定は、「NTT 着信転送」に設定したときに利用できます。また、電話番号ごとに設定することはできません。

%C

機能：	PIAFS によるデータ通信時、V.42bis データ圧縮をするかどうかを設定します。
書式：	AT%C <パラメータ 1 >
パラメータ：	<パラメータ 1 > 0 : 圧縮なし 2 : V.42bis データ圧縮あり (初期値) ? : 本データ圧縮の設定内容を表示する
入力例：	AT%C0

S

機能：	S レジスタポイントを指定します。
書式：	ATS <パラメータ 1 >
パラメータ：	<パラメータ 1 > 0 ~ 26 : S レジスタ番号 (初期値 0)
入力例：	ATS0
補足：	詳細は「S レジスタ」を参照してください。

?

機能：	現在の S レジスタポイントの示すレジスタ内容を表示します。
書式：	AT?
パラメータ：	なし
入力例：	AT?
補足：	「S」コマンドと続けることができます。 例) ATS0 + AT? ATS0?

=

機能：	現在の S レジスタポイントの示すレジスタ内容を変更します。
書式：	AT= <パラメータ 1 >
パラメータ：	<パラメータ 1 > 0 ~ 26 : S レジスタ番号 (初期値 0)
入力例：	AT=
補足：	「S」コマンドと続けることができます。 例) ATS0 + AT=2 ATS0=2 詳細は「S レジスタ」を参照してください。

+++

機能： データ通信中に、つながっている回線を切らずにコマンドモードへもどし、コマンドを入力できます。

書式： +++

パラメータ： なし

入力例： +++

! H

機能： マイプライベート着信用アドレスの登録情報を表示します。

書式： AT!H

パラメータ： なし

入力例： AT!H

補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

! SH

機能： 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用アドレスの登録情報を表示します。

書式： AT!SH

パラメータ： なし

入力例： AT!SH

! SZ

機能： 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用アドレスを登録します。

書式： AT!SZ <パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>

パラメータ： <パラメータ1> 0~29(最大30件登録可)

<パラメータ2> 相手電話番号

<パラメータ3> 相手サブアドレス(最大19桁)

入力例： AT!SZ0=1234567890/123

補足： サブアドレスだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は数字で最大32桁まで登録できます。

! UC

機能： 迷惑電話防止用アドレスに登録されている電話番号を削除します。

書式： AT!UC=<パラメータ1>

パラメータ： <パラメータ1> 相手電話番号、P、C、O
(P: ヒツウチ、C: コウシュウデンワ、O: ヒョウジケンガイ)

入力例： AT!UC=1234567890

補足： 入力されたアドレスが全桁一致した場合のみ登録は削除されます。
一致しない場合は「ERROR」と表示します。

! UH

機能： 迷惑電話防止用アドレスの情報を表示します。

書式： AT!UH

パラメータ： なし

入力例： AT!UH

補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

! US

機能： 迷惑電話防止用アドレスを登録します。

書式： AT!US <パラメータ1>

パラメータ： <パラメータ1> 相手電話番号、P、C、O
(P: ヒツウチ、C: コウシュウデンワ、O: ヒョウジケンガイ)

入力例： AT!US=1234567890

補足： すでに登録されているアドレスを再度入力した場合は「Already exist」と表示され、データは更新されません。
最大20件まで登録できます。
相手電話番号は数字で最大15桁まで登録できます。

! VH

機能： ボイスワープ設定電話番号の登録情報を表示します。
書式： AT!VH
パラメータ： なし
入力例： AT!VH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

! VZ

機能： ボイスワープ起動電話番号を登録します。
書式： AT!VZ <パラメータ 1 > = <パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > ボイスワープ番号 (0 ~ 4, 9)
<パラメータ 2 > 起動電話番号または契約電話番号 (32 桁まで)
入力例： AT!VZ0 = 1420
補足： 起動電話番号は初期値のデータがあります。

! WH

機能： 疑似識別リングング用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!WH
パラメータ： なし
入力例： AT!WH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

! WZ

機能： 疑似識別リングング用アドレスを登録します。
書式： AT!WZ <パラメータ 1 > = <パラメータ 2 > < /パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 ~ 29 (最大 30 件まで登録可)
<パラメータ 2 > 相手電話番号
<パラメータ 3 > 相手サブアドレス (最大 19 桁まで)
入力例： AT!WZ0=1234567890/123
補足： サブアドレスだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は、数字で最大 32 桁まで登録できます。

! X

機能： マイプライベート着信の設定をします。
書式： AT!X0 = <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 使用しない (初期値)
1 : 使用する
入力例： AT!X0=1

! Z

機能： マイプライベート着信をする相手電話番号と、着信するポートの設定をします。
書式： AT!Z <パラメータ 1 > = <パラメータ 2 > < /パラメータ 3 > < ;パラメータ 4 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 ~ 29 (最大 30 件まで登録可)
<パラメータ 2 > 相手電話番号、P、C、O
(P: ヒツウチ、C: コウシュウデンワ、O: ヒョウジケンガイ)
<パラメータ 3 > 相手サブアドレス (最大 19 桁まで)
<パラメータ 4 > A、B、PA、PB、PC、PD、PE、PF: 着信ポート番号
入力例： AT!Z0=1234567890/123;A,B
補足： サブアドレスと着信ポートだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は、数字で最大 32 桁まで登録できます。

S レジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	内容	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	「RING」を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	12 (CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ~ 32 , 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信後、所定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間 *1	0 ~ 100	*2	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしません				

*1 CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみ有効です。

*2 CS遅延時間はS26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。

「AUTO」は設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」~「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値を加えた時間になります。

S26値	CS遅延時間
0	AUTO (0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

リザルトコード一覧

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION : V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION : NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL : PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

コードの詳細

BUSY

機能： 相手が話し中のため、接続に失敗したときに送じます。
 書式： BUSY
 出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
次の条件のときに送出します。
(1) コマンドが正常だったとき(「A」「D」「O」コマンド実行時なし)
(2) エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
(3) オンラインコマンドモード時に「ATH」コマンドが入力され、通信が切断されたとき

書式： OK
出力例： OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送出します。

書式： CONNECT <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > なし : 相手と通信状態になりました。
(ベーシックリザルトコードセットのみ)

1200	:	回線速度が 1200bps で接続完了しました。
2400	:	回線速度が 2400bps で接続完了しました。
4800	:	回線速度が 4800bps で接続完了しました。
9600	:	回線速度が 9600bps で接続完了しました。
14400	:	回線速度が 14400bps で接続完了しました。
19200	:	回線速度が 19200bps で接続完了しました。
28800	:	回線速度が 28800bps で接続完了しました。
32000	:	回線速度が 32000bps で接続完了しました。
38400	:	回線速度が 38400bps で接続完了しました。
57600	:	回線速度が 57600bps で接続完了しました。
64000	:	回線速度が 64000bps で接続完了しました。

出力例： CONNECT 38400

RING

機能： 着信があった場合、応答するまで 2 秒間隔で通知します。

書式： RING <パラメータ 1 > <パラメータ 2 > < [パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 発信側のアドレス
<パラメータ 2 > 発信側のサブアドレス
<パラメータ 3 > ユーザ・ユーザデータ

出力例： RING
補足： 発信側のアドレス以降を付加させるには「W」コマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときや、通信中に何かの原因で切断した場合に送出します。

書式： NO CARRIER
パラメータ： なし
出力例： NO CARRIER

ERROR

機能： 次の条件のときに送出します。
(1) 不正なコマンドが入力されたとき
(2) コマンド入力最大文字数を越えたとき
(3) 「D」コマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
(4) パソコンの ER 信号が OFF の状態で発信したとき
(5) アナログポートを使用中に「\$A」「\$B」「\$D」コマンドで設定しようとしたとき

書式： ERROR
出力例： ERROR

COMPRESSION : NONE

機能 : PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
書式 : COMPRESSION : NONE
出力例 : CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足 : PIAFS 通信の V.42bis 圧縮なしで接続したときのみ表示します。

PROTOCOL : PIAFS

機能 : PIAFS 通信で接続したときに送出します。
書式 : PROTOCOL : PIAFS
出力例 : CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足 : PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION : V.42bis

機能 : PIAFS 通信の V.42bis データ圧縮で接続したときに送出します。
書式 : COMPRESSION : V.42bis
出力例 : CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : V.42bis
補足 : PIAFS 通信の V.42bis 圧縮ありで接続したときのみ表示します。

5-3 . RS7 用 AT コマンド

RS7 が対応している AT コマンドについて説明します。

：コマンド実行時に設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。

：「\$」コマンドを実行すると設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。

注：初期値は各コマンドの説明を参照してください。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
O	コマンドモードからデータ通信モードへもどす	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータ初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
&C	CD信号制御設定	1
&D	ER信号制御設定	0
&K	フロー制御方式設定	3
&L1	USBの接続	1

コマンド	機能概要	初期値
&S	DR信号制御設定	0
#R	着信拒否	-
¥D	UIメール表示の設定と表示	注
¥L	発信情報表示	-
¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	各種設定表示	-
\$N	データポートの制御に関する設定と表示	注
\$NP	データポートの設定と表示	-
\$S	パラメータの保存	-
%C	圧縮プロトコル指定	2
S	Sレジスタポイントの設定	0
?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-

各コマンドの詳細

A

機能： 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。
書式： ATA
パラメータ： なし
入力例： ATA

D

機能： 発信して相手を呼び出します。
書式： ATD <パラメータ 1> </パラメータ 2> <パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 相手アドレス (相手電話番号)
 ¥：再発信する
 <パラメータ 2> 相手サブアドレス
 <パラメータ 3>
 ;：コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力します。
 CB：ステイルスコールバックの発信をします。
 DL：デュアルリンクワイヤレスモードで発信します。
 PA：ITMUX同期64Kで発信します。
 PB：ITMUX128KマルチリンクPPPで発信します。
 P0～P7：「通信モード指定発信」(P.105)参照
 D0～D7：「通信モード指定発信」(P.105)参照
入力例： ATD0123-45-6789
 ATD0123-45-6789DL
補足： 相手電話番号は最大32桁までで0～9の数字が使用できます。
 その他の文字は使用しても無視されます。
 相手サブアドレスは最大19桁までで0～9の数字が使用できます。
 また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
 「/」は、「/S」コマンドで変更できます。
 CB、DL、PA、PB、P0～P7、D0～D7は必ず最後に付けてください。
 CB、DL、PA、PB、P0～P7、D0～D7はcb、dl、pa、pb、p0～p7、
 d0～d7でもかまいません。

E

機能： エコーバックするか否かを指定します。
書式： ATE <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0：エコーバックしない
 1：エコーバックする(初期値)
入力例： ATE0

H

機能： 通信を切断します。
書式： ATH
パラメータ： なし
入力例： ATH
補足： 最初にエスケープコマンド「+++」を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。

I

機能： 装置コード、装置メーカーを表示します。
書式： ATI <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0：装置コード(ATコマンドのバージョン:960)を表示する
 4：装置メーカー(Aterm RS NEC Corporation)を表示する
入力例： ATI4

O

機能： エスケープコマンド「+++」を入力したあとのオンラインコマンドモードから、通信状態にもどります。
書式： ATO
パラメータ： なし
入力例： ATO

Q

機能： リザルトコードを返すか返さないかを指定します。
書式： ATQ <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : リザルトコードを返す (初期値)
 1 : リザルトコードを返さない
入力例： ATQ0

V

機能： リザルトコードを数値で返すか英数文字で返すかを指定します。
書式： ATV <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : リザルトコードを数値で返す
 1 : リザルトコードを英数文字で返す (初期値)
入力例： ATV0

W

機能： リザルトコード RING の表示のしかたを設定します。
書式： ATW <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : RING のみを返す (初期値)
 2 : RING の後に続けて相手アドレス、サブアドレス、ユーザ・ユーザデータを表示する
入力例： ATW2
補足： 電話番号とサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。
 電話番号またはサブアドレスとユーザ・ユーザデータの区切りは [] です。

X

機能： リザルトコードセットを指定します。
書式： ATX <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : ベーシックセット
 1 : 拡張セット 1
 2 : 拡張セット 2
 3 : 拡張セット 3 (初期値)
 4 : 拡張セット 4
入力例： ATX0

&D

機能： ER 信号制御を設定します。
書式： AT&D <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : パソコンの ER 信号をみる（初期値）
1 : ER 信号を常時 ON とみなす
入力例： AT&D1

&K

機能： フロー制御方式を設定します。
書式： AT&K <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 または 5 : フロー制御しない
3 または 6 : RS-CS フロー制御する（初期値 3）
4 : XON/XOFF フロー制御する
入力例： AT&K4
補足： 「¥Q」コマンドと同じ機能です。

&L

機能： USB 接続表示の設定
書式： AT&L <パラメータ 1 > <パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 表示
1 : 設定
<パラメータ 2 > 0 : 消灯
1 : 表示

&S

機能： DR 信号制御を設定します。
書式： AT&S <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : ER-ON 時には常に DR-ON（初期値）
1 : 通信中は常に DR-ON
入力例： AT&S1

#R

機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT#R
パラメータ： なし
入力例： AT#R

¥D

機能： UIメール着信時のランプ表示設定と設定内容を表示します。
書式： AT¥D <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 設定内容の表示
1 : ランプ点灯選択
1=0 : UIメール着信時、ランプ点灯しない
1=1 : UIメール着信時、ランプ点灯する（初期値）
入力例： AT¥D1=0

¥L

機能： 最新の発信・着信番号や着信しなかった理由を表示します。
書式： AT¥L <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 最新の発信番号の表示
1 : 最新の着信番号、切断理由の表示
入力例： AT¥L1
補足： SEND CAUSE=切断理由情報です。詳細は取扱説明書の「8-3. 切断理由 / 生成源 / 診断情報の表示」を参照してください。

¥M

機能：	電子メール着信通知時のランプ表示設定と設定内容を表示します。	
書式：	AT¥M <パラメータ 1 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0 : 設定内容の表示 1 : ランプ点灯選択 1=0 : 電子メール着信時、ランプ点灯しない 1=0 : 電子メール着信時、ランプ点灯する(初期値)
入力例：	AT¥M1=0	

¥Q

機能：	フロー制御方式を設定します。	
書式：	AT¥Q <パラメータ 1 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0 : フロー制御しない 1 : XON/XOFF フロー制御する 2 : CS フロー制御する 3 : RS-CS フロー制御する(初期値)
入力例：	AT¥Q0	

¥S

機能：	データポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。	
書式：	AT¥S <パラメータ 1 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 >	0 : データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、信号制御、信号線状態を表示します。 1 : Sレジスタの内容をSレジスタ名とともに表示します。 2 : リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態を表示します。 3 : Sレジスタ内容を表示します。
入力例：	AT¥S0	

\$N

機能：	データポートの設定と表示をします。	
書式：	AT\$N <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >	0 : 設定内容の表示 9 : 無通信監視タイマ 9=0 : 監視しない 9=1 ~ 10 : 1 ~ 10分(初期値 10分) 14 : 強制切断タイマ 14=0 : 強制切断しない 14=1 ~ 10 : 1 ~ 10時間で切断する(初期値 10時間)
入力例：	AT\$N9=2	

\$NP

機能：	内線 PIAFS 通信するときの設定と設定内容を表示します。	
書式：	AT\$NP <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >	
パラメータ：	<パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >	0 : 設定内容の表示 1 : 発信モード 1=0 : PIAFS (32K) で発信する(初期値) 1=1 : デュアルリンクワイヤレスで発信する
入力例：	AT\$NP1=1	

\$S

機能： ATコマンドで設定したパラメータや、自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。
書式： AT\$S
パラメータ： なし
入力例： AT\$S

%C

機能： PIAFS データ通信のとき、データ圧縮をおこなうか否かを設定します。
書式： AT%C <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : 圧縮なし
 2 : V.42bis データ圧縮あり (初期値)
 ? : 本データ圧縮の設定内容の表示
入力例： AT%C2
補足： 32kbps データ通信のときに有効となります。

S

機能： Sレジスタを指定します。
書式： ATS <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 ~ 7 : Sレジスタ番号 (初期値 0)
 詳細は「Sレジスタ」を参照してください。
入力例： ATS0=10

?

機能： 現在のSレジスタポイントの示すレジスタ内容を表示します。
書式： AT?
パラメータ： なし
入力例： AT?
補足： 「S」コマンドと続けることができます。
 例) ATS0+AT? ATS0?

=

機能： 現在のSレジスタポイントの示すレジスタ内容を変更します。
書式： AT= <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 ~ 7 : Sレジスタ番号 (初期値 0)
 詳細は「Sレジスタ」を参照してください。
入力例： AT=
補足： 「S」コマンドと続けることができます。
 例) ATS0+AT=2 ATS0=2

+++

機能： データ通信中に、つながっている回線を切らずにコマンドモードへもどし、コマンドを入力できます。
書式： +++
パラメータ： なし
入力例： +++
補足： データ通信を停止し、1秒間待ってから「+++」を入力してください。
 また、+と+との間は1秒以内に入力してください。
 エスケープ文字はS2レジスタで変更できます。
 通信状態へもどすには「0」コマンドを入力します。「CONNECT」が表示され通信状態へもどります。

S レジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	内容	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	「RING」を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13 (CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ~ 32 , 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信後、所定時間以内に応答がない場合は切断する	30
その他	サポートしません				

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION : V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION : NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL : PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

BUSY

機能： 相手が話し中のために接続が失敗したときに送じます。
 書式： BUSY
 出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
 次の条件のときに送じます。
 (1) コマンドが正常であったとき (A, D, O コマンド実行時はなし)
 (2) エスケープコマンド入力後、オンラインコマンドモードに入るとき
 (3) オンラインコマンドモード時に「ATH」コマンドが入力され、通信が切断されたとき
 書式： OK
 出力例： OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送出します。
書式： CONNECT <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > なし : 相手と通信状態になりました。
(ベーシックリザルトコードセットのみ)
32000 : 回線速度が32000bpsで接続完了しました。
64000 : 回線速度が64000bpsで接続完了しました。

出力例： CONNECT 32000

RING

機能： 着信があった場合、応答するまで 2 秒間隔で通知します。
書式： RING <パラメータ 1 > < /パラメータ 2 > < [パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 発信側のアドレス
<パラメータ 2 > 発信側のサブアドレス
<パラメータ 3 > ユーザ・ユーザデータ

出力例： RING
補足： 発信側のアドレス以降を付加させるには「W」コマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときや、通信中に何らかの原因で切断した場合に送出します。
書式： NO CARRIER
パラメータ： なし
出力例： NO CARRIER

ERROR

機能： 次の条件のときに送出します。
(1) 不正なコマンドが入力されたとき
(2) コマンド入力最大文字数を越えたとき
(3) Dコマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
(4) パソコンの ER 信号が OFF の状態で発信したとき
(5) アナログポートを使用中に「\$A」コマンドで設定しようとしたとき

書式： ERROR
出力例： ERROR

COMPRESSION : NONE

機能： PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : NONE
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信の V.42bis 圧縮なしで接続したときのみ表示します。

PROTOCOL : PIAFS

機能： PIAFS 通信で接続したときに送出します。
書式： PROTOCOL : PIAFS
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION : V.42bis

機能： PIAFS 通信の V.42bis データ圧縮で接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : V.42bis
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : V.42bis
補足： PIAFS 通信の V.42bis 圧縮ありで接続したときのみ表示します。
